

結界師の一輪華

クレハ



る場合があります曷

本電子書籍は縦書きでレイアウトされています曷

また甚ご覧になるリ母ディングシステムにより甚表示の差が認められることがあります曷



 で
 一
 プロロープロロープーグーー

 章章章章
 章 章 章 □ □ □ ブーグーー

 217
 115
 36
 7
 5

四三二一プロコープロロタグ

目次

プロロタグ

日本にはごく一部の者だけが知ることを許された国家機密があっ

た 曷

この島国は遥か遠い昔より五つの柱石によって支えられているとい

うこと曷

もし甚五つの内一つでも失われたら甚日本は災厄に見舞われてしま

うだろう曷

そんな命綱とも言える柱石は甚それぞれ五つの家によって護られて

い た 曷

一ノ宮甚一条院甚三光楼甚四ツ門甚五葉木甚その五つの術者の家いち、みや、にじょういん、さんこうろう、よ、かど、ごようぎ

系である曷

この五つの家は不思議な力により甚その柱石に結界を張り甚遥か昔

よりこの国を外敵から護ってきた曷

外敵には様々なものがいる曷

まずは人間曷しかし人間ならば普通の人間にも対処は可能だ曷

けれど甚柱石を狙ってくる者には人間ではない甚人ならざる者達も

含まれていた曷

それらの者達を甚術者は妖魔と呼んでいる曷

妖魔は柱石の持つ甚国すら支える大きな力を得んとし甚常に柱石を

狙っているのだ曷

者を封じ甚または滅ぼすのが甚五家とその分家に課せられた使命であ そんな者達から護るために柱石に結界を張り甚人ならざる悪意ある

る曷

お話曷

そして甚これはそんな術者の家系に生まれてしまったとある少女の これはほんのひと握りの者しか知らない世のお話曷

柱石を護る一ノ宮の分家の一つである一瀬家曷その一瀬家の者もま

た機密を知ることを許された一握りの者達だ曷

そこでは縁者を呼んでそれは盛大なパゥティゥが行われていた曷

その日は双子である華と葉月の十五歳の誕生日曷

それが華の転機となった日だった曷

華も葉月の隣に座ってはいたが甚両親や招待客が華ではなく双子の

姉の葉月の誕生日を祝いに来ていることはちゃんと理解している曷

ちょっとあからさますぎやしないかと思ったが甚華も今日で十五

歳甚幼い頃からこの扱いの差は慣れっこだ曷

家族への見切りをつけたあの日から甚華の心はこれ以上ないほどに

穏やかだ曷

べ
ら
と
舌
を
出
し
て
や
り
す
ご
し
て
い
た
曷 ような言葉の攻撃を受けるが甚殊勝な顔をしつつ内心ではあっかん それでも両親からは葉月との力の差について甚ちょくちょく嫌みの

この数年でかなり性格が悪くなったことを自覚している曷

葉月ともほぼ会話のない状態が続いていた曷

今日とて顔を合わせるのは数日ぶり曷

ましてやこんなに近くに座ることすらいつ以来だろうか曷

少し寂しく思う気持ちと甚もう昔とは違うというひどく冷淡な気持

ちが混在していた曷

笑顔を皆に振りまいていたが甚その一方で葉月の残りカスの評価を受 葉月に目を向けると甚相変わらずの人気者で甚太陽のような明るい

た 曷

周 囲の期待を受ける葉月の評価は華とは正反対で甚明るく優秀で人

当たりのいい完璧な人曷

そんな葉月に昔は憧れていたが甚最近になって分かってきた曷

あれは見せかけだけのものだと曷

双子だからこそ気付いたのかもしれない曷

あの葉月の表情は嘘に溢れていると曷

人に好かれる笑顔曷どうすれば人によく見られ甚どんな言葉をかけ

れば優秀ないい子と評されるか甚葉月は計算して演じている曷

昔はもっと自然な笑顔だったはずなのに..

れない曷

さっさとこの葉月のご機嫌伺いのための誕生日パゥティゥが終わら

ないかなと思っていた華に甚それは唐突に起こった曷

華は自分を透明人間のように扱う周囲を気にすることなく甚皿の上

のケゥキでなんの感動もない誕生日を実感していた曷

特別なにかをしたわけではない曷本当にただケゥキを食べていただ

好で普段から丈夫だけが取り柄である曷

それなのに急に体が熱を帯びたようにカッと熱くなる曷前触れもな

い突然のことに華の手が止まった曷

内にあった熱が外に放出されていくような感覚の後甚まるで卵の殼

感じた.....曷

* * *

柱石を護る五つの術者の家の一つ甚一ノ宮曷

その一ノ宮の分家の一瀬家は昔こそ分家内での発言力も強く甚一ノ

宮の当主からも一目置かれた存在だったが甚強い術者が生まれなく

なって久しい曷

それに従い分家内での発言力も地位も下がっていった曷

そんな一瀬家には女児の双子がいた曷

その妹である華は甚常に優秀な姉の葉月と比べられる毎日だった曷

どうしようもないことであった曷 ほどの差があるぐらい葉月が突出していたので甚華が比べられるのは 双子であり甚容姿はよく似た二人だが甚術者としての能力は天と地

花させており甚両親や周囲の期待は自然と高まる曷 葉月は本家である一ノ宮の術者に匹敵するほどの能力を早くから開

特に父親は今の一瀬家の立ち位置に不満を持っており甚いつか返り

咲いて見せると強い野心を抱いていた曷

それにより葉月へ異常なまでに大きな期待を寄せていったのだ曷

見ては両親が溜息を吐くことに甚華は小さな頃から胸を痛めていた曷 そして甚葉月とは違い甚いつまでも術者としての能力が低い自分を

双子なのだから甚自分も葉月のようになれると信じて華は必死で勉

強した曷

術者としての修行だってした曷

けれど現実は残酷で甚華の力が強まることはなく甚いつも葉月の添

え物甚姉の残りカスと言われ続けた曷

葉月はその容貌からしても幼いながらに目鼻立ちの整った大人っぽ

い美しさを持っており甚その笑顔は花がぱっと開くようなその場を明

るくさせる魅力があった曷

能力も高く甚性格も明るく人怖じしない社交的な葉月が周 りから好

まれるのは自然の流れであり甚常に彼女は人の輪の中心にいた曷

が甚葉月と比べられると見劣りしてしまう地味で幼げな顔立ち曷 双子なのだから容姿は似ており甚華も美しいことは間違いないのだ

葉月のふんわりと色素の薄い髪と甚華の真っ黒な直毛が与える印象

でも違うだろう曷

性格もあまり社交的な方ではなく甚目立つのが好きではない曷

だから人々に囲まれている葉月を遠くから見ては甚華は眩しくて近

寄りがたく感じていた曷

周囲から比べられることが多い故に甚華自身も葉月と自分を比べて

しまい甚一人勝手に落ち込んでしまう曷

だが姉妹仲は決して悪くはなかったと思っている曷小学校低学年ぐ

らいの年の頃は.....曷

葉月へ一心に期待を寄せる両親はおのずと華への関心が低かった

が甚葉月は落ち込む華をよく慰めてくれていた曷

そんな優しい片割れは華にとっても自慢の姉だったのだ曷

まだこの頃は二人もよく話をしていた曷

学交のことや友人のこと甚そしてお互いの不平不満なんかを易

葉月は甚周囲からの期待が嬉しいと同時に大変だとよくもらしてい

た 曷

それは期待されない華からしたらなんと贅沢な悩みだろうか曷

普通ならこんなにも優遇される葉月になにかしらの負の感情が芽生

えそうなものだったが甚不思議と姉への妬みは湧いてこなかっ だからこそ甚双子は仲よくやれていたのかもしれない曷 た 曷

だが甚決定的な差が生まれてしまう曷

それは十歳の時甚初めて式神を作り出す日のこと曷

式 |神を作り出すことは術者となるための最 初の試験と言ってもい

い曷それができた者が甚術者の見習いとして一族に迎え入れられるの

だ曷

それ故に術者の家にとって十歳のこの日は特別な日として甚大々的

に親族を呼んで祝うのだ曷

家の広い庭には地面に五芒星が描かれ甚その周囲に蠟燭が灯されて

い る 曷

その前で緊張した面持ちでいる華と葉月曷そしてそんな二人をたく

さんの大人達が眺めている曷

式神とは甚術者の力を注ぎ込み生み出す甚術者の手足となる存在で

自分の分身とも言える曷

術者の能力の高さにより生み出される式神の姿や力の強さも変わっ

てくる曷

強い式神は人の言葉を話し意思疎通を図ることができる曷

華は甚味方と言える存在の少ないこの家で甚自分の甚自分だけの裏

切らない友人を得られることをことのほか喜んでい

そして甚そんな華が作り出した式神は甚蝶曷

虹色の羽を持ったとても美しい蝶だったが甚虫は最下位の弱い式神に

と言われていた曷

華は初めての式神に喜んだものの甚最も位の低い弱い式神しか作れ

なかった華を見て甚最後に残っていた一欠片の期待すら失っていく両

親の表情が強烈に印象に残った曷

華は今度も両親の期待には応えられなかったのだ曷

落ち込む華の横では甚葉月が式神を作り出していた曷

それは式神の中では最高位とされる人型の式神曷

周囲はにわかに沸き立った曷

華や葉月と同じ十歳ぐらいの男の子の姿をした式神であったが甚人

11011日ニニト11

12::1

,

のだ曷

二人には兄の柳がいる曷彼も将来有望と言われているが甚その柳で

すら人型の式神を作り出すことは叶わなかった曷

だから両親や兄が葉月のことを褒め称えることはなんらおかしなこ

とではない曷

けれど...

忘れ去られたようにぽつんと取り残された華は寂しげで甚そんな華

にひらひらと虹色の蝶が寄り添う曷

葉月の作ったものとは違い言葉も話せない華の式神曷

会話なんてものはできないけれど甚この蝶は華を心配してくれてい

るとなんとなく尽した長

匍 ありがとう曷あなたは私の側にいてくれるのね盗

そうだと返事をするように甚蝶は華の肩に止まった曷

両親にすら見限られてしまった自分なんかの側にいてくれる曷

それが泣きそうなほど嬉しかった曷

匍あなたの名前を決めなきゃね曷なにがいいかな?盇

ふと思い浮かんだ名があった曷

匍あずは甚なんてどう? ・ 綺麗なあなたにぴったり
益

虹色の蝶は嬉しそうに甚ひらひらと舞うように華の周りを飛び回っ

た 曷

自分の甚自分だけの味方曷

言葉は発せられないけれど甚この瞬間甚華にとってあずははかけが

えのより字生によっ、こ易

シングレイネッカ・ブを

しかし甚あずはという存在を手に入れたと同時に甚華は仲がよかっ

たはずの葉月とすら距離ができてしまうことになる曷

葉月に術者としての才能を期待した両親は甚すべての関心を葉月へ

と向けていくのだった曷

葉月にのみ優秀な家庭教師をつけて甚術者としての才能をさらに伸

ばそうとした曷

華が自分も勉強したいと申し出ようものなら匍葉月の邪魔をする

な!盇と□責されてしまう始末曷

仕方なく甚華は自分で本を開いて自己流の勉強をするしかなかっ

医易

さらには甚様々な習い事をさせてもらえる葉月と甚なにも用意され

ない華との格差は広がっていく曷

国を支える一ノ宮の分家たる華の家も裕福であったために 甚両 . 親が

葉月に構ってばかりで華をほったらかしにしていても甚家には華の世

話をしてくれる使用人がいたのは幸いだった曷

そうでなければ甚華は存在すら忘れ去られ甚食事にすらありつけな

かったかもしれない曷

そんな心配をするほどに甚葉月との扱いの差は顕著だったのだ曷

それだけ両親が葉月に期待しているということなのだが甚放ってお

かれる方としてはたまったものではない曷

兄の柳は甚妹の華から見てもなにを考えているか分からない甚無口

であまり表情の出ない人だった曷

そんな兄でもさすがに葉月が人型の式神を作り出した時には甚珍し

く笑顔で葉月を褒めていた曷

うげ
ま
已
下
り
コ . > ノよりっここううこ

を見ているのだろうなと華は思っていた曷 そんな兄だから甚表情には出なくとも甚両親と同じような目で自分 あずにを作り出した事のことに一瞥でとしたたったとしこのに思

いことになってしまった曷 と甚同じ屋根の下で暮らしているにもかかわらず甚何年も会話をしな そのせいか自然と兄へ苦手意識を抱いてしまい避けるようになる

なっていったのだ曷 家庭教師に習い事もしてと甚日々忙しくしている葉月とは会話もなく けれど甚それは双子の片割れのはずの葉月とも似たようなもので甚

これまでは二人の時間が必ずあったのに甚そんな時間すら取れない

ことを華は寂しく感じていた曷

だから思い切って葉月に話しかけたことだってある曷

けれど甚子共とは思えなハまどこスケジュ & ルを管理されてハる某

リストヨマスー

月には甚華と話している時間はないと言わんばかりに母親に制され

た 曷

匍華 甚葉月はあなたとは違うの曷葉月はこの一瀬家の希望なの曷あな

たの 無駄話で甚葉月の大事な時間を一秒たりとも無駄にすることは許

しませんよ姦

匍.....はい曷お母さん盇

それならと葉月から話しかけてくれることを願ったが甚 一家が集ま

る夕食時だとしても葉月は両親とだけ話しており甚華に話しかけてく

れることはなかった曷

で取るようになってしまうと甚母親は葉月に付き添い甚父親も忙しい そして甚中学に入学する頃に勉強が忙しいからと葉月が夕食を自室

からと姿を見せなくなり甚十歳上の兄は本格的な術者としての仕事に

出るようになって家に帰らなくなった曷

残ったのは華一人だけ曷

広い食卓でたった一人食べる食事はまるで砂を嚙んでいるような気

分で甚美味しさを感じない曷

せめて孤独を感じなくてすむように華も食事は自室に運んでもらう

ようになった曷

なぜこうなったのか華には分からない曷

少し前まで多少の扱いの差に悩みはしたものの甚まだ家族と言えて

いた曷

けれど甚今の家族は家族と言えるのか曷

否定したいのに否定できないほど甚今の家族はバラバラだった曷

力のない自分が曷

葉月のように優秀ではない自分が曷

けれど甚それがどうしたというのだろうか曷

そんなものに振り回される両親が甚葉月が甚なにより自分が滑稽で

ならなかった曷

華はその日のことを思い出す曷

家庭教師もつけてもらえないため甚独学で必死に勉強した華にこの

日試験の結果が返ってきた曷

我ながらうまくいったのではないかと自信のあった試験は甚華の予

想通り平均点を大きく上回る九十点という数字を出した曷

その答案用紙を持って父親の下へ喜び勇んでいけば甚返ってきたの

よく こ ~ Bと iiii ノ mi まな ざ

に だ た に 能 差 し を

当然のように満点を取ってきたんだぞ曷それなのにこの程度で喜ん が弱いのだから盃 で曷もっと葉月を見習ったらどうなんだ曷お前はただでさえ術者の力 匍なぜ満点が取れないんだ曷だからお前は駄目だと言うんだ曷葉月は

喜んでくれると思った華は予想外の □責に涙が出そうになるのを

ぐっとこらえた曷

匍せめて座学ぐらい葉月を追い越してみせなさい盇

匍.....ごめんなさい盇

浮かれた気持ちは見る影もなく甚落ち込んで自室に帰ることになっ

た 曷

慰めるようにあずはが華の目の前をひらひら舞う曷

くを担引して しごううきり [こ1.うョコンで目がさえ

た 曷

瀬家の使用人は甚親から放置されている華に同情しており甚なに

かと世話を焼いてくれる曷

その筆頭たるのが甚この紗江だ曷

母よりも年配で白髪交じりの女性は甚いつも優しく華に笑いかけて

くれて甚華の大好きな人だ曷

そんな紗江がお盆にケゥキを載せて持ってきた曷

テゥブルに静かに置かれたケゥキにはおめでとうとチョコで書かれ

たプレタトが載っている曷

匍紗江さん甚これどうしたの?盇

匍華様がよい成績を取られたそのご褒美ですよ

視です

う

憂めな

いそ

れを

也人が

裹めてくれる

易

匍華様は頑張っておられますよ

自分で言っていて傷付く曷

本当のことだと自分でも分かっている曷

どうしたら父と母は自分を見てくれるのだろうか曷

考えても分からない曷なにせ甚術者の能力は天性のものだ曷努力し

てどうにかなるものではない曷

落ち込む華に対して甚紗江はそんな沈む心ごと切って捨てた曷

匍子の頑張りが分からぬ親など捨て置きなさいませ盇

それはとても厳しい言葉だった曷

使用人が当主夫婦に対して口にする言葉としては過ぎたものだっ

た 曷

思わず華も呆気にとられると

匍親に媚びる必要はないのですよ甚華様盇

紗江はそっと華の手を握る曷その手は温かく甚そしてその顔はとて

も慈愛に満ちた微笑みを浮かべていた曷

母にすら向けられたことのないその表情に甚華は動揺する曷

匍ちゃんと見ている者は見ています曷もちろん私も曷ですから甚華様

は華様らしく生きてください盇

そう言って紗江は部屋を出ていった曷

残されたのはテゥブルの上にあるケゥキだけ曷

一人残された部屋で甚先程の紗江の言葉がじわじわと華の心に染み

こんでいく曷

葉月だけでなく自分も見てほしかった曷そのための努力は惜しまな

ソっこ号

自分もいるのだと認めてもらいたかった曷

だが甚そうか甚自分は媚びていたのか曷

匍くっ甚ふふふっ 盗

なぜか笑いが込み上げてきた曷

端から見たら変人だ曷けれど笑いが止まらなかった曷

匍あはははつ.....はぁあ..... 益

笑い疲れると甚大きな溜息と共に華は畳の上に大の字になって寝転

がった曷

確かにそうなのかもしれない曷

なにをしても葉月と比べ甚華の頑張りにもたった一言すら褒める言

削りにより回り

最近では食事を共にしなくなったことで甚顔を合わせることすらな

い日だってある曷

もはや血が繋がっただけの他人となりつつあった曷

そんな人達の顔色をいつまで窺わなくてはならないのだろうか曷

これから先もずっと?

そう考えた時甚そんなのは嫌だと強く思った曷

だって悲しいではないか曷

見てくれないと分かっているのにすがりつき甚いつか見てくれるこ

とを願い続ける曷

振り向いてくれないことを薄々分かっていながら.

それのなんと惨めなことだろうか曷

もっと自由でいたい曷誰にもはばかることなく自分の好きなように

生きたい曷

誰かの言葉や態度に一喜一憂するなんて馬鹿みたいだ曷

ちゃんと頑張った自分を褒めてあげたい曷

他の誰が認めてくれなくとも曷自分だけは

そう思ったら甚すとんと心が楽になった曷

それまであった苦しみとか悲しみとかいった華を苦しめる感情が甚

別のなにかに吸収され一つの固く強いものになったような気がした曷

残ったのは甚諦めと許し曷

この時から華は両親からの言葉や周囲の評価が気にならなくなった

上に甚自分から求めようとは思わなくなった曷

自分はじゅうぶんに幸せであることに気が付いたのだ曷

だって甚自分にはあずはがいる曷なににおいても味方でいてくれる

相棒が曷

そして紗江のように華をちゃんと見ていてくれる者だっている曷

今この手の中にはこれだけのものがあるではないか曷

なにを嘆く必要があるというのだろう曷

たくさんのものを諦めたことで甚華はずいぶんと生きやすくなっ

た 曷

まるで生まれ変わったかのような爽快感易

そうすると甚客観的に家族のことを見られるようになった曷

生まれた時から一緒の片割れ曷

同じようでありながら同じではない双子の姉曷

華より遥かに強い術者としての能力曷

出来損ないと言われ続けた華の自慢であり憧れの存在曷

だが甚果たして本当にそうなのかと甚見ていて思った曷

華には両親の期待がまるで葉月をがんじがらめにしているように見

えたのだ曷

朝起きて甚学校へ行き甚帰ってからも休む暇がないほど管理された

それだけ両親は葉月に一瀬家の未来を託しているということなのだ

が甚華から見たらそれはとても窮屈に思えた曷

葉月は満足しているのだろうか曷

悶々とする中甚久しぶりに葉月と話せる機会が訪れた曷サムルルル

匍先生が急病らしいわ盇

より受よし、いまけ、つ見やこ

懐かしさがあった曷

葉月と話せて華は素直に嬉しかったのだが甚葉月の方はどことなく

よそよそしく雰囲気が変わったような気がする曷

そして甚なんとなく疲れているようにも見えた曷

だから華は思わずその問いかけを口から出してしまった曷

匍葉月はしんどくないの?盇

匍どうしたの甚急に盗

匍あんな過密スケジュゥルを毎日課されて葉月はつらくないの? 遊

ぶ暇だってないし曷お父さんとお母さんにはもう少し休みをもらえる

ように言ってもいいんじゃない? 言いづらいなら私が..

匍余計なことしないで!

突然の葉月の激昂に驚いた華は甚中途半端に口を開いたまま固ま

ですら私を必要とするわ曷私は落ちこぼれの華とは違うのよ! 盗 んだから曷才能のない華には分からないだろうけど甚いつか本家の人 匍勉強も習い事も私には必要なことなの曷私は皆から期待されている

匍葉月..... 盇

匍今後私のことに口を出さないで! 華には術者のことなんかなんに

も分からないんだから盔

そう言い放つと甚葉月は華を振り返ることなく行ってしまった曷

呆然とすることしかできなかった華は甚何も言い返せないままに立

『ラー፱/w

華は葉月が自分のことを下に見ていたということに少なからず

ショックを受けていた曷

だがまあ甚仕方ない曷これまで散々比べられちやほやされれば甚否

が応でも華を下の立場に置いてしまうというもの曷

少ししてからようやく冷静に頭が回り出した曷

華は紗江のおかげで両親の期待という枷から抜け出すことができた

が甚葉月はまだそこに囚われたままなのだろう曷

そう簡単に抜け出すことができないのはよく分かる曷

それはまるで洗脳のように甚こびりついて離れないのだ曷

不憫ではあるが甚下に見ている華から何かを言われたとしても甚系が

きっと先程のように聞く耳は持たないだろう曷

華はやれやれというように溜息を吐いた曷

匍葉月自身が気付かなきゃ意味ないか

仕方ないことだと思いつつ甚あんな言い方をされれば腹も立つ曷

* * *

しか家族のことすら他人事のように感じるようになっていった曷 となく時は進んでいく曷 ことなく甚そして持つこともなく甚大人へとなっていくのだろう曷 そんな生活はどこか華の性格を歪ませ甚それは誰にも気付かれるこ きっとこれからもそれは変わることなく甚家族から関心を持たれる それからもたくさんのものを諦め甚たくさんのものを許容し甚いつ

けれど自分にはあずはがいる曷大事でかわいい自分の味方曷あずは

カしるだらそれてししと思ってした思

異変が起こった十五歳の誕生日までは曷

ケゥキを食べている最中に起こった変調に甚華は内心動揺が隠せな

い 曷

古いものが剝がれ新しいものが表へ出てくるような.. : : 曷

あるいは甚それまで内にあったものが殼を破って出てくるかのよう

な感覚が華を襲ったのだ曷

その直後甚華の中から感じたことのない大きな力が溢れ出してき

た 曷

匍.....っ 盇

思わず胸を押さえ甚その力を抑え込む曷

匍どうしたの?

やはり双子だからだろうか曷

華 の異変に誰より早く.....いや甚ただ一人気付いたのは葉月だっ

た 曷

匍顔色悪いわよ? 盃

匍そう?

平静を装いながらも甚内心で華はかなり慌ててい た 曷

しかし甚わずかに残った冷静な部分が甚この場にいるのは止めてお

いた方がいいと訴えている曷

華は急がず騒がず立ち上がった曷

葉月が心配そうな顔を向けてくる曷

まだ心配してくれるだけの情は残っているのかと甚なんとも言えな

い感動を覚えたが甚それも一瞬のこと曷

すぐに自分のことで手がいっぱいになり甚葉月に構っている余裕は

なかった曷

匍 ちょっと体調悪いから部屋で休んでくる盗

匍大丈夫なの? 益

それだけを言い残して甚華は部屋を出た曷

どうせ甚招待客の誰もが葉月さえいれば満足なのだから甚華一人い

なくともどうとも思わないだろう曷

人目がなくなるや甚華は急いで部屋に向かった曷

この数年の間で甚華の部屋は母屋から離れへと移動していた曷

) --

だ 曷

紗江などはちょくちょく顔を出すし甚十歳からずっと側にあずはが

いるので甚寂しいと感じるより甚家族と明確な距離が保てて華は満足

だった曷

術者の能力が低いことを甚顔を合わせる度に両親からなじられるこ

とも激減した曷

この離れに移ることは華の願いだったが甚誰も使ってないからとす

ぐ許可が下りたのは幸いだった曷

両親としては甚落ちこぼれの華が目障りだったのかは分からない

が甚邪魔の入らない聖域を手に入れられて嬉しかった曷

そんな安心できる離れに戻った華は甚そのままベッドへと倒れ込ん

だ 曷

あずはが心配そうに周囲を飛び回るが甚蝶であるあずはになにかが

できるわけでもない曷

華は自分で自分を抱き締めるようにしてうずくまった曷

熱い曷胸の奥が曷そして熱が体を巡り外へ出せと言わんばかりに暴

れ回る曷

華は熱にうなされ続けて甚翌朝..... 易

まるで昨日のことが嘘のように熱は引いていた曷

むしろこれまで以上に体が軽い気すらする曷

それと同時に華は気付く曷

自分の内に宿る甚大きな大きな力に曷

誰に教えられるでもなく甚華はこの力がなんなのかを理解してい

た 曷

力自身が華に教えてくれるという方が正しいかもしれない曷

匍あずは曷こっちにおいで盃

華が唯一の式神を呼ぶと甚あずははひらひらと華の差し出した人差

し指に止まった曷

そして甚華は身の内に湧き上がる力を少しずつあずはへと送り込ん

だ 曷

決して性急になりすぎないように甚あずはが受け入れられるように

ゆっくりと甚そして確実に流していくと甚あずはの羽がより一層鮮や

かに色付いていく曷

力を送るのを止めてあずはを見る曷 これ以上は無理だというようにあずはが人差し指から飛び立った曷

すると甚なんということだろうか曷言葉を扱えないはずのあずはか

ら確かにその声は届いた曷

重うん甚あるじ様.....紂

少し舌っ足らずな幼子のように性別の分からぬ声曷

ああ.....曷自分の感じたものに間違いはなかったと華は確信した曷

華はようやく手に入れたのだ曷

長く長い諦めの末に甚術者としての強い力を曷

そして甚きっとこの力は葉月すらも超えるものだろうと感じた曷

華 は無限に湧き出てくるかのような力を身の内に感じて甚両手で顔

を覆った曷

この感情に名をつけるならなんというのだろうか曷

華には分からない曷

重あるじ様甚泣いてるの?紂

匍.....ううん曷泣いてないよ盇

重悲しいの?紂

匍悲しい.. ...のかな? 嬉しいのかも曷.....ううん曷やっぱり悲しい

のかな? なんて表現したらいいのか分からないの盗

ずっと仕方がないと思っていた曷

自分の術者としての力が弱いのはどうしようもないのだと曷

葉月と比べられては悲しく甚辛く甚そしていつしか諦めることを覚

えた曷

それが今になって力が目覚めるだなんて誰が想像しただろう曷

華自身ですら未だに信じられない曷

しかし甚内に感じるこの途方もない力は確かに華の中を巡ってい

た 曷

まるで最初からそこにあったかのように甚違和感なく華の中にあ

る曷

諦めたはずの力が今ここに存在している曷

嬉しい曷けれど甚なぜ今更とも思う曷

もっと早くに手にしていたら自分は苦しまなかった曷羨まなかっ

た曷劣等感に苛まれなかった曷

匍ほんと甚なんで今なのよ盗

遅すぎる曷

誰に対して文句を言えばいいのだろうか曷分からない曷

重あるじ様?紂

心配そうに様子を窺うあずはに気が付いて甚華はようやく笑顔を見

せた曷

匍大丈夫よ甚あずは曷それよりも甚やっとあずはと話せるね盗

重うん曷嬉しい紂

匍私も嬉しい盗

弱いはずの蝶という式神曷

しかし甚今のあずはからはとても強い力を感じる曷

このままではすぐに周囲に気付かれてしまうだろう曷

重やってみる紂

しばらく様子を見ていると甚光り輝くような色鮮やかさがあずはか

ら消え甚これまで通りのあずはに戻った曷

それと同時に甚あずはから溢れる力も小さくなっているのを感じ

る曷

重あるじ様甚どう?紂

匍うん甚上手にできてるよ曷これからは必要な時以外はずっと力を隠

しててね盇

重他の人に教えないの? せっかくあるじ様甚強くなったのに紂

匍教えない曷これは私とあずはだけの秘密ね盇

あずはは不思議そうにしつつ甚華が望むならと深くは考えず返事し

た 曷

重分かった紂

華とて考えなかったわけではない曷

葉月すらも超えるような力が覚醒したと知れば甚きっと両親は喜ぶ

だろう曷

そして甚よくやったと褒めてくれる曷

葉月の出涸らしと言っていた周囲だって華を見直すはず曷でが

だが甚それがどうしたというのか曷

これまで彼らが華に対してしてきたことがなくなるわけではない曷

蔑み甚失望し甚嘲笑い甚放置してきた両親や周囲の者達のしたことさげす

を華は忘れてはいない曷

それが甚力を得た甚ただそれだけでころりと変わる様など見たくも

ない曷

それに.曷と甚華は葉月のことを考える曷

期待を一 身に受けた葉月の殺人的なスケジュゥルと甚周囲からの重

土を弱

優等生の仮面を被る葉月は甚よく思われようと言われるままに従っ

ているが甚両親や周囲への疑心に満ちた華は従うつもりなどない曷

認められたいと思っていた時はとうの昔に過ぎ去っている曷

だからこのままで曷

葉月の出涸らしのまま甚生きていってやる曷

両親の思う通りに生きてなどやるものかと甚これまでの育ち方で

すっかりひねくれてしまった華は甚力を隠していくことを誓う曷

匍誰かの意味のない期待はいらない曷そんなものゴミ箱に捨ててや

る曷私が目指すのは葉月のような優等生なんかじゃなく甚自由に生き

ること曷誰の思惑にも左右されたりしない甚私が私らしくいられる生

活の死守!奋

そのためにはこの力は内緒の方が絶対にいいはず曷

今更手のひらを返したようにまとわりつかれるのは華の望むところ

ではない曷

爪の先ほども親と周囲の人間を信用していない華の最良と思う選

択曷

匍いつかこの家を出るまでは大人しくしていよう盗

紗江のように華のことを見てくれている人には申し訳ないが甚静か

な暮らしを続けるためには必要なことだと自分を納得させた曷

いつの日か甚この家から解放される日まで曷

華の力が覚醒してから数年曷

早いもので華は高校三年生甚十八歳となった曷

覚醒してから徹底的に隠し続けたおかげで甚双子である葉月にすら

気付かれてはいない曷

まあ甚そもそも葉月と顔を合わせることすら少ないのだから当然と

言えば当然かもしれない曷

しかし甚暇があれば様子を見に来てくれる紗江を始めとした使用人

にも気付かれてはいないので甚華が隠すのが上手いのは確かだろう曷

瀬家に仕える使用人も多少なりとも術者としての力を持ってい

術者の力を持ちながらも甚実践で使えるほどではない者は甚術者の

家系を補佐するため術者の家に仕えたりするのだ曷

柱石に関することは門外不出の極秘事項なので甚秘密を守るために

も一般の人を雇えないというのもある曷

なので甚使用人といえども力に対しては敏感だ曷

そんな使用人にも今のところは落ちこぼれと見られている曷

時々顔を合わせる両親から嫌みを言われる度に甚紗江の方が怒りの

交じった悲しそうな顔をするので心苦しいが甚本当のことを言うわけ

にもいかない曷

どこからばれるか分からないのだから曷

だが甚真実がどうだったとしても甚華は両親の言葉を気にしなかっ

ただろう曷

紗江のおかげでとっくの昔に吹っ切ることができていたのだから曷 なので甚毎度毎度の両親のとげのある言葉も華にとっては馬耳東風

状態曷

しかし甚殊勝に聞いているっぽく振る舞うので甚両親は言いたいこ

とをぶつけると早々に満足するようだ曷

ここ数年でずいぶんと演技が上手くなった気がする曷

将来は女優になろうかなどと甚冗談交じりであずはと話していたり

するのは二人だけの秘密だ曷

そんな華が通う高校は甚術者を養成する黒曜学校曷

からくこの黒曜学校に入学しているとあって甚ほぼ強制的なものだっ 本当は普通の人間が通う学校がよかったのだが甚一瀬家の者はすべ

た 曷

いくら華が落ちこぼれと認識されていても甚式神を作れるほどの力

がある以上甚他の選択は許されなかった曷

黒曜学校は生徒の術者の能力の強さごとにランク分けされクラスが

決められている曷

優秀な者が集まるAクラス曷普通なBクラス曷そして甚術者として

は弱い

に

クラス

曷

落ちこぼれを演じている華は当然一年生の時からCクラスだ曷

入学式でCクラスに分けられたと落ち込む生徒達の中甚心の中で

ガッツポゥズをしたのはきっと華だけだろう曷

人目がなければ甚勝利の雄叫びを上げていたかもしれない曷

両親は華のクラス分けを見ると甚さっさとその場を離れていった曷

ハや甚一応確認に来たのだから甚わずかばかりは期待していたのか もう失望するだけの期待は小指の先ほどもないといったところか曷

もしれない曷

これまでは葉月と比べて弱いと決めつけていただけで甚世間 般の

評価は違うのかもしれないと曷

だが甚葉月ではない他者と比べても落ちこぼれと知らしめられて甚

残っていた興味も失せた様子曷

華としてはウェルカム曷試験にひたすら力を隠して臨 んだの は甚そ

んな両親の興味を引きたくない故なのだから甚すべて華の思惑通りで

ある曷

今さら手のひら返しで媚びられても気持ち悪いだけだから曷

最初から葉月と分け隔てなくとまではいかずとも甚きちんと華にも

親として関心を向けていたら華も喜んで力の覚醒をすぐに話し甚家の

ために尽力しただろうに曷

今や華の両親への情は他人よりも希薄だ曷

両親は自分達の傲慢により甚大きすぎる魚を逃がしたことに未だ気

付いていない曷

今後も気付かないことを切に願うばかりだ曷

そうして甚ひたすら底辺で過ごしてきた高校生活は甚一 一部のことを

除いてとても過ごしやすいものだった曷

優秀な者の集まるAクラスともなると甚一年生の時から実践授業が

行われたりする曷

それは実際に現場へ出て甚柱石を狙う妖魔を封印甚または滅ぼすのきれは実際に現場へ出て甚柱石を狙う妖魔を封印甚または滅ぼすの

だ 曷

もちろん最初は現役の術者の補佐程度だが甚二年生甚三年生にと上

がるにつれ甚それはより本格的な戦いへと変わっていく曷

を持った者は皆無なので甚のんびり安全な学校で授業を受けている曷 危険な場所に出ることもなく甚出たとしても後方支援程度だ曷 その一方で華のいるCクラスはというと甚実戦に出られるほどの力 三年生になれば甚Bクラスですら現場に連れ出されるようになる曷

戦える者は戦い甚戦えない者は後方にて補佐をしたり戦いの後始末

とはいえ甚その後方支援も立派な役目である曷

をしたりするのだ曷

れている以上甚AクラスやBクラスの生徒からは蔑みの対象となって しまうのは仕方がない曷 決して軽んじていいものではないが甚やはり学校内でランク分けさ

それは葉月という優秀な姉を持つ華に対してより顕著に表れてい

た 曷

華が学校を歩く度に聞こえてくる甚嘲 笑と陰口曷

慣れっこだが甚鬱陶しいことこの上ない曷

その問題さえなければ甚楽しい学校生活ではあるので甚残念でなら

ない曷

まあ甚葉月と比べられ蔑まれることを承知の上で力を隠しているの

だから甚文句を言えたことではないのだが曷

匍あっ甚華ちゃんのお姉さんだ盃

そう声を上げたのは甚華の友人の三井鈴曷

薄茶色のボブカットの髪で甚ほわほわとした柔らかい雰囲気を持っ

た優しい子だ曷

華を葉月の妹としてではなく甚きちんと個人で見てくれる貴重な人

間曷

類されるが甚小動物のようなかわいさのある彼女にはぴったりの式神 その肩には式神であるリスが乗っていた曷式神としては弱い方に分

だと思う曷

多くの人は甚葉月と似た顔をした華のことを珍獣でも見るかのよう

な興味津々の目で見てくる曷

そして最後は葉月と比べて甚嘲るか甚かわいそうな子を見る目を向

けてくるのだ曷

けれど甚鈴はとても自然だった曷

葉月の妹と知っても甚それがどうしたの? と言わんばかりに曷

鈴 と出会えたことだけでも甚この学校に入学したかいがあったと

思っている易

I/. - | | : | 1

鈴の声で窓から外を見下ろせば甚葉月がたくさんの同級生に囲まれ

ているのが華にも見えた曷

匍相変わらず人気者だねえ甚華ちゃんのお姉さん盃

鈴は感心するように呟いた曷

明るく人を惹きつける笑みを浮かべている葉月だが甚それが偽物だ

と気付いている華としては甚なんとも複雑な気持ちだ曷

葉月にはこれまでそれとなく苦言を呈してきた曷

親の言いなりになっていることに対し甚このままでいいのかと曷

けれど甚その度に拒絶され甚葉月はいい子ちゃんでいることを選ん

できた曷

今も甚周囲が望む優等生を演じている曷

華にはどう転んでも甚葉月のように周囲が望む優等生にはなれな

い 曷

だから甚愛嬌を振りまく葉月を見て思うのだ曷

匍今日もご苦労様です
益

華は葉月を見てそう呟いた曷

葉月に忠告しながらも甚彼女がいてくれるおかげで両親の関心はす

べて葉月に向けられている曷

それは力を隠し続けている華にとってはとても助かることだった曷

匍そうだ甚華ちゃん曷この間配られた進路希望の紙になんて書い

た ? 盇

葉月のことなどもう忘れたかのように鈴が問いかけてくる曷

匍鈴こそなんて書いたの?盇

旬もへへき仏はな易 負討り 行針こよりこ 込の

五つの家が作った術者協会に登録し甚術者として生きる者が半数以上 術者の家系に生まれた者はこの黒曜学校を卒業した後甚柱石を護る

だ。是

しかし甚術者として働くと言っても甚協会も黒曜学校のように力に

よってランク分けがあり甚それにより役割分担がされている曷

上位のランクに振り分けられた者は妖魔との戦いを中心に働く曷

危険は多いが甚その分給料はいいのだ曷

鈴が目指している後衛は甚支援や補佐甚後処理を中心とした比較的

安全な部署曷

華と同じようにCクラスにいる鈴では戦いの場に身を置くのは無理

だと本人も分かっての選択だろう曷

とはいえ甚名字に三の字を持つ鈴は五家の一つ甚三光楼の分家筋の

者であり甚式神を持つ立派な術者なので甚その進路は叶うはずだ曷

が問題となっているから甚なおのこと喜んで迎えられるだろう曷 花形である戦いを主とする術者に比べ甚後衛の術者は常に人手不足

匍華ちゃんはどうするの?

匍私は普通に一ノ宮グルゥプのどこかの会社に入って甚術者とは関係

ない生活を送っていくのが希望かな盃

ノ宮を始めとした五つの家は甚裏から日本を護ると同時に甚表の

世界でも強い影響力を持っていた曷

昔は五大財閥と言われ甚財閥と呼ばれなくなった現在に至っても経

済を掌握していると言っても過言ではない曷

そればかりか善汝台面でも日丘大は関の意思が強く反央されている

という曷

下っ端の華には真実は分からぬことだが曷

同じく五家の一つ甚一ノ宮の分家の生まれである華は甚

で経営しているグルゥプ企業への就職が第一希望だった曷

術者として生きる気などさらさらない曷

術者の家系に生まれても全員が全員術者の道を選ぶわけではない曷

紗江のように術者としては生きなくとも術者と関わりを持つことを

選んだ者もいれば甚普通の一般人として生きることを選ぶ者も少なか

らずいるのだ曷

は様々だが甚一ノ宮だけではなく他の家でもそんな者達を自社グルタ それは術者としての能力に欠ける者や甚現役を引退した者など理由

プで受け入れていた曷

華は一ノ宮の分家なので甚一ノ宮系列の企業を受けるつもりだ曷

よほどの問題がなければ甚ほぼ確実に就職できるだろう曷

そして甚就職と共にあの家を出る曷

反対されるかもしれない曷

術者の家系に生まれながら術者にならないなど恥だ甚許さないと

言って怒るかも曷

しかし甚両親が華に期待しないように甚華とて両親にはもうなにも

期待していない曷

自分のことは自分で決める曷

たとえ縁を切ることになったとしても甚欠片もためらいはなかっ

た 曷

1 ノきょう、乳子のより針つ鱼へ生ろごうう引

したしを含っと혘戶に犲者の近へ近をたべうを

成績も甚エリゥトが集うAクラスでぶっちぎりのトップに立ってい

る曷

葉月が選ばなくとも甚協会の方から葉月に打診してくるに違いな

い 曷

それを葉月は受け入れると華は確信している曷なんの疑問も違和感

もなく甚両親や周囲が望む道を歩いていく曷

双子の片割れとしてそれでいいのかと問いたいが甚問うたところで

葉月は華の言葉になど耳を傾けようともしないだろう曷

もう仲のよかった昔のような関係には戻れない曷

それをどこか寂しいと感じている自分がわずかに残っている曷

昔甚愚痴を言い合ったあの頃がひどく懐かしい曷

放課後甚図書室で本を選んでいると聞こえてくる声曷

匍あれ葉月さんの出涸らしじゃない? 盇

匍こんな所になにしに来たのかしらね盗

匍勉強. したって意味ないでしょうに曷落ちこぼれはなにしたって変わ

らないのにね盃

クスクスと嘲笑する声が華まで届く曷

かし甚そんな嫌みにも華は我関せずを貫き本を選んでいたのだ

が甚ぞわりと漂い出した殺気に甚重あっ甚やばい紂と慌てて人気のな

い所へ移動した曷

誰もハないことを確認すると甚すうっとその場に二人の男女が現れ

た長

突然現れた男女に華は驚くよりも困ったような顔をする曷

二十歳前後の男女はなにやらとても不機嫌な様子曷

匍葵甚雅甚学校で姿を見せるのは駄目だって前にも言ったでしよ

あんな嫌み今に始まったことじゃないんだから甚いちいち反応

しないの盔

匍申し訳ございません盃

ゅんとしおらしくすぐに謝ったのは甚雅という美しい女性曷長い

髪を結い上げており甚まるで天女のような服は雅の神々しいまでの

儚くも美しい雰囲気により拍車をかけていた曷

そして傍らの男性の名は葵曷

背が高く甚体格もがっちりしており甚身長ほどもの大剣を背負って

い る 曷

こちらもまた雅に引けを取らぬ美男子だが甚中身はやんちゃ坊主を

思わせる勝ち気な性格だ曷

この二人は甚力の覚醒後に華が作り出した式神である曷

先ほどの悪口を聞 普段は姿を隠し甚力を極限まで抑えて華に付き添っているのだが甚 いて力が抑えきれなくなった気配に気付き甚華は慌

てて図書室を出てきたのだ曷

華の注意に葵の方は納得がいっていないのか甚未だにムスッとした

顔をしている曷

匍 . 主の言いたいことは分かるが甚主を悪く言われて黙ってはいら

この頑固さはどこから来たのか曷

けれど甚この二人もここにはいないあずはも甚いつも華を最優先に

考えてくれる曷

華が作った式神なのだから当然なのかもしれないが甚絶対的な味方

がいてくれるという事実は華を勇気づけてくれる曷 匍別に今始まったことじゃないでしょう?盇

そう言えるのも甚式神達がいてくれるからなのだが甚それは上手く

伝わらない曷

匍それでも嫌だ姦

先ほどまでしおらしくしていた雅も甚隣でこくりと頷いている曷

今度こそ華はやれやれというように息を吐いた曷

華のことを最優先に考えてくれるのは嬉しいが甚それ故に融通がき

かないところがあるのが難点だ曷

匍私は二人の存在を周囲に教えるつもりはないの曷力をちゃんと抑え

られないなら甚あずはと一緒に家でお留守番よ盗

そう言うと激しい葛藤をしているのが見て取れる曷

けれど甚常に一緒にいたいという二人が最後には折れることを華は

知っていた曷

不満を前面に押し出しつつも了承した葵の頭をよしよしと撫でてや

る曷

これらに参り回れる b

んでくれるのだ曷

そんなところがかわいらしい曷

これで解決かと思ったところで甚雅が問う曷

匍ちょっとでも駄目でしょうか? 気付かれないようにしますよ?盇

と甚なんとも悲しげに眉を下げて懇願してくる曷

それは同性である華ですらくらりとしてしまう美しさだったが甚頷

くわけにはいかない曷

二人が顕現しただけで甚かなりの力が周囲に漏れる曷

今は気付かれぬように結界を張っているが甚二人が力を使うとなる

と甚結界では防ぎきれないかもしれない曷

術者の多いこの学校では勘のいい者は少なくなく甚そこからばれれ

ば大騒ぎになってしまう曷

なにせ甚人型の式神はめったにいないのだ曷

現在の黒曜学校では甚葉月の式神一人だけ曷

それだけに華が貴重な人型を二人も使役しているなどと知られた

ら甚術者の道へまっしぐらだ曷

それだけは絶対に避けたい曷

なので甚厳しくこう言うしかなかった曷

雅はひどく残念そうに頰に手を添えた曷

匍そうですか? やってやれないことはないと思うのですが.

匍俺もそう思う

匍駄目ったらだ殳め!

匍主様を見下す愚か者どもを締め上げたかったのに甚残念です. . 盇

角主か望むならすくに潰してやるのに.....盗

二人はブツブツと文句を言いながら姿を消していった曷

華は苦笑しつつも甚そんな二人の気持ちが嬉しくもあった曷

* * *

とある日曷

学校から帰った華は離れの家でおかきを片手に何気なくテレビを見

ていた曷

匍犬の大量虐殺だって曷たしか数日前にも似たように犬が殺されて こってニュタスちってこにる易うしよりつ11日ミ勿と月こりナるよ テレビの中から聞こえてくる不穏なニュゥスに華は顔をしかめる曷

カこつニニ 「ンヤこつカ」O才長 オノたガオしし合言やそ三にガトでた んて甚世の中には血も涙もない奴がいるわね曷地獄に落ちろ盇

華のために淹れてきた緑茶の入った湯飲みを置きながら甚雅も

匍本当ですね曷それに甚場所はここからそう遠くありませんね

盇

ニュゥスを聞いていたようで甚わずかに顔を険しくさせた曷

匍主甚一応気を付けてくれよ益

この辺りということは甚そんな人間への恨みを持った妖魔が近くで こういう恨みを持った魂は甚妖魔へと変わることが多々あるのだ曷

新たに生まれた可能性がある曷

遭遇する可能性があるために甚葵は心配をしていた曷

けれど甚華にとっては余計な心配でもあった曷

**削
司
を
寸
す
る
ら
よ
こ
ら
き
と
の
前
こ
白
を
く
っ
つ
し
て
る
を
が
や
っ
つ
ナ
ら
や**

うでしょ 盇

匍当然!

なにか問題でも? と言いたげな顔で葵は即答する曷

匍別にいいんだけどね甚それは曷けど甚人目があるところではやめて

ね盔

匍分かってる盗

ごく最近も学校からの帰り道で妖魔と遭遇した時甚華が止める間も

なく葵が瞬殺してしまった曷

ーノ宮が護る柱石のあるこの地域では甚それを狙って自然と妖魔が

集まってくるので甚遭遇率も高い曷

しかし甚基本は見えざる存在なので見えていない普通の人に手を出

したりはしないのだが甚妖魔は術者を取り込むことで力を増すことが

ある曷

それ故に式神を作れるほどの力のあるものは甚黒曜学校のような術

者養成学校に入り甚妖魔への対処方法を習うのだ曷

けれど甚正直甚妖魔に狙われるほど力を持った術者は少ない曷

柱石を狙った方がより強い力を得られることを妖魔は知っているか

らだ曷

けれど甚隠していても妖魔には華の強さが分かるようで甚一人でい

る時によくからまれるのである曷

おかげで甚Aクラスでもないのに甚無駄に実戦経験が豊富だったり

する 曷

葵と雅を作り出したのも甚そんな妖魔を相手にするのに辟易してい

たからだった曷

今のところ葵も雅も甚華の望み通りの働きをしてくれていた曷

最近では少し自分でも戦わねば腕が鈍るのではないかと心配になる

ほどだ曷

けれど甚術者から離れ甚普通の生活をしていこうとしている華には

いらぬ経験かもしれない曷

しばらく惰性でテレビを見ていると甚離れに人の気配がした曷

葵と雅は次の瞬間には姿を消す曷

ここに来るのは紗江や使用人ぐらいだが甚どんなに仲がよかろう

と甚華は葵と雅の存在を教えるつもりはなかったので甚誰か来たらす

ぐに姿を消すように命じていた曷

主 つろ 思角) きをらき ナニつ より レごう こう

専り予札近しを多を見したりに終いたこたを

そろそろ夕食の時間かと時計を見てそう思う曷

しかし甚いつもは持ってきてくれている料理は手にしておらず甚不

思議に思う曷

そしてどこか困ったような様子を見せた曷

匍華様甚今晩は母屋にてお食事をお願いします盇

匍えつ甚母屋で?盇

匍はい曷旦那様が一緒にご夕食をと盃

そんなことはこの離れに移ってからは初めてのことで甚華は一 瞬 聞

き違いかと思った曷

匍お父さんが本当に私を呼んでるの?盇

匍そうでございます曷大事なお話があるとか盗

体どういう風の吹き回しかと思ったが甚華をわざわざ呼ぶほどの

卒業した後は術者として働いているようだが詳しいことは知らない曷 えば甚普段は滅多に家に帰ってこない兄の柳までがいた曷黒曜学校を なんとなく面倒臭いことにならないかと心配しながら母屋へと向か

最後に話をしたのはいつだろうか曷思い出せないほどに会っていな

なにせ会話がないのだ曷

り曷

そして甚相変わらず無口なようで甚入ってきた華を一瞥しただけで

ふいっと視線をそらした曷

そんな態度も気にせず席に着けば葉月が入ってきて甚華と同じよう

に柳の存在に驚いている曷

その葉月とすらこんな近くで同じ空間にいるのは久しぶりのこと

だった曷

誰も言葉を発しない気まずい空気が流れる中甚両親が姿を見せ甚着

席したと同時に食事が運ばれてきた曷

こうして一家で食卓を囲むのは何年ぶりのことだろうか曷

しかし甚誰も楽しむ様子はない曷

早く用件を話し出さないかなと父親を窺いながら食事を進めてい

く を

父親が口を開いたのは全員の食事が終わってからのことだった曷

匍柳は知っているだろうが甚この度甚一ノ宮の当主が代替わりなされ

る 盇

これには普段家のことには無関心の華も驚いた曷

る曷

匍次の当主は長男であられる 一ノ宮朔様だ曷後日甚本家にて朔様の襲

名披露式がなされるので甚お前達も出席するように

当然のように匍はい盃と頷いて了承する葉月と柳とは違い甚華は異

論を唱える曷

匍お父さんの言うお前達の中には私も含まれているんですか?盇

匍そうだ姦

匍葉月はいいとしても甚私は必要ないかと思いますよ盇

暗に甚落ちこぼれなどお呼びではないだろうと告げる曷

匍駄目だ曷今回は分家の年頃の女子は全員参加させるようにとのお達

した盗

匍なぜ?盇

匍朔様: は甚現在未婚であられる曷決まった相手もおられず甚今回は花

嫁の選別という意味も含まれているのだ盇

華は心の中で甚やっぱり面倒臭いやつだ! と甚来たことを後悔し

た 曷

匍まあ甚優秀な葉月と違い甚お前が朔様の目にとまることなど億が

にもないだろうが甚そういうわけで出席は絶対だ曷一応お前もこの

瀬の娘なのだからな盃

都合のいい時だけ娘とのたまう曷

だが甚父が不本意であることが見て取れ甚それはこちらもだと反抗

心が生まれてくる曷

ドタキャンするかと甚華に悪魔が囁いたが甚そんなことをすれば後

でうるさいだろうと諦めた曷

そして甚当主襲名披露式当日曷

華は紗江に着付けてもらい甚薄いピンク色の振り袖をまとってい

た 曷

髪も綺麗に結いあげてもらい甚飾りを付けて完成だ曷

我ながらかわいくできたと自画自賛して母屋へ行くと甚そこには色

鮮やかな深紅の振り袖を着て甚豪華な髪飾りで髪をセットした葉月の

姿があった曷

よく似た双子は互いの姿を見て言葉を失う曷

着物や髪飾りは両親から渡されたものだ曷

本家に行くとあって華の着物も決して悪くはない曷

かし甚葉月の着物の前では霞んでしまうほどに地味だった曷

や甚逆か曷葉月の着物の質がよく華やかなのだ曷

あの両親が葉月と差別するのは今に始まったことではないが甚これ

ほど見て分かる差をつけてくるのは初めてだった曷

匍準備はできたか?

そう言って姿を見せた父親は葉月を見て満足そうに微笑んだ曷華の

ことは空気である曷

そして甚父親の後ろからやって来た母親も甚手放しで葉月を褒め

た 曷

匍 ま あ甚綺麗よ甚葉月曷やっぱりその着物は葉月によく似合っている

わ!姦

匍 ありかとう 昼けど 甚その..... 華のとはずい ふん違うのね 盗

葉月はチラチラと華を見ながら両親に確認する曷

自分と明らかに違うと感じたのは華だけではなかったようだ曷

葉月は困惑した様子でいる曷

ここで甚優越感を覚えるような性格になってしまうほどには歪んで

いないようで甚華は少し安心した曷

しかし甚両親は葉月の戸惑いなどなんのその曷

匍先日も言っただろう曷今回は当主の花嫁探しでもあるのだ曷お前は

優秀な術者であり甚親の目から見ても美しい子だ曷きっと朔様のお目

にもとまるだろう曷そのための衣装だ盃

匍葉月ならきっと選ばれるに違いないわ曷頑張って曷他家の女達に負

けては駄目よ益

それを輪の外から見ていた華は不快感でいっぱいだ曷

華では甚落ちこぼれで当主の目にもとまらないと暗に告げているの

はまだいい曷

この親達は甚まだ葉月に重圧をかける気でいる曷

始末に負えないのは甚そのことに両親が気付いていないことだ曷

華なら一蹴するところだが甚葉月はまたもや両親の期待に応えん

と頷いてしまった曷

なんの茶番だと甚華が冷めた眼差しを三人に向けていることに誰も

気が付いていない曷

匍お父さん甚お母さん甚そろそろ時間です姦

紺色の着物を着た柳が呼びに来る曷

匍おお甚そうか曷では行くか盗

ば甚あなたは一ノ宮で当主に次ぐ権力が与えられるのだから盇 匍 葉月甚ちゃんとご当主に気に入られるようにするのよ曷そうすれ

匍はい姦

っかりと頷いた葉月に満足して甚両親は先に行ってしまった曷

ないかと感じて甚脱走を試みようかと本気で考えていると甚不意に華 両 親が期待を寄せるのは葉月だけ曷それなら自分は用なしな のでは

の髪になにかが触れた曷

反射 的に振り返ろうとしたが甚匍動かないで!盇と□り付けるよう

な葉月の声に華は動きを止める曷

少しの間髪をいじくられたかと思うと甚すぐに離れていった曷

匍もういい?

匍いいわよ盗

ゆっくりと振り返ると甚少し不機嫌そうな顔をした葉月と目が合っ

た 曷

匍なにしたの?盇

匍なんでもないわ盇

そう言って先に行ってしまった曷がん。

疑問符を浮かべる華に甚あずはがひらひらと飛んでくる曷

匍えつ? 査

重あるじ様の花飾りが増えてる紂

髪型を崩さないようにそっと触れると甚確かに髪飾りの数が増えて

いた曷

それとは逆に甚葉月の後ろ姿から確認できる髪飾りが少なくなって

いた曷

なんの気まぐれかは分からない曷

あまりにも華の姿が地味すぎたのが目に付いたのか甚葉月は自分の

髪飾りを華に譲ってくれたようだ曷

葉月は自分が嫌いなのではなかったのだろうか曷

華の中に甚なんとも言い表せない感情が湧いてくる曷

落ちこぼれで甚そのくせ口うるさい華のことを厭うているのかと

思っていた曷

話をしなくなったのもそのせいだと.

違ったのだろうか曷

葉月の気持ちがよく分からない曷

お礼も言い忘れたまま甚なんとも悶々とした気持ちで甚華は本家へ

と向かうのだった曷

初めて訪れた一ノ宮の本家は甚純和風の豪邸だった曷

華の家も離れがあるぐらいなのでそれなりに敷地も広く甚豪邸と

言っても差し障りのないお屋敷だったが甚本家はそれを軽く超える曷

車で本家に到着しても甚さらに門から玄関まで車を走らせなければ

ならないほど広い曷

さすが旧五大財閥でもある一ノ宮家曷スケゥルが違う曷

やっとたどり着いた玄関前には甚一瀬のような分家や関係者達の車

が停められていた曷

華達も玄関の前で降りると甚運転手は駐車スペゥスへと車を移動し

に行った曷

華はその本家の豪華さに圧倒される曷

匍ようこそおいでくださいました甚一瀬の皆様曷ご案内いたします盇

本家の使用人だろう人物に案内されて中へ曷

興味津々にきょろきょろしていると甚葉月に肘でつつかれる曷

匍 恥ずかしいでしょう曷きょろきょろしないでよ盇

お上りさんのように見えたのか甚葉月が顔をしかめて窘める曷

けれど甚華に反省の色はない曷むしろ開き直る曷

匍だってすごくない? こんな豪邸初めて見た盗

匍もう来られないかもしれないんだから甚ちゃんと見とかないと損だ

よ盔

と甚納得しそうになったところで甚葉月ははっと我に返る曷

匍 いえ甚やっぱり駄目でしょう曷一瀬の人間として毅然としていない

と益

匍なら葉月はおすまし顔でいたらいいじゃない曷私は堪能するから曷

でも甚お父さんとお母さんはまだしも甚お兄ちゃんは驚いてないみた

い益

匍そりゃそうよ曷お兄ちゃんは術者として普段から本家に出入りして

るんだもの姦

匍そうなのって甚知らないの? お兄ちゃんが普段どこでなにしてる

か 盇

匍全然姦

特に興味もなかったので甚あえて紗江に聞くこともなかった曷

すると甚葉月は呆れたような顔をする曷

匍なんで知らないのよ曷妹でしょう?! 盇

匍だって甚お兄ちゃんと会話することなんて皆無だもん曷葉月とだっ

そう甚葉月ともこんなに話をしたのは数年ぶりのことだった曷

それなのに甚なんの違和感も覚えずぽんぽん言葉を交わせるのは甚

やはり双子という特別な繋がりがそうさせるのだろうか曷

葉月も甚華の言わんとしていることを察したのか甚気まずい表情を

浮かべる曷

それを誤魔化すように葉月は早口で話し出した曷

を手にするのももうすぐって言われてるぐらいなんだから盇 **匍お兄ちゃんは甚術者最年少で四色の瑠璃色を得たのよ曷五色の漆黒**

術者協会に属する術者はランクで分けられている曷

下から甚一色甚二色甚三色甚四色甚五色曷

それぞれ甚白甚金甚紅甚瑠璃甚漆黒の色で表される曷

協会から支給される術者の証明書であるペンダントトップは甚それ

ぞれの色をしており甚その者のランクが分かるようになっている曷

さすがに柳が術者をしているのは知っているが甚滅多に顔を合わせ

ない柳のペンダントを見たことはなく甚現在どのランクにいるのかす

ら知らなかった曷

匍へえ~盇

葉月から説明されても甚凄いなとは思うが甚それ以上でもそれ以下

でもない曷

それだけ甚華にとっては他人事だった曷

年に数えるほどしか顔を合わせない兄のことだ曷どうでもよさそう

な反応になるのは仕方のないことだった曷

そんな薄い反応が葉月は許せなかったのか甚目を吊り上げる曷

匍なにその反応?? 凄いことなのよ!

匍凄いとは思うけど.....

匍華はいつもそう曷自分は関係ありませんみたいな態度で無関心なの

よ ! 盇

確かに無関心と言われても無理もないほどに甚家族と関わらない曷

けれど甚それは華がそうしたかったわけではなく甚先に家族が華へ

の関心をなくしたのだ曷

だから華はそれに倣っただけで甚こんなふうに葉月に責められる覚

えはない曷

匍なにを騒いでいるんだ! 本家では礼儀正しくしていなさい盇 言い返そうかと口を開こうとした時甚父親の声が間に入る曷

華もそれに従ったが甚それ以降二人の間に会話はなくなった曷 葉月は一瞬甚華を睨み付けてから父親の後についていった曷

大広間に通されると甚すでに多くの関係者が座っていた曷 ちらほらと華と同じ年頃の若い女性が甚見るからに気合いの入った

姿で座っている曷

彼女達はきっと当主の妻の座を狙っているのだろう曷

あまりにも華やかすぎて甚これでは地味な華が逆に目立つ曷

華達一瀬家の面々は分家の中でも下座の方に通される曷

そこから一瀬家が分家の中でも影響力が下であることが窺えた曷

まれなかったためか甚それまであった発言力を失いつつあっ 数代前は上位に位置していたらしいのだが甚最近では強い術者が生 た 曷

だからこそ甚本家並みの力を持つ葉月への期待が一身に集まるの

だ 曷

分家内での順位など華にとったらどうでもいい曷 両親は葉月を使って分家内での発言力を取り戻そうとしている曷

父親も不必要なプライドなど捨ててしまえばいいのだが甚術者

ては優秀とは言えない父親は身の丈に合わない権力に固執している曷 それに巻き込まれる子供の方がいい迷惑というもの曷

華がなんとしても力を隠しておこうとするのも甚父親の無駄な権力

欲の道具に使われたくないからだ曷

空いていた席が次々と埋まりしばらくすると甚華の母と同じ年代の

女性が入ってきた曷

その後から甚華と同じ年齢ぐらいの男の子が続くと甚ざわついてい

た広間は一気に静まりかえる曷

そして甚とうとう当主が姿を現す曷

匍一ノ宮家ご当主甚一ノ宮朔様のおなりです盇

その声と共にふすまが開かれ甚一人の男性が入ってきた曷

斉に周りが頭を下げたので甚華も倣って頭を下げる曷

匍皆甚面を上げよ益

すっと通った低い声が耳に入ってくる曷

当主の声に皆が顔を上げる曷

華も周囲の様子を窺いながら顔を上げたが甚分家の中でも下座に座

る華には当主の顔までは分からなかった曷

けれど甚声は予想よりずっと若い曷

当主に就くというのだから甚それなりに年がいっているのかと思っ

たが甚よくよく考えれば若い女性を花嫁候補にと呼ぶぐらいだ曷

年齢はそう離れていないのだろう曷

匍この度甚一ノ宮の当主を襲名した一ノ宮朔だ曷これより結界師とし

て柱石の護りを引き継ぐ曷皆甚これよりよろしく頼む盇サホー

匍誠心誠意お仕えいたします盃

当主の言葉に対して甚誰かがそう告げると甚再び広間にいたすべて

の者が当主に頭を下げた曷

結界師とは甚柱石に結界を張っている五つの家の当主のみが名乗る

ことを許される名称曷

その名はとても重く甚大きな責任が含まれていた曷

けれど華には無関係な遠い世界のこと曷この時はそう思っていたの

だ曷

* * *

襲名披露式とは言っても特別ななにかをするわけではなく甚分家の

者達を前に当主になったことを報告するだけのようだ曷

その後には大勢での食事会曷

華の前に膳が運ばれてくる曷

それを黙々と食べていた華はちらりと視線を上座へと移す曷

食事会になると甚なぜか分家の地位に関係なく若い女性達が上座近

くへと座らされたのだ曷

花嫁探しも兼ねているというのは冗談ではなかったようだ曷

だが前に出されたおかげで甚ようやく華は一ノ宮朔という人物を目

にすることができた曷

黒い髪に意志の強さを感じる漆黒の瞳易

すっと鼻筋の通った容貌は整っていて甚周りにいる女子達が浮き足

立っているのが分かる曷

別にこんな集団お見合いのようなことをしなくともすぐに見つけら

れそうなのだが甚よほど理想が高いか甚本人に問題でもあるのかもし

れないと甚華は密かに思う曷

人が勇気を出してお馰に句かうと甚負けてなるものかとわらわら

と女性達が当主を囲んでしまった曷

匍朔様甚音楽はお好きですか? 私は琴を嗜んでおりますの 盇

匍私は舞が得意なのです曷ぜひご覧になっていただきたいものです

わ 盇

女性達の積極的なことといったらない易

肉食獣も真っ青の肉食っぷりだ曷

葉月は大丈夫かとその姿を探せば甚出遅れたようで輪の端の方でど

うしようかと焦りをにじませている曷

すると甚これまでどんな秋波を送られようとも無言を貫いていた当

主がようやく口を開いた曷

女性達が顔を見合わせて困惑する中甚葉月が当主の前に座った曷

匍わ甚私でございます盃

少し緊張しているのが見て取れる曷

匍お前は?盔

匍一瀬の娘甚葉月と申します盃

ここがアタックのチャンスとでも思ったのだろう曷

計算され尽くした甚人を引きつける笑顔を当主に向けた曷

そこらの男なら簡単に落とせるかもしれない会心の笑みを前にして

も甚当主は顔色一つ変えなかった曷

そのことに華は心の中で感心したものだが甚葉月は思うような反応

が返ってこずに焦ったことだろう曷

どうやら当主が気になったのは葉月自身ではなく式神のことのよう

匍か甚かしこまりました! 終 盇

で甚匍ここで見せてみろ盇と葉月に命じた曷

葉月が自分の式神である柊の名を呼ぶと甚どこからともなく少年の

姿をした式神が現れる曷

葉月が作り出した時から変わらぬその姿曷

最初は同じ年頃だったというのに甚あんなに小さな子供だっただろ

うかと甚久しぶりに見た柊の姿に華は少し驚く曷

匍こちらが私の式神の柊でございます盇

当主は柊のことを上から下にと視線を移して目を細めて見ると甚

あっさりとした言葉を返す曷

匍そうか甚もういい曷消せ盗

匍えっ? は甚はい盗

体なにがしたかったか分からない葉月は甚困惑したまま柊に姿を

消すよう命じた曷

いつつ甚自分には関係ないかと甚当主に群がる女性達をよそに料理に そのやりとりを横目で見ていた華は甚なにやら偉そうな男だなと思

舌鼓を打った曷

そんな華を見つめる当主の視線には気付かぬままに曷

* * *

当主襲名披露式から少しして甚妖魔の活動が活発になってきた曷

当主が替わるということは甚柱石に結界を張っていた者が替わると

いうことを意味する曷

当主から次の当主へと結界が引き継がれる時甚どうしても結界にほ

ころびが出てしまうのだ曷

そうするとどうなるか易

不完全な結界を狙って妖魔の活動が活発になってくるのだ曷

それを祓うための人手が足りず甚AクラスとBクラスは授業そっち

のけで駆り出されていた曷

落ちこぼれのCクラスはのんきなものだと他人事でいたら甚とうと落ちこぼれのCクラスはのんきなものだと他人事でいたら甚とうと

う
に
ク
ラ
ス
に
ま
で
出
動
要
請
が
出
て
し
ま
う
曷

妖魔が集まっているとされる廃屋の敷地内で甚華達Cクラスは後方

支援として出番が来るのをずっと待たされていた曷

少し離れた所では甚協会の術者が集まって怪我人などに備えてい

後方支援を主とする彼らの色は白か金曷

つまり術者の中では下位のランクの一色か二色の者ということだ曷

やる気皆無な華を見て甚鈴はかわいらしく怒りを表す曷

匍もう甚華ちゃんたら曷滅多に来ない実戦経験を積める機会だよ曷

ちゃんとしなくちゃ盃

匍そうは言っても甚私達は後方支援をするだけで戦うわけじゃない

し 曷 しかもかれこれ三時間も待たされたままじゃない曷もう帰ってい

い ? 盇

匍だあめえ!盔

本気で帰りそうな華の腕に鈴はしがみついた曷

それも当然のこと曷

妖魔は昼間よりも日が落ちてから動きが活発となるので甚学校が終

わった後にこの廃屋に来て甚それからずっと待ちぼうけを食らってい

普段の華ならとっくに夕食を終えている時間だ曷お腹がすくのは当

然だった曷

タイミングよく甚華のお腹がグウと鳴る曷

鈴は華の腕を離して甚協会の術者が作った即席の詰め所へと走って

行った曷

詰め所の側には生徒達の荷物を置いている簡易テントがあるのだ曷

そこを目指して走って行く鈴の背中を見ていた華はピクリと反応し

た 曷

それとほぼ司持に甚華の髪に飾りのようにとまっていたあずはが警

戒を呼びかける曷

重あるじ様!紂

考える前に華の体は動いていた曷

鈴に向かって一直線に走り甚後ろからタックルするように体をぶつ

け甚二人して地面に倒れ込んだ曷

匍きゃあ!

鈴が悲鳴を上げる曷

そして甚身を起こして振り返り甚華の姿を確認すると戸惑ったよう

な顔をした曷

匍えつ甚えつ甚華ちやん?

かし甚華は鈴の疑問に答えている余裕はなか つ た 曷

先程まで鈴がいた場所は大きく地面がえぐれていたのだ曷

そして甚顔を上げれば甚数え切れない妖魔が集まっていた曷

妖魔の姿は千差万別だ曷動物のような姿をしているものもいるが甚

形のないドロドロとしたものや甚いろいろな生き物が混ざったような

異形の姿のものまで様々だ曷

同一なのは基本的に術者にしか見えないことと甚鳥肌が立つような

そんなおぞましい姿の妖魔がたくさん現れたのだ曷周囲にいたCク

ラスの生徒や術者達も騒然とする曷

しかし甚さすが一色甚二色とはいえ甚実戦経験の多い術者曷我に返

るのは早かった曷

匍総員甚戦闘態勢! 各自甚結界を張れるようにするんだ! 中に

入っていった戦闘部隊に連絡を急げ!盇

Cクラスの生徒達は戸惑い甚慌て甚混乱状態にある曷

AクラスやBクラスと違い実戦経験が少ないので仕方ないが甚今こ

の場にあってそれは致命的だ易

経験が少ないなど甚なんの言い訳にもならない曷

すぐに少数の戦闘部隊の術者がやって来たが甚あまりにも妖魔の数

が多すぎた曷

逃げ惑う生徒が甚術者の戦いを邪魔している曷

てクラスでありながら

甚普段から

妖魔に狙われていた

華は冷静だっ

たが甚側にいる鈴は華の腕をつかんで震えていた曷

匍ど母したものか..... 盇

華が戦えばなんとかできるだろうという自信があった曷

だてに普段から妖魔に狙われてはいない曷

ここハる妖魔はヘッキノ言うと推魚ご易

ここーして女尾ーノ、ニー言こ、く称手ブを

葵ならば瞬殺できる弱さだった曷

しかし甚葵を出して華が戦うということは甚強い力を持っているこ

とを周囲に教えることになってしまう曷

それだけは避けたい曷避けたいのだが..

匍うわぁぁ!盇

匍待て甚冷静になるんだ曷ちゃんと結界で妖魔を閉じ込めろ!盇

匍無理だ甚無理だよおお!盗

泣き叫ぶ生徒達と怒鳴る術者達を見渡して華は苦い顔をする曷

匍うらん甚カオスだ.. ... 曷せめてAクラスがいたらなんとかなるの

しかし甚葉月のいるAクラスどころか甚Bクラスの姿も見当たらな

い 曷

そうこうしていると甚華の下にも妖魔が襲ってくる曷

術者になりたいと将来の希望を語っていた鈴は匍きゃあ!盇と悲鳴

をあげてなにもできないでいる曷

そんな鈴を横目に甚華は冷静に妖魔を見据える曷そして.

匍展開盇

それを口にした瞬間甚キンッとかすかな高音と共に妖魔を結界の中

へと封じ込めた曷

匍滅盇

その言葉と共に甚妖魔はもだえ苦しむ声を上げて消え去った曷

結界を解けば甚後にはなにもなくなり甚一部始終を見ていた鈴は目

をぱちくりとさせる曷

匍華ちゃん甚すごい曷妖魔やっつけちゃった!盇

匍 いや甚あれぐらいなら学校で初歩の初歩に習うでしょ曷妖魔も強く

なかったし甚なんの自慢にもならないって盗

匍そ甚そうだけど..... 盗

初歩と言われ甚なにもできなかった鈴はどこか気まずそう曷

しかし甚華が言ったことは事実で甚これぐらいならば冷静になれば

Cクラスでも倒せる妖魔ばかりだ曷

が甚数の暴力で生徒達は冷静さを失っている曷

これでは死人が出てもおかしくない曷

やるか甚やらないか曷

先程はちゃんと力をセタブしていたので甚華の力にまでは気付かれ

てハなハだろう易

けれど甚これだけの妖魔を片付けたら言い逃れは難しい曷

葵と雅が今か今かと華の命令を待っているのを感じる曷

応援は未だにやってこない曷

.....仕方ない甚か盇

ああ甚さらば平穏な生活曷

と甚心の中で涙を流し甚葵と雅の名を呼ぼうとしたその時曷

その声と共に甚そこら中にいたすべての妖魔が結界に封じ込められ

た 曷

逃げ惑っていた生徒達も甚必死に戦っていた術者も動きを止める曷 そして甚そんな中を歩く甚真っ白な少女を連れた青年に注目が集ま

3号

彼は華にも覚えのある人物だった曷

匍あれって一ノ宮の..... 盗

一ノ宮朔曷先日襲名披露式でその姿を見たばかりなのだから忘れる

はずがない曷

後ろに連れ添っているのはおそらく彼の式神だろう曷

ツインテゥルにした白髪に甚なぜかフリフリのメイド服で頭には犬

のような三角の耳がついている曷

ふざけた格好だが甚とてつもない力を持っているのを感じる曷

ゆっくりと人々の中を歩く朔は絶対的な王者のような貫禄で一歩

歩進んだ曷

土走室 よりが隹か分かって1よ1羕子 ごが 茎桁旨室 よまっ ピラこよ

うな顔に変わる曷

匍滅せよ姦

そう彼が告げた瞬間甚結界に閉じ込められた妖魔達が 瞬で消滅

た 曷

ちなみに甚結界を張ったり甚消滅させたりする時の発動の言葉は人

それぞれ違う曷

それぞれが力の発動をイメゥジしやすい言葉を自分で考えるのだ曷

なので甚中には厨二病をこじらせたような言葉にしている頭の悪

い者もいる曷

この言葉は一度決めてしまうと甚その後なかなか変更がしづらい曷

それ故甚後になって後悔する愚か者が一定数いるのである曷

華はもちろんそんな厨二病的なことはせずに甚普通に分かりやすい

言葉を使っている曷

あっという間に妖魔達を滅してしまった朔を見て甚華は感心した曷

匍へえ甚さすが一ノ宮の当主益

その力の強さは甚この若さで当主になったことを納得させられるも

のだった曷

ノ宮の当主の登場でその後はその敷地内の妖魔はあっさりと処理

され甚ようやく華は家路につくことができた曷

その翌日甚学校では昨夜の話で持ちきりだった曷

匍昨日のあれ甚 一ノ宮の当主だって 益

匍すごくかっこよかったよね盗

訂 5) 5 O Z

匍でもなんで五色のご当主が来たの?奋

いたらしい曷それで近くにいた当主が駆けつけたんだってさ曷幸いA 匍 なんか調査不足でAクラスが対応してたところに高レベルの妖魔が

クラスに大きな被害はなかったらしいけど盇

などなど甚一ノ宮フィゥバゥが起きていた曷

匍ねえねえ甚華ちゃんは知ってるの?盃

鈴も関心があるようで甚一ノ宮の分家である華に聞いてくる曷

しかし甚華に話せることなどほとんどない曷

匍 知ってるといえば知ってる曷この間の襲名披露で顔は見たからね曷

でもそれだけで甚話したことはないから盇

**匍そうなんだ

尽

曷まっ

甚

普

通

そ

う

だ

よ

ね

曷

私
も

三

光

楼

の

ご

当

主

様

に**

会ったことないもん笠

11. ファ イフ し = ノ 王

匍三光楼のご当主は女性だっけ?奋

匍うん曷遠目に拝見したことはあるんだけどね甚すっごくかっこよ

かったよ姦

匍へえ姦

鈴はなにやらニマニマと嬉しさを押し殺せないというように笑みを

浮かべている曷

匍なに? どうしたの? 盇

匍なんと! 私にもとうとう彼氏ができました殳盔

匍えつ甚マジ? 益

鈴は心の底から嬉しそうだが甚華は肌の上こ突っ犬した曷

匍ショックだ曷純粋な鈴が男の毒牙にかかってしまうなんて.

匍華ちゃん大げさだよ曷ゆう君はそんな人じゃないもん盇

そう言って鈴はスマホの画面を華に見せてきた曷

そこに写っていたのは甚明るすぎる金髪に甚耳にはたくさんのピア

スを付け甚サゥファゥかのように日焼けした甚見るからにチャラそう

な男曷

とてもじゃないが甚清楚系のほわほわとした鈴とは対極に位置する

人種のように見えた曷

華は頰を引きつらせるのを止めることができない曷

朗らかに笑う鈴に甚華はなにかを言おうとして口を閉じた曷

なにを言ったらいいか言葉が出てこなかったのだ曷

そんな華には気付かず甚鈴は恋する乙女の顔でゆう君のことを語り

出す曷

匍ゆう君はね甚街でしつこい勧誘に困ってた時に助けてくれた優しい

人なの曷それにすごく格好よくて甚男らしくてね曷全部甚ぜ々んぶが

素敵なの姦

ここは友人として注意を促すべきか甚華は迷う曷

鈴の嬉しそうな顔を見ているとためらいが出てしまう曷

だが甚やはりこんな男に鈴を任せていいものか.

して壱隻ガ目ガヒつジ&こけつにしけたし長

んななりをしているが甚鈴の言うようにいい人かもしれないの

だ 曷

ここはとりあえず様子を見ることにしようと甚華は引きつりそうな

笑みで鈴の惚気を聞き続けた曷

その日の放課後甚帰ろうとしたところを担任に捕まり甚雑用を押し

つけられてしまった曷

鈴はデゅトがあるからと甚華を見捨てて嬉しそうにさっさと帰って

しまう曷

匍裏切り者~ 盗という華の声は甚恋愛脳の鈴には届かなかったよう

だ 曷

ンジ ン
ぶ
書
頂
士
昇
よ
子
云
っ
て
ハ
こ
っ
き
帚
る
頁
こ
は
ト
は
音
く
よ
っ
て
ハ

た 曷

匍くそ~曷なんであそこで捕まっちゃったかな盇

重主の逃げ足が遅かったからだろう曷他の生徒はいち早く逃げてい

たぞ約

顕現はしていないので姿は見えないが甚周りに人目がないからと葵

も気にせず話しかけてくる曷

匍ただでさえ昨日遅くまで妖魔狩りに参加させられてたってのにさ曷

今日は早く帰れると思ったのに盗

ま あ甚昨日遅くまで拘束されていた分甚登校時間も遅かったのだ

匍お腹減った ~ 盇

重帚つこうすぐこら食事こ しましょうな讨

雅の優しげな声がささくれ立った心を癒やしてくれる曷

近道しようと甚人気のない暗い公園に入っていく曷

滑り台の横を通り過ぎようとしたところで甚華は足を止めた曷

それと同時に甚葵と雅が顕現する曷

匍ああ甚また夕食が遅くなる. . 曷今日は厄日か?盇

華は疲れ切ったように深い溜息を吐いた曷

滑り台を見上げると甚そこには妖魔の姿が曷

どうしてこうタイミングが悪いのかと甚華は恨めしげな目を向け

る曷

匍しかもなんか強くない? 昨日の雑魚とは大違いじゃないの曷こん

な強 い妖魔が学校も近い公園に現れるってヤバいでしょ盇

華が見たところ甚Aクラスの生徒でも対処が難しいと感じるほどか

なり強い妖魔だった曷

匍そのようですね曷きっとこれも当主の代替わりが影響しているのか

もしれませんねえ盃

強い強いと言いつつ甚華も甚そして雅ものんびりと会話している曷

ただ一人葵だけが警戒心をあらわに背にあった剣を抜き甚妖魔へと

向けた曷

匍問題ない

匍じゃあ甚お願い盃

やる気満々の葵にすべて任せることにした曷

葵は不敵な笑みを浮かべて妖魔に対峙する曷

匍下りてこい化け物曷俺樣直々に相手してやる盇

しかし甚妖魔の視絲は華へと向けられていた惖

華の中にある強い力を感じ取っているのだろう曷

葵はそんな妖魔から華を隠すように移動する曷

匍主に相手してほしかったら先に俺を倒してからにしろ曷まあ甚お前

ごときじゃ無理だろうけどな盇

匍葵甚無駄口叩いてないでさっさと倒しちゃって曷お腹減った盇

匍主~曷たまには俺にもかっこつけさせてくれよ曷昨日は全然活躍で

きなかったんだから盃

なんとものんきなものだ曷

普通ならば協会の高ランクの術者が相手にしなくてはいけないよう

な妖魔だったが甚華は空腹の心配を先にしてしまう程に眼中にない曷

これにナヨテワドリ出 ノに多りフニョ言があるりに見

マヤカに 目 クロ イー・ 当し 九 多 の フ に 目 作 ナ む そ の た 長

匍へいへい曷分かったよ盗

葵は身長ほどの大剣を持ったまま軽々と跳躍し甚滑り台の上にいる

妖魔に向けて剣を振り下ろした曷

妖魔はそれを紙一重で避けたが甚葵が手を返して横に一閃した剣に

切られる曷

しかし致命傷には至らなかったのか甚滑り台から飛び降りた妖魔は

華に襲いかかってきた曷

華は表情も変えずそれを結界に閉じ込める曷

匍展開盇

瞬で結界に閉じ込められた妖魔は結界から抜け出そうと暴れる

が甚人目のない今甚力を抑える必要のない華の張った結界は強力でび

くともしない曷

そんな妖魔へ葵が剣を振り下ろした曷

華の式神である葵は華の張った結界に阻まれることなく甚剣は結界

をすり抜け妖魔だけを切り裂いた曷

妖魔が完全に消えたことを確認すると甚華も結界を消す曷

無事に妖魔を倒したわけだが甚葵は不機嫌そう曷

匍どうしたの?

匍俺が倒 したかった 盇

匍 ちゃんと倒したじゃない盃

匍主が結界で封じてたからじゃないか曷ノ殳カンだ甚あんなの盇

匍 はい はい曷また今度機会があるわよ盗

とっとと帰りたい華はおざなりに言葉をかけてきびすを返した曷

そして振り返った先に人がいることに今気が付い た 曷

) -しこう しこりこうでに ١ ١ ・上し・・・

匍やばっ 盃

匍 主様甚公園に目隠しのための結界を張っていなかったのですか?盇

雅に問われて甚失敗を悟る曷

匍忘れてた! 益

普段甚葵達が顕現する時や妖魔と戦う時には甚誰かに見られないよ

うに必ず周辺に結界を張るようにしている曷

しかし甚今回はその結界を張り忘れてしまった曷

ヤバいと思ったが後の祭り曷

しかも甚よくよく顔を見てみると甚その人物は一ノ宮の当主甚

宮朔ではないか曷

匍今のはお前がやったのか?盇

匍え甚えること..... 盗

葵と雅は妖魔もいたことから力を抑えていない曷

当主ほどの力を持つ者となれば一目見れば人間か式神か判断できる

だろう曷

追い詰められた華が取った行動は.....易

匍違いますううう!! 盇

脱兎のごとくその場から逃げ出すことだった曷

匍主!? 盇

匍主様!盇

慌てたように葵と雅も後を追った曷

しばらく走ってから振り返る曷

ゞこつの. つ. 引っこよそよハ) ニこうでき生 よまり **三**へ

匍主様甚あれ完全に見られていたようですが甚どうなさいます

か?姦

雅も予想外のことに心配そうにしている曷

匍大丈夫....だと思いたい曷暗くてあまり顔もはっきり見えてなかっ

ただろうし甚襲名披露で私のこと見てたかもしれないけど甚たくさん

いた女の中の一人なんか覚えてないよ.....多分盃

自信はない曷

だが甚そうあってほしいという願望にかけるしかない曷

匍 ああああ~曷しくじったぁ~盇

これまで慎重に慎重を重ねて隠してきたというのに曷

やっぱり今日は厄日かもしれない曷

落ち込みながら華は家路についた曷

朔は甚柱石を護る五家の一つ甚一ノ宮に長男として生まれた曷

幼 い頃より甚恵まれた術者としての資質を持ち甚早くから次期当主

として扱われてきた曷

それというのも甚朔の父親は一ノ宮に生まれながらも甚術者として

の才能には恵まれず甚柱石の結界を護るのだけで手がいっぱいだった

のだ曷

それ故甚一族はできるだけ早く朔が一人前になり甚柱石の結界を引

き継ぐことを望んでいた曷

そんな期待に朔は応え続け甚最年少で五色の術者として認められ漆

黒の証を手に入れた曷

それは分家である一瀬の息子の記録を超えることができなかったか 惜しむらくは四色の瑠璃色を最年少で取れなかったことだろうか曷

らだ曷

だがその分甚五色に上がったのは異例の早さだった曷

それから数年術者として働き経験を重ね甚この度結界師として当主

及び甚柱石の結界を引き継ぐこととなった曷

他の当主と比べて最も若い当主の誕生だった曷

当主の引き継ぎは粛々と行われ....なかった曷

なんと甚父親が当主を下りることを拒否したのだ曷

当主となれば一族の権限のすべてを握ることになる曷

父親は術者としての力は弱かったが甚権力欲だけは誰よりも強かっ

たのた医

しかし甚朔の母親である妻にはめっぽう弱かった曷

朔もこの気の強い母を苦手としていたので父親の気持ちはよく分

かったが甚この時ばかりは母の存在に救われた曷

妻に □咤されたことでしぶしぶ当主の座を譲った父親は甚傷心旅行

だと言って朔が当主になるのを見届けることなく旅立ってしまう曷

朔としては邪魔者がいなくなったので清々した曷

おかげでスムゥズに当主の引き継ぎはなされて甚朔が柱石の結界を

担うことになった曷

当主襲名披露式では甚母親が率先して準備に奔走してくれたおかげ

で朔は柱石の結界のことだけを考えることができた曷

それは本当に助かったのだ曷それだけは曷

しかし甚自分を囲む女性達を見て甚ら新にすべて任せたのは失敗し

たと後悔した曷

朔もよく分かっている曷

朔には伴侶がおらず甚当主となった以上甚早急に伴侶を決める必要期には伴侶がおらず甚当主となった以上甚早急に伴侶を決める必要

があることを曷

分かってはいるが甚目をギラギラとさせた女性達を前にしては甚げ

んなりとしてしまう曷

それに甚朔は昔からあまり女性に興味を感じられなかった曷

別に男が好きというわけではない曷

ただ甚昔から自分の伴侶の座を狙った女性達の醜い争いを間近にし

ていたら甚苦手意識を持つのは仕方のないことだ曷

金と権力にしか目がいっていない女性達を前に甚共に人生を歩んで

いこうという気にはならなかった曷

当主の妻として甚そして次の当主を産む母としてふさわしい甚優秀 なので甚朔は割り切って伴侶となる女性を決めようと考えていた曷

な力を持った術者であること曷

その一点だけは妥協しないと曷

そして甚襲名披露式では甚以前から噂が耳に入ってきていた甚分家

の娘を呼んだ曷

分家でありながら甚人型の式神を作り出した優秀な術者のことを曷

瀬葉月と名乗ったその娘に甚式神を見せるように命じる曷

顕現したのは確かに人型の強い力を持つ式神だった曷

けれど甚その強さは朔が理想とする合格ラインには遠く及ばないも

のだった曷

期待していただけに残念な結果となった曷

の中で甚一人だけ自分には無関心で黙々と食事を取っている女性がい そんななか朔が不意に視線を移動させると甚朔に群がる若い女性達

そのことに興味を惹かれながら甚先程の葉月と似た顔をしたその女

た 曷

性に甚あれが噂の落ちこぼれの片割れかと理解した曷

しかしなぜだろう曷朔には彼女がそこまで弱いようには感じられな

かった曷

とはいえ甚双子の片割れの存在はすぐに頭の隅に追いやられる曷

それから間もなく甚妖魔の動きが活発になってきた曷

これは当主交代の際には必ず訪れる甚当主となった者が最初に越え

ねばならない試練のようなものだ曷

仕方なく甚柱石の結界を張り直す傍ら甚妖魔への対処にも乗り出

その日は廃屋に妖魔が集まっているという情報を得て動いたが甚朔

が着いた時には混乱状態に陥っていた曷

質より量の妖魔を滅しながら甚逃げ惑っていた生徒達を見て甚この

程度の妖魔で逃げ惑っていて大丈夫なのかこいつらはと甚心配になっ

てきた曷

自分が学生の時は甚生徒の力量ももう少しあったように思うが甚後

にあれはCクラスの生徒だと聞いて朔は納得した曷

それならば仕方ないかと曷

かし甚そんなCクラスを呼ばねばならないほど妖魔の出没が多く

なっていることに危機感を覚える曷

できるだけ早く甚結界を完全なものにしなければならない曷

けれど甚そのために力の強い伴侶の存在は不可欠だった曷

そして甚朔は出会う曷

廃屋での戦いの翌日甚公園から昨夜の妖魔とは比べものにならない

気配を感じ甚慌てて向かった曷

けれど甚そこで目にしたのは甚いとも簡単に妖魔を倒した三人の

姿 曷

朔はその内の二人は式神だとすぐに分かった曷

二体もの人型の式神を持つ者など朔の耳に入ってきていない曷

そんな者がいたらすぐに当主である自分の所まで話が回ってくるだ

らうに 曷

いったいどんな人物かと近付けば甚黒曜学校の制服を着ている曷

年下であることに驚くと共に甚どこかで見たことのあるその顔が甚

誰だか思い出せない曷

詳しく話を聞こうとしたら逃げられてしまった曷

匍ご主人様甚追う? 盔

ひょっこり顕現したツインテゥルのメイド姿の少女は甚朔の式神で

ある 椿だ 曷

匍いや甚家に戻ってから調べさせる曷黒曜の制服を着ていたからすぐ

に見つかるだろう盇

匍ご主人様甚なんかものすご々く悪い顔してる. 盇

朔は不敵に口角を上げていた曷

匍すぐ帰るぞ益

本家に帰れば甚自室に戻る前に母親に捕まってしまった曷

この後に言われることはなんとなく想像がついている曷

匍朔甚花嫁となる方は見つかったのかしら?盇

ここ最近毎日されている質問だ曷

昨日の今日で見つかるはずがないだろうに曷

しかし甚この日の朔の答えは違った曷

匍ええ曷少し気になっている娘がいます

母親はいつものように否定の言葉が返ってくると思ったのだろう曷

予想外という顔で目を丸くした曷

匍あら曷いつの間に.....曷どこのどなた?盇

匍さあ?盔

匍これから探すんですよ盗

それを聞いて甚期待外れだというように母親は目を細める曷

匍それではこれまでと同じではないですか曷いいですか甚柱石の結界

を完全なものにするために伴侶は不可欠です曷このまま決まらないよ

型の式神を持つ彼女なら不足はないのですから盇 うでしたら甚一瀬家の葉月さんを迎えることも考慮に入れなさい曷人

匍そうですね甚一瀬家曷ん.....一瀬家?盇

走馬灯のように一瀬家の娘と甚その双子の片割れの顔が脳裏を過ぎ

る曷

そして甚朔はくくくっと笑った曷

突然笑い出した朔に甚母親は不審そうな顔をする曷

匍なにを笑っているのですか盗

匍 いえ甚母上を笑ったわけではありませんよ曷灯台下暗し曷世間は

思ったより狭いと思いまして盃

朔は母親に向き直る曷

匍安心してください曷近いうちに花嫁を迎え入れるとお約束します盇

匍信じますよ?盇

疑っている顔だが甚朔のあまりにはっきりとした断言に母親はとり

朔はすぐに動いた曷

あえず納得した様子で去って行った曷

匍一瀬家の双子の妹を調べろ益

* * *

朔との邂逅から早一週間曷

最初はビクビクしながら毎日を送っていた曷

いつ朔が目の前に現れるかと登下校時にも無駄にきょろきょろして

いて甚端から見たらかなりの不審者だったろう曷

しかし甚華の不安をよそに朔が現れることはなく甚取り越し苦労か

とすっかり忘れたある日甚華の運命を変える嵐はやって来た曷

学校の帰り道甚華の横をゆっくりと通り過ぎた黒塗りの高級車曷

黒曜学校ではそれなりに裕福な家の子も多いので甚別に珍しくはな

い 曷

現に甚華の家も使用人がいる程度には裕福で甚葉月などは車で送り

迎えをしてもらっている曷

華はそういうのは窮屈なのでしていないだけだ曷

そんな高級車は甚華の横を通り過ぎた辺りでぴたりと停まった曷

特に気にするでもなく歩いていると甚高級車の運転席から出てきた

スgツ姿の男性が甚華の前を塞ぐように立ち止まった曷

怪訝な表情で見上げる華に甚男性は警戒心を取り除こうとするようゖゖ゙゚

な人のよさそうな笑みを浮かべ問うてきた曷

匍一瀬華様でいらっしゃいますね?盇

初対面の男性に名を呼ばれて警戒するなという方が難しい曷

華はいつでも逃げ出せる態勢を取った曷

そのことに慌てたのは男性の方だった曷

匍お甚お待ちください! 決して怪しい者ではございません盇

匍ええ甚分かってます曷怪しい人は皆そう言うんですよね 盇

匍いえ甚本当に違いますから!
ム

必死で否定するが甚華から警戒心が解かれることはない曷

匍我が主が是非とも華様とお話をしたいと申しているのです曷どう

か甚車に乗ってはいただけませんか?盃

匍嫌です姦

食い気味で否定する曷

そして甚男性の横を通ろうとしたら甚腕を摑まれた曷

匍 ち甚 「違います曷誤解です!」お願いします曷少しだけお話を..

匍おまわりさゅん! ここに誘拐犯がいますよ曷助けて~!盇

華が叫ぶので男性はあたふたとし甚余計に華を摑む手に力が入る曷

それで華はさらに大きな声を上げるという無限ルタプに突入する曷

そうこうしていると甚高級車の後部座席から誰かが出てきた曷

匍まったく甚なにをやってるんだ.....

盇

呆れたようなその声は甚ごく最近聞いた気がする曷寒*

華も騒ぐのを止めて声の主を見ると甚それはこの世で一番会いたく

ない相手甚一ノ宮朔だった曷

匍げつ!

華 は激しく表情を歪めるが甚朔にそれを咎められる曷

匍おい甚げっとはなんだ曷本家の当主に向かって盇

匍 あらいやだ曷私そんなこと言ってませんわよ曷おほほほほ盃

笑ってごまかす曷

朔からはじとっとした眼差しで見られたが甚それ以上の追及はされ

ずほっとした曷

かし甚それで華が解放されるわけではなかった曷

匍話がある曷後ろに乗れ盗

匍拒否権は?盔

匍先日の公園でのことを周りに言いふらしてやってもいいんだぞ?盇

朔が公園でのことを周りに言ったとしても甚信じる者はいないだろ ニヤッと笑ったその顔は甚犯罪者すれすれの凶悪なものであった曷

う曷なので.....曷

匍え~甚なんのことですかぁ?盇

すっとぼける華に甚朔は目を細めた曷

匍変質者呼ばわりされたとお前の両親に告げ口するぞ盇

そんなことになったら面倒臭いことこの上ない曷

匍別に私が来てほしいと頼んだわけじゃないのに甚偉っそうに盇 匍だったらつべこべ言わず乗れ曷こっちは暇じゃないんだ盇

ボソッと文句を言うと曷

匍なにか言ったか?奋

小さな呟きすら拾ってしまう地獄耳に恐れおののきながら甚華はしっぶゃ

ぶしぶ後部座席に乗った曷

運転手は乗ってこず甚車内は華と朔の二人だけ曷

いったいなんの用があるのかと甚華が緊張しているとすぐに朔は話

し始めた曷

匍だらだら話すのは苦手だ曷単刀直入に言う曷俺の嫁になれ盗

匍やだ姦

コンマー秒も考える暇のない甚あまりに早い切り返しに朔は絶句曷

その隙をついて甚ドアに手をかけた曷

匍 じゃあ甚そういうことで曷話がこれだけなら失礼します!盇

匍あっ甚こら待て曷まだ話は..... 盗

朔がなにやら言っていたが甚待てと言われて素直に待つはずがな

し長

過去最高の速さで車から出ると甚家に向かって走り出した曷

重あるじ

重主.....紂

姿を隠している葵から甚なにか言いたそうな空気が伝わってくる曷

匍私はなにも聞いていない曷聞いていないったらいないのよ!盇

まるで自分に暗示をかけるように両手で両方の耳を押さえた曷

せい なにかとんでもない空耳が聞こえた気がしたが甚それはきっと気の なのだ曷そうである曷そうに違いない曷そうであってくれ曷

ひたすらに華は願った曷

そんな悪夢のような一日が終わった翌早朝曷

華は葵と雅を家に置いていくことを告げた曷

そうすれば案の定甚二人から不平不満が噴出する曷

匍どうしてですか? 主様姦

匍俺は絶対ついてくからな盃

匍だ殳めだって盃

匍だからなんで? 盗

葵は納得がいかないのか甚意地でもついてきそうな勢いだ曷

雅はこてんと首をかしげる曷

匍気付いてなかった? あの人甚姿を消してた葵と雅のいた場所を正

確に目で追ってたのよ姦

匍!! 盇

二人は気付いていなかったのか甚声もなく驚いている曷

匍あの人がなんのつもりで私に会いに来たのか分からないけど. 盇

匍うんうん曷そう言ってたよな盗

雅の言葉に葵が頷く曷

匍 h なわけないでしょ! 葉月ならまだしも甚あんな冗談真に受けな

いわよ姦

はない曷

なにか他の理由があるはずだ曷

匍とりあえず甚なにしに来たのかが分かるか甚もう来ないと確信でき

るまでは二人を連れて行かない曷二人の存在がバレたら私の将来設計

が大きく狂うことになるんだから盃

匍ちなみに主の将来設計って?盃

葵が問う曷

匍術者とは関わりのない生活を送ること曷普通の会社に就職して甚定

年 まで稼ぎまくって甚そのお金で老後はお一人様生活を満喫する

の ! <u>益</u>

力強く語る華の将来設計の内容に結婚が含まれていないことに甚雅

が疑問に思ったようだ曷

匍結 いもの曷最悪そこから話が両親に伝わって甚家に連れ戻されるかもし れない曷私はあなた達がいれば寂しくないし甚独身を貫き通すわ盇 婚なんてしたら甚あなた達のことをどう説明していいか分からな

匍そううまくいきますでしょうか?盇

匍やってみせる曷老後は悠々自適にのんびりと送るんだもの盇

華の意思は固い曷

戦いの世界に身を置くつもりはない曷

安全かつ自由に生きていきたいのだ曷

匍そのために甚悪いけど二人はしばらくお留守番しててね盇

二人はやれやれという様子で最後は頷いてくれた曷

しかし甚誰も連れていかないのは心配だからと甚普段は留守番のあ

ずはが一緒についていくこととなった曷

小さなあずはは甚髪にとまりじっとしているので甚 見すると髪飾

りのようにしか見えない曷

そんなあずはを連れていつも通り学校へ向かい甚放課後帰ろうとす

ると甚昨日と同じ黒塗りの高級車の隣で腕を組んで仁王立ちする朔が

待ち構えていた曷

朔 は視線だけを動かしてなにかを探すような素振りを見せた曷

匍今日はあの二人は連れていないんだな盇

ドキッと心臓が弾む曷

匍な甚なんのことですか?盃

やはり二人の存在に気が付いていたことが分かる曷

そんな朔相手にとぼけたところで意味はないのかもしれないが甚自

分から二人の存在を明かす気はない曷

匍.....まあ甚いい曷それより昨日のことだが盇

匍 ああ甚昨日の空耳ですか? 最近耳が悪くなったようで甚すみませ

んでした盔

匍空耳じゃない曷俺の嫁になれ

匍..... 盇

華は無言で逃げ出した曷

今日は昨日と違い朔が追ってきた曷

足の長さの差か甚すぐに捕まりそうになったので甚仕方なくあずは

に命じる曷

匍あずは甚幻惑姦

重はい曷あるじ様紂

髪から離れたあずはが甚周囲をひらひらと舞うように飛ぶ曷

それと共に辺りに霧がかかり甚華の姿を隠してしまった曷

匍なに!! 益

朔 の驚いている声が聞こえたが甚それは走るにつれ気配が遠くなっ

ていった曷

逃げおおせたと喜んだ甚そんな翌日曷

またもや朔の姿が遠目に見えた曷

華はくるりときびすを返して甚違う方向から家へと帰った曷

さらに翌日曷

その違う道に朔が待ち構えており甚開口一番匍嫁にしてやるから話

を聞け盗というので甚匍ノ욫サンキュ욫盗と言って甚あずはの力でそ の場を去った曷

さらにさらにその翌々日も朔は現れ甚匍嫁になれ盃と同じ言葉を繰

り返してきたので華は脱兎のごとく逃げた曷

華が逃げ甚朔が追うという行動は何日も繰り返され甚さすがに嫌気

がさしてきた頃甚ようやく華は腹をくくる曷

朔がいったいなんのつもりで華を付け狙うのか甚その真意を問いた

だそうと思ったのだ曷

その日も華の前に現れた朔に甚華は逃げることなく向かい合う曷

楽しげに口角を上げる朔を前に甚華は降参だというように両手を上

げた曷

匍もうこれ以上ストゥカゥされるのは疲れたので甚ちゃんと話聞きま

す 盇

匍最初からそうしてればいいんだ盇

傲岸不遜にそう言ってふんと小さく鼻を鳴らす曷ごうがんふそん

匍乗れ姦

車に乗った曷

車が走り出し甚着いたのは高級料亭曷

その店の個室へと案内された曷

匍いえ甚結構です

匍そうか曷ここのわらび餅は美味しいと評判なのだが曷いらないなら ***

俺だけ..... 益

匍やっぱり食べます盃

甘いものには目がない華はころりと意見を変えた曷

しばらくしてわらび餅と煎茶がやって来て甚二人きりとなる曷

しかし甚華の視線はわらび餅に釘付けだ曷

スマホを取り出し甚パシャパシャと何度も写真を撮るのを甚朔は呆***

れた様子で見ていた曷

そして甚ようやくスマホを置く曷

匍満足したか?盗

匍はい曷では甚いただきま々す盃

と甚とろけるような表情で甚わらび餅を堪能する曷

匍.....で甚.....だ曷って甚おい!盇

わらび餅に陶酔していたら突然脳天をチョップされた曷

匍痛い! なにするの!! 盇

匍 俺が話しているのに聞いていないからだろ!盇

匍だからって暴力反対! 訴えるわよ

匍 やってみろ曷一ノ宮の当主を訴えたところで負け戦決定だがな盗

匍くう姦

悔しいが朔の言っていることが正しい曷

ノ宮の当主とは甚たとえ己が悪かろうが甚黒を白にしてしまえる

権力を持っているのだ曷

匍 ならそんなお偉いご当主様がなんで私みたいな小娘に構うんです

か ! 姦

匍敬 語はいい曷さっきから敬語だったりため口だったり混ざってる

ぞ曷普通に話せ益

匍じゃあ甚遠慮なく曷ねえ甚なんで?盇

それならと甚華はためらいもなく敬語をどこかに放り投げた曷

匍 ほ んとに遠慮がないな易..... いや甚まあいい曷もう一度言うぞ曷俺

匍契約結婚?盇

の嫁になれ曷契約結婚してもらいたい盗

意味が分からない曷

匍 : 聞きたいことが多すぎてなにから聞いていいか分からん盇

匍最 初から説明する曷今度はちゃんと聞いていろよ盗

匍はいはい盗

さすがにわらび餅を食べている場合ではないと甚菓子楊子を置い

た 曷

が代替わりすると甚結界が弱まり妖魔の活動が活発になるということ 匍 俺が最近当主になったことは当然知っているだろう曷そして甚当主

も 盇

匍うん盗

匍俺は今結界を完全なものにするために力を注いでいるのだが甚それ

は本来一人では行わない曷これは本家でも一部の者しか知らないこと

かし甚俺はまだ伴侶がいない曷だから早急に強い力を持った伴侶を得 だが甚伴侶となる者と共に結界に力を注ぐことで完成させるんだ曷

る必要がある曷そこで目を付けたのがお前だ盗

匍はい甚質問! 盗

そう言って華は手を挙げる曷

匍なんだ?

匍 別に強い力を持ってたら甚伴侶じゃなくても結界は張れるんじゃな

いの?盔

匍結界を完全なものにするには陰と陽甚つまり男と女の力を必要とす

る曷その力はできるだけ拮抗しており甚より近しい存在がいいとされ

ている曷俺に姉妹がいればそれも可能だったかもしれないが甚俺には

弟しかいない上に力量の差が大きい曷そして血縁者以外で結界の補佐 ができる例外が甚伴侶となる者なんだ姦

匍お母さんじゃ駄目なの?盃

匍母は力が弱い曷俺とでは力の差がありすぎて逆に新たな結界の邪魔

になってしまう盇

彼の言いたいことはなんとなく分かった曷

結界のために甚力のある奥さんがほしいということ曷

それもできるだけ早くに曷

だから襲名披露式で花嫁探しなどが行われたのだろうと納得する曷

匍 お前が妖魔を祓うのを見た曷それにお前の式神も曷そこにもいる

な甚式神が姦

朔 の視線が華の頭に向けられたので甚華は頭に指を近付け甚あずは

を指に乗せる曷

匍俺を他の奴らと一緒にするな曷抑えてはいるが甚かなりの力を内包

しているのが分かる盇

さすが一ノ宮の当主といったところか曷

あずはの力にも気が付いているようだ曷

匍 お前も隠しているようだが甚相当な力を持っているな盗

匍気のせいよ奋

匍なぜ隠す曷それほどの力があれば甚姉の残りカスなどと言われるこ

ともないだろうに盔

彼を相手に隠すことは難しいと悟る曷

どんなにはぐらかしても甚強い力がある前提で話を進めてしまう曷

華は深く息を吸って甚大きく吐き出した曷

匍葉月では駄目なの?

匍駄目だな曷式神を見せてもらったが甚あの程度では俺が必要とする

力には遠く及ばない

匍私もそうだとは思わないの?盃

はあの姉よりずっと強い力を持っている曷俺が伴侶として欲しいと思 匍思わないな曷相手の力量を見誤るほど経験は不足していない曷お前

わせる人材だ曷なにより甚俺に媚びないその姿勢が面白い盇

いっそ清々しいほどの自信家曷

当主は五色の漆黒持ちと聞いていたので甚自分への揺るぎない自信

があるからなのだろう曷

そんな彼に対し甚華が言えることは一つだけ曷

匍お断りします 益

匍理由は?

匍私はこの力を誰かに見せびらかす気はないの曷今の学校を卒業した

ら甚術者とは関係のない生活を送って甚普通に就職して甚定年退職

たらどっか田舎に家でも建ててのんびり老後を暮らしたいの曷その計 画の中にあなたの嫁になる予定はないわ盇

華はきっぱりと断る曷

|まな ざ

欮を見振えるその眼差しは揺るきなく甚確固たる意思か見えた惖

匍先程も言ったが甚これはあくまで契約結婚だ曷契約満了時には甚そ

れ相応の謝礼を払う盃

匍必要ないわ曷そんなものもらわなくたって甚自分の力でなんとかし

ていくもの姦

匍どうやって? 奋

朔はニヤリと口角を上げた曷

なんとなく嫌な予感がする華曷

匍 確 か甚卒業後は一ノ宮グルゥプのどこかの会社に就職希望だった

か ? 盇

なぜ知っているのか曷いや甚愚問だろう曷

一ノ宮に迎えようという嫁のことを調査しておかないはずがない曷

匍手を回してどこにも就職できないようにしてやってもいいんだ

ぞ ? 盇

匍なっ!

そんなの卑怯!

会

華 は焦りの色を浮かべ甚思わずテゥブルを叩いて身を乗り出した曷

匍な んとでも言え曷俺は欲しいものはどんな手を使っても手に入れる

主義だ姦

匍迷惑だ殳!盔

匍: ..契約満了時には謝礼として十億円曷さらに好きな土地にお前名

義 の家も建ててやる曷一ノ宮で働きたいなら甚好きな仕事を用意す

る曷老後を遊んで暮らせるぐらいの給料と退職金付きだ盇

匍..... 盇

美お ノ
も
っ
こ
自
ま
北
に
区
っ
に
百
に
に
る
引

匍 11 やいや甚騙されない曷あなたの手伝いをしたら術者として動かな

きゃいけなくなるじゃない!盃

匍今となにが違う? そもそも普段から妖魔に狙われているんじゃな

いのか? 公園でもそうだったのだろう?

反論の言葉が出てこない曷その通りだからである曷

匍ちょっと周りがうるさくなるだけだ曷それに当主の妻ともなれば甚

実家が口を出してきても俺が護ってやれるぞ曷どうだ甚落ちこぼれと

思い込んでいる両親が甚当主の伴侶となると知った時の顔を見たくは

ないか?

見たいか見たくないかと聞かれたら甚ものすごく見てみたい曷

ではなく華がだ曷

両親からしたらこれ以上ない嫌がらせになる曷

匍それに甚いつまでも隠せると思うなよ曷勘の鋭い奴は俺だけじゃな

い曷いつか気付かれる曷その時甚一ノ宮がバックについていたら安心

じゃないか?盃

華は頭を抱えだした曷

朔の言う懸念がないわけではない曷

朔が気付いたことで甚他にも華の力に気付く者がいるのではないか

と心配になったのは確かだ曷

.私はこれまで散々馬鹿にされてきたの曷それなのに力が覚醒し

^ / 三 〇 / - / 三 / 三 | 目目 こ し . ^) よ こ / パ . ^)

たカビこて手のこと返して利用されるのにまこことなの盗

匍 ああ曷俺ならそんな奴らから護ってやれる益

匍老: 後 は田舎で式神達と悠々自適にのんびり暮らしたい 盇

匍契約が満了したら甚好きにすればいい曷家も金も用意してやる盇

華の願い一つ一つに甚朔は応えてくれる曷

これ以上の好条件ありはしない曷

反論の言葉が出てこない曷

この話を受けるのが最善だと分かっているが甚朔の思い通りになっ

たようでしゃくだ曷

匍悔しがる必要なんかないだろ曷お前はたくさんのものを手に入れる

ことになるんだ盇

盁

匍とりあえず契約成立ということでいいか?盇

朔は右手を差し出してきた曷

華は少しためらいつつも甚その手を握り返した曷

匍約束は守ってよ?

匍分かっている曷これから頼むぞ甚華盇

なんの裏もない笑顔で名を呼ばれ華はドキリとした曷

しかしそんな素振りは見せまいと甚そっと視線をそらした曷

匍こちらこそ曷.....一ノ宮さん盗

匍やり直し!盗

なにを不満げな顔をするのか華には理解できない曷

匍はつ?

刵これから結婚しようってのこーノ宮さんはないごろ曷明ご鈺

年でオファダナー (| |-- FE - 4 | | 7

匍どうでもいい気がするんだけど..... 曷分かった甚朔ね甚朔盇

すると甚なぜか朔は眉間にしわを寄せる曷

匍呼び捨てか曷普通さん付けしないか? 一応年上なんだが盇

匍 細かいこと気にしてるとハゲるわよ曷いいでしょ甚その方が対等な

契約相手らしくって盃

匍まあ甚それもそうだな
益

こうして甚なんの因果か甚華は一ノ宮当主甚朔の契約嫁となること

になったのだった曷

話し合いを終えた華と朔は甚店を後にし甚現在は車の中曷

そこで華は朔から紙を二枚手渡された曷

匍なにこれ? 益

匍結婚に関する契約書だ曷ちゃんと書面にしておいた方が安心だ

ろ? 確認して納得したら最後にサインしろ盇

匍こんなのいつの間に作ったの曷えっと甚なになに曷成功報酬に関

: : <u>态</u>

これは先程朔が言っていたように甚十億円と土地と建物甚就職先の

斡旋といったことが書いてあった曷

罰契約期間は基結界の推寺こ払の力が必要よくよるまで? で

の ? 盇

匍ああ曷最初にきちんとした結界を張ってしまえば甚後は俺一人で維

持できるからな盃

匍なるほど甚了解曷あっ甚ちなみに朔って何歳?盇

今更すぎる質問曷しかし甚本家の当主の年齢などこれまで興味な

匍二十四歳だ姦

かったのだから仕方がない曷

匍思ったより若い盗

匍老けていると言いたいのか?盇

ギロリと睨まれてしまい甚華は慌てて訂正する曷

匍そうじゃなくて甚当主になるぐらいだからもっと年齢を重ねてるの

かと思ったの益

匍まあ甚俺は天才だからな盗

得意げな顔をする朔に甚華は毛虫でも見るような眼差しを向ける曷

匍なんだその眼差しは盗

匍自分で言ってて恥ずかしくないの?盇

匍事実だから問題ない曷そんなことより確認はしたのか?盇

匍うん曷はい盃

同じことが書かれた二枚の紙にサインして甚両方を渡すと甚朔も華

の名前の隣にサインをした曷

匍これをお互い持っておくこと曷次にこれにサインだ盇

そう言って渡されたのは婚姻届易

匍えつ! 益

本物の婚姻届に華も動揺する曷

夫の欄にはすでに朔のサインが書かれていた曷証人の欄にも曷

匍さっさと書け盃

匍うええ曷もう書くの?

匍当たり前だ曷そういう契約だろうが曷嫁にならなきゃ契約も始まら

ないんだ甚今になって怖じ気づくな盇

怖じ気づくなと言われても無理がある曷

確かに了承したが甚本物を見せられると現実なのだと思い知らされ

て手が震えてしまう曷

匍早くしろ盗

匍わ甚分かったから曷焦らせないで盇

失敗しないように慎重に書き上げて朔に渡す曷

朔はじっくりと確認してから満足そうに口角を上げた曷

匍よし曷これは今日中に役所に出しておく盗

八歳以上を成人と認めるようになったため甚現在十八歳の華は親の承 少し前まで十代のうちは親の承諾を必要としたが甚法の改正で甚十

諾を得なくても婚姻届を出すことができるのだ曷

匍後はお前の両親に了承を得るだけだな曷まあ甚事後承諾だが盇

華 の家の前に着くと甚華だけを降ろした曷

匍今度の休みに家に行くから甚ちゃんと家で待っていろよ盇

親への挨拶より先に婚姻届を出すとは曷

両親が認めないとは微塵も考えていないのだろう曷

や甚認めようが認めまいが関係ないという方が正しいか曷

年齢は若いが甚朔の方が両親より立場は強いのだから曷

離れの家に戻ってきた華を甚葵と雅が迎えてくれる曷

匍今日は遅かったですね曷心配していたのですよ盇

匍ごめんね甚雅曷ちょっと不測の事態が起きちゃって盇

どう説明したものかと口ごもる華の肩に乗っていたあずはがしゃべ

る曷

重あるじ様が人妻になっちゃった紂

匍は?姦

雅では理解ができなかったようで甚呆けた顔をする曷

匍あずは姉甚どういうことだ?
盃

葵が怖い顔ですごむ曷

葵と雅は最初に式神となったあずはに礼を尽くしており甚姉と慕っ

ている曷

重あるじ様がね甚お金に目がくらんでお嫁さんになったの紂

匍ちょっと甚あずは..... . 盃

葵と雅から送られる視線が痛い曷

匍嘘 はなしですよ? 益

匍

華は甚二人の式神に尋問され甚今日の出来事を包み隠さず話した曷

すると甚二人から呆れたような眼差しが向けられる曷

制主甚それ絶対騙されてる

益

二人の残念な子を見るような目が華の心に突き刺さる曷

いや甚確かにこんな割のいい話甚信じる方が馬鹿を見るかもしれな

ノ 麦

匍でもでも甚本当なら老後は皆で遊んで暮らせるし盇

ここまで来たら意地でも騙されたと思いたくない華は必死だ曷

匍もう少し警戒心を持たれた方がいいと思いますよ曷でないと甚その

うち詐欺にあってしまうかも盇

匍もう遅いかもしれないぞ甚雅曷だって婚姻届にサインしちゃったん

確認するように葵が華に問う曷

匍 しちゃった盇

華はへらりと笑ったが甚やっぱり早まったかと甚今更になって怖く

なってきた曷

匍ど甚どうしよう?! 盇

縋られた葵も困ってしまう曷 ^{すが}

匍結婚してしまわれたら後戻りはできませんよ曷せめて相談してくだ

さったらよかったのに盗

雅も困ったように眉を下げる曷

匍そうだよねぇ..... 曷そこまで頭が回らなかった盗

金に目がくらんだとも言う曷

はははっと明るく笑ってはいるが甚無理やり笑っているようにしか

見えなかった曷

匍雅甚大丈夫だと思うか? 奋

匍 いざとなれば当主を暗殺して逃げましょうか盃

ほわりとした優しげな微笑み顔でえげつないことを言う雅曷

華がなにより大事な葵はこくりと頷くのだった曷

そして甚朔が指定した休日曷

華は音沙汰のない朔のことなどすっかり忘れて甚アニメを見ながら

号泣していた曷

匍うううっ 甚何度見ても泣ける曷名作だわ甚これ盇

見るに見かねて雅が声をかける曷

匍なにが?

匍一ノ宮の当主が来られる日ですよ盗

華 は雅に言われてやっと思い出したようだ曷

匍あ~曷そう言えばそうだったかも益

匍主様..... 盇

匍そんな呆れた顔しなくても曷だってあれから一切連絡なかっ たから

すっかり忘れてたんだもん曷本当に来るのかな? もしかしてからか

われたんじゃないかと思ってるのよね盗

なんてことを話していたら甚バタバタと足音を立てて誰かが離れに

やってくる曷

隹」をますべこという シニョ

匍華様!盇

やって来たのは紗江である曷

いつもおっとりとした紗江では考えられない慌てようだ曷

匍紗江さんどうしたの?盇

匍今甚一ノ宮のご当主様が! 華様もご同席するようにと益

急いで支度をして母屋へ向かい甚当主がいるという部屋に入ると甚

朔の姿があった曷

匍うわぁ甚ほんとに来た盗

口元を引きつらせる華を見て甚朔は眉をひそめる曷

匍来たら悪いのか曷まさか忘れたとは

盇

匍華 ! ご当主様に対してなんだその態度は曷失礼だぞ!盇

そのご当主様の言葉を遮るあなたの方が失礼だろうにと思いなが

ら甚部屋にいた父親を見る曷

他に母親と葉月も一緒にいたが甚兄はいつものごとく不在のよう

だ 曷

匍早く座りなさい!

匍はい
森

やれやれという感じで返事をして甚葉月の隣に座ろうとすると甚朔

が止める曷

匍待て甚華曷お前は俺の隣に座れ盗

匍えつ?

裏返った声を出したのは父親だ曷

華 は朔が来たことで先日の話が本当だと信じ甚それを聞いた両親が

どんな顔をするかと思うと笑い出しそうだった曷

平静を装い甚言われるままに朔の隣に座れば甚朔が来た理由を知ら

眼差しを向けてくる曷態ないらしい両親と葉月は甚なんでお前がそこに座るんだと言いたげなないらしい両親と葉月は甚なんでお前がそこに座るんだと言いたげな

実に愉快だ曷

匍

辛抱たまらず父親の方から話を切り出した曷

朔は不敵な笑みを浮かべると甚華を一瞥してから口を開いた曷

匍 俺 の妻として甚一瀬家の娘をもらい受けたい盃

匍そ甚それはつ

顔を明るくする両親曷

母親は甚葉月の肩を抱いて匍よくやったわ盇と喜んでいる曷

朔の隣にいる華を無視してなぜそこで葉月を褒めるのか曷

おいおいと思いながら甚華は次の言葉を待った曷

匍ここにいる華との結婚の了承をもらいたい盇

匍へ?姦

そのぽかんとした顔に甚華は笑い出さないように口を真一文字にし

てこらえるのに必死だった曷

両親は一瀬の娘と聞いて葉月だと思ったのだろう曷

瀬家には華もいるというのに曷しかも朔の隣に座っている曷

端から両親の眼中にはなかったことを教えられたようなものだ曷

けれど甚悲しみはない曷そんな次元はとうの昔に乗り越えているの

だ曷

なので甚にごに空の両視のア大面が楽しくてならなハ昜

匍 お甚お待ちください! 華ですか? 葉月ではなく

匍そうだ盇

匍 いや甚しかし甚華は術者としての能力も低く甚式神は蝶です盃

父親は理解が追いつかない様子曷

必死で華がいかに出来損ないかを訴えている曷

匍 それに引き換え葉月は人型の式神を持ち甚黒曜ではトップの成績を

収めております易ご当主様の伴侶には葉月の方がふさわしいと思いま

す ! 盇

匍それでも俺は華を選んだ曷それに甚結婚の了承をもらいに来たとは

言ったが甚すでに婚姻届は出して受理されている曷つまり甚華はすで

に一ノ宮の人間だ姦

本当こ盾烟畐を出したのかと甚こここ来て明の本気を浬解する曷

匍なっ甚親の了解もなく勝手ではないか!

顔を真っ赤にして怒りを表す父親曷

その怒りの理由ははたしてなんなのか曷

少なくとも甚華のことを想っての言葉ではないのは確かだろう曷

怒る父親を前にしても甚朔の様子は変わらない曷

傲岸不遜に鼻で笑う曷

ぬ妹の方を俺がもらってやるというんだ曷むしろ礼をもらいたいぐら とだけかわいがっていることは俺の耳にも届いている曷お前達がいら 匍散々放置していた娘のことだろう曷なにを怒る? なんだがな姦 お前達が姉

両親は気まずそうに視線をうろうろさせる易

その様子に甚自覚があったのかと華は驚くのだった曷

匍し甚しかし..... 盗

匍くどい曷そもそもお前達の了解は必要としていない曷華はすでに成

人しており甚婚姻に親の同意は必要ない曷そして甚先程も言ったよう

に婚姻届は出した曷華はもう俺のものだ盇

がっくりと肩を落とす父親に甚華は冷めた眼差しを向ける曷

あれほどかわいがっていた葉月ではなく甚華が選ばれたことがそれ

ほどにショックだったのか曷

親としても一瀬の当主としても甚父親は判断を間違えたのだ曷

もしも華のことも葉月と同じように育てていたら甚当主の伴侶を出

した家として恩恵を受けられたかもしれない曷

けれど甚華はそんなことを朔に頼むつもりなどさらさらなかった曷

このまま落ちぶれた分家の一つとしてやっていけばいいのだ曷

それが華の復讐である曷

匍話はそれだけだ曷華

匍なに?盇

匍今すぐ荷物をまとめてこい曷今日から本家で暮らす盇

匍はあ? 今? 査

この傲岸不遜男はなにを言い出すのかと甚怒りが湧く曷

匍 とりあえず数日過ごせるだけの荷物でいい曷他の物は後日業者を呼

ぶ盔

匍いやいや甚だからって盗

リーハ・ヘ丁・コーラ

匍ししから行ってこし 盗

の偉そうな男と結婚してしまったことへの後悔が押し寄せてく

る曷

しかし甚この家にいたところで後々居づらくなるだけだと考え直し

て甚しぶしぶ離れへと戻る曷

匍やっぱりまずったかなぁ曷けど今さらなかったことにできないし曷

.....それに報酬がなくなるのは困る盇

お金の力って怖いと思いながら甚とりあえず必要な学用品と数日分

の荷物をまとめていると甚後ろに気配がした曷

振り返れば甚葉月が立っていた曷

匍どうしたの甚離れに来るなんて初めてじゃない?盇

匍どうして?どうして華なの? 盔

葉月が言いたいことを理解していながら聞き返す曷我ながら性格が

悪いなと甚華は小さく笑った曷

そのことが葉月の怒りに火を付ける曷

匍なに笑ってるのよ曷馬鹿にしてるの? 今からでも遅くないから私

に譲ってよ曷華なんかがご当主様の伴侶になってやっていけるはずが

ないじゃない! 身の程をわきまえないと曷華は弱いんだから盃

匍 : : 弱 いから甚自分の方がふさわしいって?盇

匍そうよ

匍ねえ甚それ本気で言ってるの?盇

華は真剣な眼差しで葉月を射貫く曷

普段とは様子の違う甚どこか迫力のある華の様子に葉月は気圧され

匍な甚なによ曷本当のことでしょう? 華より私の方がご当主様にふ

さわ しい力を持ってるもの曷華じゃ役立たずじゃない盇

匍確かにそうかもね曷.....けど甚葉月は本当に朔と結婚したいと思っ

てるの?盔

匍当然じゃない曷だってご当主様に選ばれるのはとても名誉なことだ

もの曷それに私が伴侶となれば一瀬家のためになる盃

匍一瀬家のため甚ね盃

華は深く溜息を吐いた曷

匍なによ

匍 ねえ甚葉月曷いい加減そういうの止めにしたら?盇

葉月は分かっていない曷これまで散々苦言を呈してきたが甚葉月の

心には刺さらなかったようだ曷

匍誰かのためって言うの曷家のため甚お父さんのため甚お母さんがそ

う言うから甚周りの友達がそう期待するから曷いつも葉月の行動に自

分の意思は伴ってないじゃない盃

匍このままだと甚ずっと葉月は葉月じゃなくなるわよ盗

華は忠告する曷

もしかしたらこれが最後になるかもしれないと思いながら甚道が分

かれた自分の半身に向かって心からの忠告をした曷

匍どういう意味? 私は私よ曷そんなの当たり前でしょう盃

伝わるとは思っていない曷

ナ〜ごき1つハこり言言り意未こ記け1こ次

すともしてたこの言葉の意味に気作して谷しし長

匍 ねえ甚葉月曷昔はよく一緒に話をしたよね曷その時葉月はよく言っ

てた曷皆の期待が重いって曷嬉しいけど辛いって曷いつから葉月は文

句を言わなくなったの?盇

葉月は答えない曷

匍私が言えるのはそれだけよ曷じゃあね甚葉月盇

大切だった私の片割れ曷

最 後は昔の葉月に向けるようににこりと微笑みかけ甚離れを後にし

た 曷

母屋へ向かえば甚朔が待っていた曷

制遅いぞ益

引 ろう アンクニュ こう 1 にくて にっ 月気 してこつよ弦

育はどさしる言こですして、オカシ月竟してカネしる

暗に甚突然言い出すお前が悪いと告げているのだ曷

それが伝わったのか分からないが甚それ以上文句を言うことなく朔

は匍行くぞ盃と外に出る曷

匍それではお世話になりました盃

晴れ晴れとした笑みを残して甚華は一瀬の家を出た曷

* * *

本家へと向かう車の中で甚華は突然声を上げた曷

匍のああ殳!
森

匍なんだ? うるさいぞ盇

旬隹のナーご上思ってるのよ易 あよこが突然体家で事っすよって言う

育言のせしナイディーでので見るオナナシダスミニ・春ででオナニョニ

から紗江さんに挨拶できなかったじゃない盃

最 もお世話になった紗江は甚華を呼びに来た後買い物に出ていてい

なかった曷

他の使用人にだって甚あんなにも世話になっておきながら挨拶の一

つもせずに出てきてしまった曷

匍それならまた会いに行けばいいだろ盇

匍 あ んな風に家を出て来た私にのこのこ帰れと? 両親からの嫌みや

妬みの言葉が炸裂することになるじゃない盃船を

早々に朔に捨てられたのかと甚声を上げて笑われそうだ曷冗談では

ない曷

匍なら手紙を書いたらいいだろう盇

匍それしかないか盃

引止・ノよ・・・・・・)

華は朔をギロリと睨む曷

匍そんなこととはなによ曷そもそもあなたが急すぎるから悪いんで

しょうが!盔

紗江のことを軽く扱われたようで苛立つ曷

朔が紗江達のことなど知るわけないので甚これはただの八つ当たり

である曷

しかし甚まったく朔が悪くないわけではないので甚決して理不尽な

怒りではないはずだ曷

匍分かった甚分かった曷俺が悪かった曷これでいいか? 重要な話が

したいんだ姦

匍全然よくないけど甚とりあえず話を聞くわ奋 かんしやく

子供の癇 癪のような扱いが気に食わないが甚ここでさらに駄々を

こねるほど子供ではない曷

匍これから本家で暮らしてもらうことになる曷本家に行ったらとりあ

えず先に母に会ってもらいたい益

匍それは当然だと思うけど甚お母様だけ? お父様は?盇

すると甚朔は苦虫をかみつぶしたような顔をする曷

匍 あのくそ親父は放っておけばいい曷所詮過去の当主の一人でしかな

い益

匍仲悪いの? 盔

匍よくはないな曷関わり合いたくない相手だ曷できれば今後一生な盇

匍へえ甚そう

自分で聞いておきながら華の反応はなんとも興味がなさそうだ曷

1. リよ室 ヒ月よック 1. 見つりら引

匍なに?
森

匍 しり や甚親とは仲よくした方がいいとか甚前当主に対してあんまりな

態度だとか甚お前はそんな風に言ったりしないんだな盇

匍だって私がそんなこと言っても説得力ないでしょ 盇

なぜ知っているのかと疑問が出てくるが甚一ノ宮の当主なのだから 両親との不仲.....というか関心のなさは朔も知るところだった曷

分家のことを調べるのは容易いのだろう曷

匍確かに説得力ないな

なにが楽しいのか甚朔はくくくっと笑っている曷

しり まいち朔の笑いどころが分からない華だ曷

匍 母 との顔合わせが終わったら甚一週間後に祝言を挙げる盗

これには華もぎょっとする曷

匍そうだ曷できるだけ早いほうがいい曷早急に分家にお前の存在を周

知させて甚結界の強化に集中したい盇

結界のための結婚であることを思い出して甚華も納得する曷

しかし甚そこで疑問が曷

匍質問なんだけど甚結界のための結婚なら別に周知させる必要も甚祝

言を挙げる必要もなくない? 結界が完全になったら離婚するわ けだ

し甚黙っておけばお互い余計なことに煩わされなくていいんじゃない

の ? 盇

匍それは駄目だ曷結界のためにはただ婚姻届を出せばいいというわけ

やな い曷あれはあくまで紙の上での手続きにすぎない曷分家の前

伴侶となることを誓うことで甚伴侶として認められ甚結界にも干渉すばの。

ノニーリニー

欠だ姦

なんとも面倒なしきたりだ曷

結婚を隠したままでいられたら甚後腐れなく離婚もできるだろうと

思っていたが甚見当が外れた曷

当主と結婚することが周知されたら甚いろいろ周りがうるさいだろ

うなと甚考えただけでもげんなりしてくる曷

匍ただ甚覚悟はしていてくれ盗

華は首をかしげる曷

匍母 や家の者はお前を落ちこぼれとしか認識していない曷母は以前か

らお前の姉を俺の伴侶にと推していた人だ曷一瀬の家より居心地は悪

□ ×・・・・・・ く ニー を ・・・・・ ト

.]

ไ -

) |"

くなるかもしれなし怎てきるたけ侑もフォロゞするか甚目か行き届か

ないこともあるだろう盃

匍それは仕方ないんじゃない曷全然オッケ々曷問題なし盇

深刻に話す朔とは違い甚華は全然気にしていない様子曷

匍軽すぎないか?盃

匍伊達にこの年になるまで葉月と比べられてないわよ曷嫌みや陰口は゛゛

日常茶飯事なんだから曷それに甚朔が護ってくれるから力を隠す必要

もないんでしょう? やられたら倍返ししてやるわ盗

に やりと笑う華には甚その程度のことなんの障害にもならないよう

だ 曷

それが分かり甚朔は穏やかな表情を浮かべる曷

匍頼もしいな盃

) を引た出え ----

くださいな盃

匍結局はそこにたどり着くのか益

朔は呆れたように笑うが甚それこそが華の目的である曷

匍当然曷ちゃんと約束は守ってよね

匍分かってる曷迷惑料込みで色を付けて渡してやるさ盇

匍やった曷さすが一ノ宮のご当主様曷よっ甚太っ腹!盇

二コニコと笑顔で喜んでいると甚不意に朔の手が華の後頭部に回さ

れる曷

きょとんとして不思議そうにする華の顔に朔の顔が近付いてくる曷

あ甚まつ毛長いな曷などと考えている間に甚その綺麗な形の薄い唇

が甚ゆっくりと距離を詰め甚華の唇に触れた曷

柔らかい感触が触れたと思ったらすぐに離れていった曷

あまりに一瞬のことに甚華は目が点になる曷

匍ななな甚なにを!! 盗

匍なにってキス盗

匍なんでするの? する必要あった? 盇

今のどこにそんな雰囲気があったのか曷

匍 いや甚だって夫婦なんだからキスぐらいするだろう?

なにか問題でもあるのかというように朔は涼しい顔をしている曷

騒いでいる華の方がおかしいとでもいうように曷

だが甚決して間違っていないはずだ曷

匍それは本当の夫婦の場合でしょう? 私達のは契約結婚

匍 だが甚ちゃんと婚姻届を出したんだから本物の夫婦であることに違

いはないだろう?盇

匍 そ甚それはそうだけど曷そんなの契約にない!奋

匍 しないとも書いてなかっただろ曷なら問題はないはずだ盇

匍ぐっ..... 盇

それを言われてしまったら華も反論ができない曷

匍だったら今から契約に追加して盃

匍嫌だ姦

匍どうしてよ!盇

朔の胸ぐらを摑んで前後に揺さぶる曷

匍うわっ甚止めろこら

匍契約見直してくれないからでしょう!盇

匍だから嫌だと言ってるだろ益

邪魔をする第三者の声に思わず華は振り向いて睨み付けた曷

その相手は運転手だったようで甚睨まれてしまった運転手は申し訳

なさそうにドアを開けて甚二人が出てくるのをじっと待っている曷

匍あっ甚すみません盃

匍 いえ甚こちらこそお邪魔をしてしまったようで..

匍えつ? あつ 益

予想以上に近くなっていた朔を突き飛ばして華は笑ってごまかす曷

匍お前甚当主である俺への扱いが雑すぎるぞ盇

ジロリと睨まれたが甚華には通じない曷

匍朔が悪いんでしょ曷あ甚あんなこと..... 盗

自分で言っていて思い出してしまい顔が赤くなる曷

その初々しい反応に甚朔は意地悪く口角を上げる曷

匍なるほど甚初めてだったか盃

カッと顔に熱が集まる曷

匍これからが楽しみだな盗

匍朔!盇

恥ずかしさを隠すように朔を怒鳴ることしかできなかった華に甚朔

は手を差し出した曷

匍ほら甚もう本家に着いたぞ盃

急に優しく笑いかけてきた朔に華の心臓が跳ねる曷

そして甚まるで吸い寄せられるように朔の手に手を乗せた曷

ぐっと引っ張られ車の外に出れば甚一度だけ来たことのある本家の

建物が視界を覆い尽くす曷

これからここで暮らすのかと思うと甚期待と不安がない交ぜにな

る曷

朔の話を聞く限り甚ここの住人は華を快く受け入れてはくれない

ろう曷

けれどそんなことは最初から分かっていたことだ曷それでも朔の話

を受け入れたのは華自身曷

よりよい老後を手に入れるため甚今一度気合いを入れ直す曷

匍よし曷鬼でも蛇でもどんとこい!盇

匍残念ながら俺の母は鬼でも逃げたくなる人だ

......人が気合い入れてるんだから水を差さないでよ盇

は朔にじとっとした眼差しを向ける曷

華

匍悪い曷一応注意しておいた方がいいかと思ってな盇

)傲岸不遜な朔にそこまで言わせる母親とはいったい.....曷 エラッディ スー キーム 華のことを思ってのことなので甚それ以上の文句は言わないが甚こ

匍朔の話聞いたら逃げ帰りたくなってきた盇

匍もう手遅れだ 島語める 金

朔は嫌がる華をずるずる引きずるように引っ張って家の中へ入って

いく曷

匍お帰りなさいませ甚坊ちゃま盇

中へ入れば甚とても優しげな白髪の老婆に出迎えられる曷

匍坊ちゃま.....っ

華は笑いをこらえるあまり肩が震える曷

いつも偉そうな朔が坊ちゃまと言われているのがツボに入ったよう

だ 曷

朔 は頰を赤らめて恥ずかしさに震えながら老婆を怒鳴りつける曷

匍十和! 坊ちゃまは止めろ!
血とわ

十和という老婆は甚朔に怒鳴られてもケロリとした顔で甚ほほほっ

と柔和に笑う曷

匍それは失礼いたしました甚ご当主様曷それで甚そちらが噂の奥方様

でございますか?盇

匍ああ甚そうだ曷.....いい加減笑うのを止めろ盇

頭に軽いチョップを受けて甚華はようやく笑いのツボから抜け出

た 曷

匍華と申します曷これからどうぞよろしくお願いいたします盇

華も一応一ノ宮の分家の娘曷最低限の礼儀作法は習っているので甚

とても綺麗な礼で十和に挨拶をした曷

匍これはご丁寧に曷私はこの家の使用人をしております甚十和でござ

います曷ご用がございましたらいつでもお呼びください盇

匍これからお世話になります盃

互いに挨拶が終わったところで甚朔が口を開く曷

匍挨拶はそれぐらいでいいだろう曷母上は?

匍坊ちゃまが奥方様をお連れするのを首を長くしてお待ちですよ盇

匍ほほほ曷そうでしたね甚ご当主様姦

きっとこのやりとりは何度となく行われているのだろう曷

そして甚十和が坊ちゃま呼びを直す気がなさそうだということが分

かった曷

十和の案内でとある部屋前へ曷

匍奥様曷坊ちゃまがお戻りです盇

匍入りなさい盃

どこか冷たさを感じるキリッとした声曷

ふすまを開けて中へ通される曷

匍ようこそ甚一ノ宮へ
益

一本の後れ毛も許さぬきっちり結い上げられた髪に甚つり目がちな

気の強さを感じさせる眼差し曷

その容姿はどこか朔を感じさせる整った顔立ちで甚和服がよく似

合っていた曷

華を見るその目に優しさは一切感じられず甚厳しく華を見据えてい

た 曷

華は縫い止められたように足が動かなかったが甚朔に肩をそっと押

されたことで硬直が解けた曷

匍はじめまして曷華と申します盃

緊張で声が硬くなる曷

もっと気の利いたことが言えたらよかったのだが甚必死で浮かべた

笑みが引きつっていないかという心配だけで頭はいっぱいだ曷

華が笑いかけても朔の母親は顔色一つ変えない曷

匍はい曷妹です盇匍一瀬の甚姉の方ではありませんね?盇

華が答えると甚朔の母親はギロリと朔を睨 む曷

匍 朔 曷 あなたは彼女が周りからなんと呼ばれているか知っているので

すか?姦

匍 姉 の残りカス甚出涸らしなんてのもありましたか?盇でが

朔はひょうひょうと答える曷

華の力を理解している朔にとって甚そんなあだ名など特に意味をな

さない曷

しかし甚母親はそうではなかった曷

匍分かっていて甚なぜその娘を選ぶのです! 私はその娘を一ノ宮へ

迎え入れることは許しませんよ曷そんな無能は一ノ宮にはふさわしく

な い 盇

まさに激昂曷

あまりの迫力に華は身をすくませる曷

朔が鬼でも逃げたくなると言った意味が分かった曷これは怖い曷平

然と向かい合っている朔が甚なんとも頼もしく映った曷

匍関係_・ ありませんね曷母上の許可など求めていない 盇

それは母親に対する言葉としては甚ひどく突っぱねた物言いだっ

た 曷

当たり前だが甚朔の母親は気に障った様子曷

匍なんですって
盗

匍これは一ノ宮当主である俺が決めたこと曷それをたとえ母上といえ

ども口出しはさせません盃

匍朔つ!盇

朔の母親は声を荒げるが甚朔が意見を変えることはない曷

匍話はそれだけです曷祝言は一週間後に挙げる予定です
益

匍私は認めませんよ姦

ならば祝言は欠席していただいて結構です曷無理にとは言いませ

ん曷あなたは当主の母であるが甚今後この屋敷の女当主は華になるの

ですから

朔は最後まで毅然とした態度を崩さなかった曷

匍では甚失礼します盃

朔は華の手を取って立ち上がると甚足早に部屋を後にした曷

立ち去る前に華が礼をして部屋を出るその時まで甚朔の母親の眼差

しは厳しいままだった曷

匍.....ねえ甚あんなこと言っていいの?盇

匍仕方ない曷母は見た通り頑固な人だからな曷華のことを無能と思っ

ている以上甚結婚を許すことはない曷だが甚母の許しを気長に待って

動きが活発になっているのは華も感じているだろう盇 いる余裕はないんだよ曷早く結界を完全なものにしなければ甚妖魔のいる余裕はないんだよ曷早く結界を完全なものにしなければ甚妖魔の

華はこくりと頷く曷

先日Cクラスである華まで妖魔狩りに駆り出されたのだから甚それ

は嫌でも実感している曷

匍私が力を示したら問題なくなる?盇

ずっと力を隠し続けてきた華だが甚期間限定のこととは言え甚でき

るだけ 姑 とのいざこざは避けたい曷

華が力を見せつけることで人間関係が潤滑に進むのならそれもあり

だろう曷

後々起こる面倒ごとは甚すべて朔に放り投げればいいのだから曷

しかし甚母親のことをよく分かっている朔ははっきりと肯定はしな

かった曷

匍そうだな曷だが甚母は頑固の上に頭の固い人だから甚 度無能と判

断した華のことをすぐには認めないだろう盇

匍それはまた甚困ったことだわ益

匍まあ甚いずれ華が無能ではないことを理解するだろう曷それまでは

辛抱してくれ

匍まっ甚それも含めての報酬と思っとく盗

努めて明るくそう切り返せば甚朔がわしゃわしゃと華の頭を乱暴に

撫でまくった曷

匍ちよっと!盇

突然なにをするのかと怒鳴りつけようとしたら甚朔があまりにも優

匍華はポジティブだな曷羨ましい限りだ<u></u> げな微笑みを浮かべていたので気が削がれる曷

匍 朔は傲岸不遜よね曷なに様なんだか盃

割ご当上羨ご易 もっと まが あが

匍無理姦

などと軽口を叩きながら時間は過ぎていった曷

めに用意された華専用の部屋だ曷 朔の母親との面会の後に案内された一室は甚ここで暮らしていくた

あらかじめ生活するに不自由ない生活用品がそろえられていたが甚

匍なにか足りない物はあるか?盇

これらはすべて朔が手配したものらしい曷

匍そろいすぎるぐらいそろってる盗

普段華が愛用しているメゥカゥの化粧品まで曷

ここまでそろっていると逆に怖い曷

匍.....なんだその顔は盇

まるでストゥカゥでも見るような目をしていた華に甚朔は苦い顔を

する 曷

匍いや甚どこまで調べたのかと考えたら甚ちょっと気持ち悪.. : 盇

匍お前はもうちょっと言葉を選べ曷さすがの俺でも傷付くぞ盇

匍ごめん甚心の声がつい漏れちゃって

と甚そんな話をしていたところへ甚大きな音を立てて扉が開かれ

た 曷

匍ご主人様ぁ曷椿を置いてどこ行ってたの~?盇

ツインテゥルのケモミミメイドが飛び込んできた曷

メイドは朔にぎゅうぎゅうと抱き付いている曷

それを目にした華は頰を引きつらせた曷

匍ご甚ご主人様...... 曷ケモミミメイドにご主人様って呼ばせてる

の ? 朔ってそんな趣味があったんだ曷見かけによらず..

匍違う!

式神の容姿はできてみないと分からない曷華が葵と雅を作った時も

性別をどうしようと考えてその通りに作れたわけではないのだ曷

だが甚そんな子にフリフリメイド服を着せているのは.....曷 なので甚ケモミミの女の子ができるのはどうしようもないことなの

匍そんな顔してメイド好き.....

微妙に距離を置いた華を見て甚朔は慌てて否定する曷

匍こいつは俺の式神の椿曷メイド服はこいつの趣味だ!盇

朔は椿を無理やり引き剝がして距離を取る曷

匍ご主人様の愛人の甚椿で没すう盃

匍やっぱり盔

匍やっぱりってなんだ? 椿も勘違いさせることを言うんじゃな

い ! <u>森</u>

朔はクワッと目をむいて甚べしりと椿の頭をはたいた曷

匍痛あい甚ご主人様のいけずう盃

語尾に八gトが付きそうな声色で話す椿は甚かわいらしい見た目に

反して甚内から感じる力は全然かわいらしくなかった曷

華 は目を細めて椿を見ながら顎に手を置く曷

匍葵と同じぐらいか.....

戦闘に特化して作った葵は甚あずはや雅よりも多くの力を込めた曷

その葵と同等の力を彼女からは感じる曷

匍あおい?

華の呟きを耳ざとく聞き逃さなかった椿が首をかしげる曷っぶゃ

匍えっと甚私の式神盃

**匍え

り 甚

見

た

い

見

た

い

見

と

こ

?

な**

どこと椿に問われて華も困った易

葵と雅の存在はこれまで誰にも話したことがなかったのだ曷

朔は一度公園でのできごとで見ていたと思うが甚わずかな時間だっ

た 曷

きちんと式神を見せてはいない曷

華 はどうしたものかと困ったように朔を仰ぎ見る曷

匍呼び出してみろ曷俺もちゃんと見たわけではないから甚確認したい 甚椿とも顔合わせさせておきたい曷これから一緒に暮らすなら必要

少し考えて甚今さら隠す必要もないかと大事な式神達を呼ぶ曷

だろう

匍.....分かった曷葵甚雅甚出てきて盇

まず先に甚華の髪に飾りのように止まっていたあずはがひらひらと

飛んで肩に止まる曷

それと同じくして甚部屋に葵と雅が姿を現した曷

やはりというか甚朔にはある程度の場所を特定できていたようで甚

視線は最初から葵と雅が現れた場所を見ていた曷

ムスッとした様子の葵と甚にっこりと微笑む雅の表情は対照的だ曷

匍二人とも甚自己紹介姦

匍華様の式神をしております雅と申します盇

雅はとても優雅に一礼した曷

匍葵だ姦

雅とは逆に素っ気ない挨拶をした葵だが甚どうやらその一瞬で椿の

心を射止めてしまったらしい曷

匍や~ん曷かっこいい!

椿は頰を染めて葵に抱き付いた曷

突然の行動にそれまで不機嫌そうだった葵は戸惑い甚うろたえる曷

匍はつ甚おい甚ちょっと離れろ!盗

匍 やだぁ曷葵君って言うの? 私のタイプドンピシャなんですけ

どお盇

振り回されてもなお甚吸盤でも付いているかのように葵に張り付い

ている曷

匍ご主人様曷今日からご主人様の愛人止めて甚葵君の恋人になる~ 盇

匍あ殳甚好きにしろ盇

朔は興味がなさそうな様子で手を振る曷

匍はつ!? 好きにすんな! なに勝手なこと言ってやがる曷さっさと

離れろお!盇

匍もう決めたもらん益

匍あ甚主!助けてくれ! 益

救援を求め手を差し伸べられるが甚華としてもどうしようもない曷

雅は楽しそうに微笑みを浮かべているだけだし甚朔は興味がなさそ

うだ曷

そして問題の椿はてこでも動きそうになかった曷

そもそも主人でもない華が言ったところで甚椿は言うことを聞かな

いだろう曷

重嫌なら姿を隠したらいいの紂

あずはの言葉ではっとした葵は甚一瞬のうちに姿を隠してしまっ

た 曷

どうやら一番冷静なのはあずはのようだ曷

匍え~曷葵君消えちゃった

残念そうに落ち込む椿に甚朔が声をかける曷

匍うるさいからお前も姿を消してろ盔

匍ひど~い甚ご主人様盇

虫を払うように手を動かす朔に文句を言いつつ甚椿も姿を消した曷

残った式神は甚あずはと雅だ曷

朔は二人をじっと見つめる曷まるでなにかを確認するように曷

かなり不 躾な視線だったが甚雅が微笑みを絶やすことはなくその ぶょうけ

視線を受け続けた曷

そして甚朔が口を開 く 曷

匍なるほど甚かなりの力を持った式神だな盗

匍当然盔

華は自慢げに胸を張る曷

葵ほどの強さはないが甚あずはも雅も華が丹精込めて作った自慢の

式神だ曷

匍蝶があずはよ盗

すると甚ひらひらと甚蝶が朔の目の前を飛ぶ曷

亘 ろげ よごよ す

匍驚 いたな曷式神の中では低位のはずなのに言葉を伝えてくるのか盇

て 甚 **匍昔はできなかったんだけどね曷私が十五歳の誕生日に力が覚醒** 盇 あずはにもたくさんの力を分け与えたら話せるようになったの

匍確かに蝶とは思えない強い式神だ曷すごいな

ょ

重えっへん曷あるじ様にいっぱい力もらったもん紂

朔に褒められてあずはも得意げだ曷

だが甚事実として甚つたないながらも言葉を話 し甚自分の意思で行

動できるあずはのような低位の式神は普通ではない曷

華も甚あずは以外でそんな式神の話は聞いたことがなかった曷

だから決して朔がお世锌を言っているわけではないのだ曷

すると甚それまで微笑んでいた雅が口を開く曷

匍一ノ宮の当主様姦

匍朔でいい

匍 では朔様と曷この度の話はだいたいのことを主様より聞 しり 7 お りま

す曷主様は我らにとってかけがえのない大事なお方曷決して軽く扱わ

ぬようお願い申し上げます盃

匍分かっている盃

匍 も し万が一主様が辛く悲しむようなことがあったなら甚その時

に : : : :

そこで雅は意味深に深く微笑んだ曷反対にその目はまったく笑って

はいない曷

その目が甚万が一の時は覚悟しておけと暗に告げていた曷

匍ゆめゆめお忘れなきよう盗

匍心に留めておく盗

最後はいつもの優しい笑みを浮かべて甚雅もまた姿を消した曷

あずはも再び華の髪にとまり動かなくなる曷

匍お前の式神はすごいが甚怖いな盗

匍かわいい子達でしょ?盇

ふふんと甚華は得意げに笑う曷

だが甚先程の会話でかわいいと評するのは華だけのよう曷

神が三体か 匍お前に対 しては甚な曷できれば敵に回したくない強さだ曷そんな式 確か甚十五歳の誕生日に覚醒したと言っていたな盇

匍うん姦

匍それまでは噂通りの落ちこぼれだったのか?盇

合は優秀な葉月がいたから余計に弱く見られていたのは否めないけ あったけど甚概ね周りの評価通りの力しかなかったわ曷まあ甚私の場 **匍そうね曷一応あずはっていう式神を作り出す程度には術者の能力が**

双子じゃなかったら曷

葉月のような優秀な姉がいなかったら曷

もう少し世間の嘲笑の声は少なかっただろう曷

華もこんなにひねくれた物の考え方はしなかったかもしれない曷

あるいは甚もっと早くに力が覚醒していたら.....曷

けれどその時は甚葉月の方が華と比べられただろう曷なので甚華と

てはどっちがよかったかなど判断はできない曷

紙一重だったのだ曷華と葉月の立場は曷

ごかっこそ 甚らり関系は1 上無関いを長1つつら 甚葉目こコを出し

葉月には伝わらないと分かっていながら甚本気で無視はできないの

だ 曷

匍きっかけは? なにか心当たりはなかったのか?盇

匍全然曷ほんと急に一皮剝けたように力が溢れ出してきて自分でも

びっくりだったもの曷予兆もなかったしね盗

匍そうか曷他の者でも突然覚醒する可能性があるのかと思ったが甚こ

れだけの話では分からないな盗

匍過去に私みたいな人はいなかったの?盇

朔は首を横に振る曷

匍 いいや甚聞いたことないな盃

術者の情報が集まってくる一ノ宮の当主である朔がそう言うのな

ら甚いないのだろう曷

華のように隠しているなら分からないだろうが甚華の場合は特異な

例だ曷

普通は強い力を得たら喜び甚周りへと知らしめるだろうから曷

匍 まあ甚理由が分からないんじゃ考えたって仕方ないじゃない盃

考え込む朔を見て甚華はその話題を切り上げる曷

少し名残惜しそうなのは甚本家の当主として甚他にも力に覚醒する

者が現れたら妖魔との戦いも楽になるのにという考えがあるのかもし

れない曷

しかし甚ここで悩んでも仕方ないことだ曷

話題は移り変わる曷

匍そうそう曷休み明けだが甚学校は祝言が終わるまで休んでくれ

匍なんで?

匍祝言まで一週間だぞ曷やることが多くて学校なんか行ってる暇はな

い 盇

匍げっ甚マジ?盇

華は盛大に顔を歪めた曷

匍明日から分単位でスケジュゥルが詰まってるから覚悟しておけな

朔の笑みが甚華には悪魔の微笑みに見えた曷

朔の言う通り甚祝言までの一週間は怒濤の忙しさだった曷

衣装合わせから始まり甚分家を始めとした招待客の顔を覚えたり

精 神的にもヘロヘロになりながら一日が終わるということを繰り返し あまりの忙しさに頭はパンクしそうになり甚体は疲弊し甚肉体的甚

たのか悪かったのか分からない曷 その忙しさ故に朔の母親と顔を合わせる機会がなかったのはよか

た 曷

しり な 華 61 いところで二人きりとなる悲劇に見舞われないだけ幸いだった曷 や甚今は朔も忙しいようでほぼ見かけない状態だったため甚朔が を認めない冷たい印象の朔の母親とまともな会話ができる気がし

朔 には弟がいるのだが甚その弟とは一度も顔を合わせていなかっ

た 曷 ないから曷

.

きっと朔の母親と同じように華を認めてはいないだろうと思ってい 同じ屋根の下で暮らしているので甚いずれ紹介されるのだろうが甚

なにせ甚家の中の使用人達ですら華を認めてはいないのだから曷

ることから甚表だって非難することはないし甚プロ根性でちゃんと仕 一応朔が望んで連れてきた女性として甚また甚すでに籍を入れてい

事はする曷

しかし甚華を見る目は凍るように冷たく甚蔑みの感情が透けて見え

るのだ曷

もう少し取り繕えと言いたいほどに甚あからさまに歓迎されていな

い 曷

華 の 1 よ 1 LF 1 ろ で は 堂 マ L 悪 コ を 三 1 合っ て 1 る よ う で 甚 家 の 中

重 ひしさし くこごうに生く つ乳Lで言したこうしゃ らごう も家ひに

を散策していた葵が不機嫌な顔をして帰ってくることが多々あった曷

葵は甚自分の言葉ではなくても甚華を非難する言葉を口にしたくな

いのか口を閉ざしていたが甚こっそりと雅が教えてくれた曷

葵が華の側を離れる時は雅も一緒についていっている曷

家の中での華の陰口を耳にした葵が暴走しないためのストッパ々役

だ。思

しかし甚雅もあれで大概思考が危険な方向に向かうことがあるの

で甚本当にストッパ々役になっているかは疑問である曷

今さら陰口程度のことはどうということもないのだが甚式神達は華

が蔑まれるのは我慢ならないようだ曷

しかも甚その蔑まれる中には甚あずはも含まれているからなおのこ

とだろう曷

普段は華の言いつけ通り力を抑えているあずはは甚朔のような勘の

いい者以外から見たら甚ただの蝶の式神でしかない曷

低位の式神を常に連れていることも甚華が蔑まれる理由でもある曷

隠す必要もなくなったので甚あずはが力を抑えなくてもいいのだ

が甚力を示すのは今ではないと思っている曷

より効果的に甚より衝撃を与えるその時を華は待っているのだ曷

なので甚それまでは式神達に我慢をしてもらうしかない曷

その前に葵が爆発しないかが心配である.....曷

そして甚とうとうやって来た祝言当日曷

まだ夜も明け切らぬ早朝から叩き起こされて甚準備が始まっ

きれい

が甚禊ぎが終わった後に温かい白湯を持ってきてくれた十和に甚一ノ り込まれた時は甚華をよく思わない使用人達の嫌がらせかと思った **禊ぎだと言われ甚本家の敷地内にある冷たい水が湧く綺麗な泉に放**

宮の古くからのしきたりだと教えられてようやく信じることができ

た 曷

その後は軽く朝食をすませて甚白無垢を着付けられる曷

髪を結い上げてまとめ甚胡 蝶 蘭の髪飾りで華やかにして完成だ曷

ひらひらとあずはが飛んできて飾りの一部のように髪に止まる曷

昔からのあずはの定位置曷

今日も変わらず髪に止まって甚ずっと一緒にいるようだ曷

虹色のあずはが止まることでより華やかな髪になる曷

そうこうしていると甚部屋に羽織袴姿の朔が入ってきた曷

華を見るや甚時が止まったようにじっと見つめられ甚居心地が悪く

なる曷

匍なに?

匍いや甚馬子にも衣装だと思って盗

こんな時でも口の減らない朔に対して眼差しがきつくなるのは致し

方ない曷

そうすれば甚朔は小さく笑う曷

匍冗談だ曷綺麗すぎて言葉が出なかった盃

破顔する朔に華は目を奪われ甚心臓が激しく鼓動した曷

口が悪く偉そうな朔だが甚なんだかんだ言って見た目は極上曷その

笑領の波懐力はすさまじハのだ易

と言うしてもシーニ マミーしくフキ

動揺を隠すように甚華はそっと視線をそらしつつ口を開く曷

匍さ甚朔だって馬子にも衣装ね盔

匍そこはかっこいいだろう?

小さく笑い甚朔は華の頰に手を添える曷

じっと見つめ合う華と朔曷

先に口を開いたのは朔だった曷

匍なにが? 益

匍俺の問題に巻き込んだことだ曷お前は静かな生活を送っていくこと

を願っていたのだろう? だが甚お前の存在を知った以上見なかった

あるよう甚夫としてできるだけのことをする曷だから俺の側にいろ盇 ことにはできない曷離してやれない代わりに約束する曷お前が幸せで こり 言は争いでき う 動しこしにと ナニンにう 二声 二ヨー

来るかもしれないけど甚今はしてない曷だから朔は私に後悔させない 匍確かにかなり強引だったけど甚選んだのは私曷いつか後悔する時が

頰に触れる朔の手に己の手を乗せて甚華はにっこりと微笑んだ曷 そうすれば朔もまた微笑み返す曷

でね

盇

匍もちろんだ曷俺を信じろ盃

きっと大丈夫だと甚そう信じさせてくれる曷 自信家で傲慢なその言葉は甚なにより信頼できる力強さがあった曷

匍さあ甚行くか曷覚悟はいいな?盇

差し出された手を華は迷いなく取った曷

匍どんとこい!盇

祝言が始まる曷

広間には各分家の主立った者達が集まり甚その時を待っていた曷

誰もが信じられなかっただろう曷

瀬家の娘が選ばれたと聞き甚すぐに姉の方が頭に浮かんだ曷

あの優秀な姉ならば甚悔しくはあるが仕方がないかと甚自分の娘を

当主の嫁にしたかった者達も諦めが付いた曷

それが蓋を開けたら甚姉ではなく妹の方だという曷

優秀な姉に常に比べられてきた甚落ちこぼれの妹曷双子の姉に全て

の力を奪われた甚姉の残りカス曷

それがよりによって当主に見初められたというのだ曷

シ . . **)**

引えたけ

人し.く....ッ で・...

とこして信しることかてきよこか長受に入れることかてきよこか長

当然抗議の声は止まなかった曷

しかし甚当主たる朔はそんな声を上げる分家の家々を回り甚懇々と

諭し続けたのだ曷

決して落ちこぼれなどではないこと曷華を選ばないことこそ一 ノ 宮

のためにならぬのだと曷

しかし甚そう言われてすぐに受け入れられるものではない曷

実際に納得した者はほとんどいないだろう曷

ただ甚当主がそこまで言うならと甚しぶしぶ受け入れさせられたと

いう者ばかりだ曷

なので甚本家だけに限らず甚分家の中でも華への不満は募ってい

そんな中での祝言曷

一応一ノ宮に連なる者として甚すべての分家は出席していた曷

そこには甚花嫁である華の生家甚一瀬家の面々の姿もある曷

しかし甚そこに朔の母親と弟の姿はない曷

それはこの結婚を認めていないという静かなる抗議であった曷

分家の者達の中には甚本当に結婚する気なのかと甚祝言当日のこの

時になってもまだ信じられていない者もいた曷

それほどに華との結婚は想定外だったのだ曷

それはおそらく一瀬家の者達こそが特にそう思っていただろう曷

自家の次女が選ばれたというのに甚その表情はとても喜んでいると

は言いがたいものだった曷

野次馬根性を発揮した甚知りたがりな奥様連中がお祝いの言葉を述

、、)が まご与うれ ノーようく可見くご頁よーうつくこう

る力を嬉しいにすび正剣の多形に弓さっているを

兄は不機嫌そうに眉間にしわを寄せて甚声をかけづらい雰囲気を出

していた曷

そのせいか甚隣にいる双子の姉である葉月にも話しかけられない曷

きっと誰もが葉月の今の心情を知りたがっていただろうに曷

けれどそれは葉月の心を 慮 ってというよりは面白がっているとい

う方が正しいだろう曷

そうこうしていると甚主役となる二人が入室してきた曷

朔に手を引かれながらゆっくりと広間へと入った華は甚居並ぶ分家

達に気後れしそうになったが甚その気持ちを察したように甚朔が繋いっぷ

だ手に力を入れる曷

それを受けて甚華も小さく深呼吸をして足を踏み出した惖

広間を埋めるたくさんの人の視線が華に注がれる曷

きっと予想外もいいところだろう曷

葉月と違い華の顔を知らない者も多いはず曷

そんな者達からの甚華を検分するような視線が恐ろしくすらある

が甚手から伝わる朔の温もりに助けられていた曷

堂々と曷悪いことをしているわけではないのだから甚決して顔を

俯けることのないように甚しっかりと前を向く曷う

新郎新婦の席に座ると甚年嵩の男性が進行を始める曷

匍これより一ノ宮家ご当主朔様と甚華様の祝言を執り行います盇

その言葉を合図とするように甚朔と華の前に盃が置かれ甚十和に

より朔の盃に酒がつがれる曷

それを飲み干した朔に続き甚華の盃にも酒か注かれた唇

華は成人しているがお酒を飲めるのは二十歳からなので甚飲むふり

だけをする曷

そして甚盃を置けば甚とりあえずすべきことは終わりだ曷

なんともあっけないが甚無駄に長い式よりはずっといい曷

役目を終えたことでほっとする華に甚朔はよくやったとでも言うよ

うに微笑んだ曷

それから始まるのは招待客を巻き込んだ宴だ曷

次々と料理が運ばれてきて甚粛々と食事が始まる曷

最初は華が花嫁のせいか甚盛り上がりに欠けるというか甚誰もがお

互いの様子を窺っている感じだったが甚酒が入ればそれも変わる曷

次第に陽気な雰囲気となり甚会話も弾み騒がしくなっていく曷

朔 の所にも酒をつぎに入れ替わり立ち替わり大人がやってくるが甚

華の所には誰も来ない曷

まあ甚それはいい曷

むしろ噂話好きの女性達の餌食にならないですむのなら甚離れたと

ころで華を窺いながら悪口に勤しんでいるぐらいなんてことない曷

華に話しかけづらいせいか甚葉月の所には同年代の女子が集まって

いた曷

どうやら葉月を慰めている様子曷

匍葉月さん甚この度のことは大変心を痛めておられるでしょうね盇

匍当然ですよ曷あんな無能に当主の妻の座を奪われてしまったのです

から盇

なにやら憤慨している女子達は甚葉月のために怒っているように見

えて甚実際は自分より格下と思っている華にその席を奪われたことを

怒っているのだ曷

けれど甚中には真実葉月に心酔し甚葉月のために嘆いている者もい

る曷

匍許せません曷葉月さんというふさわしい方がいらっしゃるというの

に甚あの女はいったいどんな手を使ったのやら盇

匍きっと卑怯な手を使ったに決まっています曷そうでなければ甚ど

うしてあんな無能を伴侶になど選ぶものですか奋

華の悪口合戦が行われるのを止めたのは葉月だった曷

匍 ありがとう甚皆さん曷けれどそんなこと言わないで曷華は私の大事

葉月は悲しげに微笑む曷

それは妹のために涙をのんで耐える健気な女だった曷

匍なんてお優しい曷自分のことよりあんな女のことを第一に考えるな

んて

匍さすが葉月さんです
盗

葉月に心酔する者は息を吐くように葉月を褒め称える曷

その会話が耳に届いていた華は甚ジュゥスを飲みながら小さく笑っ

た 曷

クスクスと隣で笑う華に甚朔は気付く曷

匍なにを笑ってるんだ?盇

匍葉月のことでね

匍ん?盇

月く 見えが きぎ 目くう くりい ノニミが生ニラう

匍なにかあったのか?奋

匍葉月ったら甚本当は腸が煮えくりかえるぐらい怒り狂ってるの

に甚人前では優しい優等生を演じてるから甚本性出せずに必死にこら

えてるのよ曷本当はかなりプライドが傷付いてるはずなのに甚私を悪

く言うこともできなくて甚イライラしてるのがよく分かるの曷それが

滑稽でジュ
タス噴きそう
益

ニヤニヤと笑う華に甚朔は呆れたような顔をする曷

匍.....お前甚性格悪いぞ

匍確かにね曷でもそうさせたのは親と周りよ盇

性格が悪い自覚はある曷

だが甚どうして性格がいい子に育つだろう曷あんなにも歪んだ環境

にいて曷

両親のことを恨んではいないが甚わずかな怒りは感じているのだ曷

匍 両親へ復讐したいとは思わないのか? 当主の嫁ならそれが可能

だぞ姦

匍興味ない曷もう私にとって両親はずっと前から他人だった曷それに

復讐と言うなら葉月ではなく私が朔に選ばれた時点で叶ってるもの益

匍無欲だな曷俺なら徹底的に潰してやるのに盇

匍朔なら確かにそうしそうよね曷逆らう者は許さないって感じ盇

匍俺をどこの暴君だと思ってるんだ盃

匍自覚なかったの? 驚きなんですけど姦

冗談ではなく華は本気で驚いている曷

匍お前は..... 査

朔は片手で自分の顔を覆う曷

泣くのか? と思ったら甚その逆に朔は笑い出した曷

くくくっと押し殺すように曷

匍 私甚未だに朔の笑いのツボが分かんない曷今の会話で笑うとこあっい。

た ? 盇

匍ああ甚俺にはな益

匍どこに?

匍俺への態度だよ曷一ノ宮の当主である俺に対してそんな軽口利くよ

うな奴は今までにいなかったからな盃

笑いを抑えきれない顔で甚華の顔を覗き込む曷

話していて楽しいと感じたのはお前が初めてだ盇 匍お前といると甚自分が当主であることを忘れそうだな曷こんなにも

匍そりゃどうも盗

朔が時々見せる笑顔にドキドキと心臓が音を立てる曷

突然見せるので甚とんでもなく心臓に悪いのだ曷

ふと甚華が視線を周囲に向けると甚笑っている朔を見て驚いている

人達がたくさんいた曷

匍朔様が笑ってるぞ盃

匍そんなにあの娘がお気に召しているのか盇

そんな声がかすかに聞こえてくる曷

匍ちょっと笑っただけで驚きすぎじゃないの?盇

なんてことを呟くと甚ぬっと華の横に椿が顕現する曷

なった曷

匍笑わない?

匍ええ曷それはもう甚蠟人形のようにカッチカチに表情筋が固まって

ますから~曷死んでるとも言います盃

華は首をひねる曷

どちらかというと華の知る朔は表情豊かだ曷

叩けば響くようにツッコミが飛んできて甚憎まれ口を叩き甚喜怒哀た

楽がはっきりしている曷

朔 の方を向き甚顔をじっと見つめれば恥ずかしそうにふいっと顔を

背けた曷

匍これが?

こんな反応をする朔のどこを見て表情筋が死んでいるというのか曷

再度椿に確認すれば甚二コニコと嬉しそうに笑っている曷

匍うふふふ曷ご主人様をお願いしますね~曷華さん盇

それだけを言って椿は消えていった曷

結局なにをしに出てきたのか不明なままに曷

そして甚宴もお開きとなった曷

結局最後まで朔の母親と弟が姿を見せなかったのは気になったが甚

朔の方は平然としていた曷

朔がいいと言うのなら華が口を出すわけにもいかない曷

華もあまり物事を深く考える性格ではないので甚まあいっかと甚頭

の隅に追いやってしまった曷

そしてその日の夜甚これから寝室はこれまでと違う部屋を使ってく

れと言われ甚寝間着に着替えた後甚別の部屋へ案内される曷

これも祝言を挙げたからだろうと深く考えず新しい部屋に入ると甚

そこには布団が二人分ぴったり並べて敷かれていた曷

匍ん?盇

戸惑っていると甚部屋に朔が入ってきたではないか曷

匍どうしたの甚朔? なにか用事?

匍用事もなにも甚寝に来たんだろうが益

言っている意味が分からない曷いや甚分かりたくないという方が正

しい曷

匍祝言を終えたんだから甚夫婦が一緒に寝るのは当たり前だろう?盇

匍ええ! 聞いてない

匍 いいからとっとと寝ろ曷今日は色々と疲れた盗

気だるそうに布団に座ると甚朔は華の手を引いてぎゅっと抱き締め

そのまま布団に横になった曷

匍夫婦なのだからこれぐらいいいだろ曷それともこれ以上をお望み

か ? 盇

ニヤリと笑い甚華を押し倒すような形で朔が上になった曷

華はぶんぶんと首を振るが甚そんな華の頰をそっと朔の手が滑る曷

匍だったらこれぐらい許せ盇

朔の顔が華に近付き甚唇が合わさりそうになったその時.

匍許すわけないだろ甚このエロじじい盃

ぱっとその場に顕現した葵が甚げしりと朔を足蹴にした曷

見事に華の上から転がされた朔は甚ピクリと口元を引きつらせ身を

起こした曷

匍エロは許すが甚じじいは訂正しろ曷俺はまだ二十四だ盇

匍俺から見たらじゅうぶんじじいだな盇

ふふんと馬鹿にするように笑う葵に甚朔も黙ってはいない曷

匍 ああ甚そうだったな曷こんな大人げないことをするのは子供ぐらい

だ 盇

匍あん? なんだと甚じじい盇

葵が睨むと甚朔も負けじと応戦する曷

匍子供は大人しくしてろ曷これは夫婦の問題だ盇

匍その主が嫌がってるだろ! <u></u>

け曷華も恥じらってるが本気で嫌がってなかっただろ曷ほら甚さっさ 匍 いやよいやよも好きのうちという言葉が人間にはあるんだ曷覚えと

葵から華へと視線を戻した朔は言葉をなくした曷

ない大量のクッションで甚雅が二つの布団の間に堤防を築き上げてい 朔と葵が言い合いをしている隙に甚どこから持ってきたのか分から

たのだ曷

匍さあ甚主様曷これで大丈夫ですよ益

重みやび甚偉い紂

満足そうに微笑む雅と甚そんな雅を褒めるあずは曷

葵までも匍グッジョブ!盇と親指を立てている曷

朔は匍お前の式神は過保護すぎないか?盃となんとも言えない顔を

する 曷

匍うせん曷確かにちょっと過保護かも盗

華も否定はできなかった曷

* * *

翌朝甚華はなぜか朔に抱き締められた状態で目が覚めた曷

おかしい曷

確かに昨晩雅によってクッションの堤防が築き上げられていたはず

なのだ曷

だが甚頭だけを起こして見てみると甚その堤防を越えて朔が華の布

団の中へやって来ている曷

そんなことをしようものなら葵がうるさくしそうだが甚そんな様子

もない曷

と言うか甚葵どころか雅やあずはの気配もしなかった曷

なにがあろうと常に誰かは側にいたというのに曷

これはいったいどうしたことなのか曷

とりあえず甚拘束から逃れるべく身をよじるのだが甚動けば動くほ

ど朔の腕の力が強くなり甚しっかりと抱き込まれる曷

朔の心臓音が聞こえるほどの近さと感じる体温に甚華の顔が赤く

なっていく曷

匍さ甚朔! 朔甚起きてえ!盇

悲鳴のような叫びでバシバシと朔を叩くと甚ようやくもぞもぞ動き

始め甚その瞼がゆっくりと開いた曷

匍ん.....華?盇

寝起きのかすれた声が華の名を口にする曷

朔への多少の耐性を持つ華はなんとかこらえたが甚世の女子高生な

らば鼻血を噴いていることだろう曷

それほどに無駄に色気がダダ漏れであった曷

匍放して殳姦

匍ん甚ああ姦

ああと言いつつ甚まだ華を離さない曷

匍どうして一緒に寝てるの? それでもって甚いつまで抱き締めてる

のよ姦

匍抱き心地がいいから盃

そんなことを言われたら華の顔が赤くなるのは当然だった曷

匍いいから放してください..... 盇

朝から勘弁してくれと甚ようやく緩んだ腕から抜け出そうとした

ら甚ちゅっと音を立てて温かいものが頰に触れた曷

匍は?盔

びっくりした顔で朔を見れば甚意地が悪そうに笑った曷

匍唇にした方がよかったか?盇

匍ば甚馬鹿!

手近にあった枕で朔を叩く曷

この男に一発食らわせてやってくれという思いで葵を呼んだが甚い

つもならすぐに顕現する葵が姿を現さない曷

不審に思った華は朔を叩くのを止める曷

匍葵? 雅甚あずは

しかし甚葵どころか雅とあずはまでもやって来ない曷

匍なんで?盇

不思議がる華に甚朔は平然と告げる曷

匍奴らなら来ないぞ盇

匍えっ? どういうこと?

匍入ってこられないように結界を張っておいたからな盇

匍はあ? 盗

言われてみて気付く曷

確かにこの部屋を中心に結界が張られているのに曷

匍 あいつらがいるとうるさくてゆっくり眠れないからな盗

寝ている間も結界を張り続けるというのはけっこう高度な術なの

だ曷

術者の中でもトップクラスの者しかできないだろう曷

華はできるかと問われたら甚できると答えるが甚進んでやりたくは

ない曷

結界を張る時にかなり精密な力の制御を必要とするので気疲れする

のだ曷

ましてや甚朔は一ノ宮の当主として柱石の結界も担っている曷

労力は相当なものだろうに甚そう感じさせないのは甚それだけの実

力があるということなのだろう曷

やはりなんだかんだ言っても甚朔は国を背負う一ノ宮の当主なのだ

と実感させられる曷

匍疲れてないの?盃

匍 ああ甚疲れた曷夜中に中に入ろうとずっと攻撃されてたからな益

匍そりゃあねえ

葵の立場であれば甚華から離され結界で近付けないとなれば甚攻撃

してでも中に入ろうとするだろう曷

匍とりあえず結界解いちゃってよ盗

匍ああ姦

瞬で結界の気配が消え甚それと同じくして葵と雅とあずはが姿を

見せた曷

制主 ・ 益

制主様甚ご無事ですか?

会

重あるじ様大丈夫?紂

華の無事な姿を見て甚式神達は安堵を浮かべる曷

匍 ああ甚お側を離れて申し訳ございません曷どこぞのけだものに不埒

な真似はされませんでしたか?盇

匍誰がけだものだ甚誰が!盗

朔のツッコミは華を心配する雅の耳には入っていないようだ曷

しきりに華の無事を確認している曷

匍どうやら衣服は乱れていないようですね曷安心いたしました盇

匍衣服が乱れてないからと言ってなにもしてないとは限らないがな盇

火に油を注ぐようなことをあえて言う朔は華に負けず劣らず性格が

悲い曷

案の定甚葵と雅の怒りを買っている曷

匍主甚こいつやっちゃっていいか? いいよな? 盇

匍やっておしまいなさい盗

剣を手にした葵と甚葵に勝手に許可を出す雅曷

触即発の空気だが甚朔は微塵もひるむ様子はなく甚むしろ葵を相

手に不敵な笑みを浮かべている曷

匍椿曷お前の愛しの恋人が会いに来てるぞ

そう朔が言った次の瞬間甚その場にフリフリメイド服の椿が現れ

た 曷

途端に葵の顔に動揺が走る曷

匍やだgん曷朝からダgリンに会えるなんて椿幸せぇ~盇

まるでとりもちのごとく葵にべったりと張り付き離れなくなる曷

匍や甚止める曷おい甚卑怯だぞ! 血のをよう

華が見たところ甚葵と椿の力はほぼ互角曷

ざこようま

これまで戦ってきた雑魚妖魔のようにうまくあしらえないので甚か

なり椿のことを苦手にしているようだ曷

しかも甚いつの間にかダタリンに格上げされている曷

匍ダタリン曷今度私とデタトしよう?盇

匍絶対嫌だ!姦

匍駄目駄目甚もう決めたもん曷私がダ々リンに似合うお洋服選んであ

椿が葵の頰にちゅっとキスをすると甚葵は匍ぎゃあ!盃と悲鳴を上

げて消えていった曷

匍もう甚照れ屋さんなんだから盗

あの葵の反応を見て頰を染められる椿のポジティブさは素晴らし

い曷あきらかに嫌がっていただろうに曷

邪魔者は消えたとばかりに甚朔は伸びをしてゆっくりと立ち上がっ

匍華甚お前も着替えてこい曷朝食にするぞ 益

匍朔も一緒なの?盃

それというのも甚この本家に来てから朔は忙しくしており甚ほとん

どその姿を見せず甚当然食事も華一人部屋で取っていたのだ曷

匍とりあえず忙しさはひと段落したからな曷これからは側にいてやれ

る盔

匍ご主人様はねぇ甚華さんのことを分家の頭でっかち達に認めさせる

ために動き回ってたんだよ~曷それでずっと家にいなかったの盇

椿の説明に華は目を丸くする曷

匍そんなことがあったの?益

朔は椿にデコピンする曷

匍余計なことを言うな甚椿 益

そう言い捨てて椿も姿を消した曷

匍ほら甚さっさと用意しろ盗

さっさと部屋から出て行った朔の一瞬見えた表情はどこか気恥ずか

しそうで曷

それがなんだかむず痒くて仕方なかった曷

匍主様..... 盇

なんだか雅の様子がおかしい曷

置いて行かれた迷子の子供のような甚そんな心細そうな顔をしてい

る曷

華はなんとなくその理由を察していた曷

匍大丈夫曷朔は口は悪いけどいい人だと思う曷今のところ誠実に接し

てくれてるわ益

匍さあね曷だってまだ会ったばかりだもの曷でも甚たとえ誰かを好き

になったって甚それを理由に雅達のことを 蔑 ろにしたりしないし甚

するような人ならこちらから願い下げよ盗

匍主様. 盇

華は雅の頭をよしよしと撫でてやる曷

見た目こそ華より年上だが甚葵と雅が生まれてから数年しかたって

いないのだ曷

間ならば親の存在が不可欠な年齢である曷

葵と雅は華の都合で他者との関わりを絶っている状況だ曷

だから華への依存度が高くなってしまった曷

まあ甚元々式神とは主人がすべてなのだが甚人型で知能も高い故

に甚人間と変わらぬ感情を持っている曷

その辺りはやはり蝶であるあずはの方が感情のブレは少ないよう

だ 曷

感情の機微があるからこそ雅は恐れを知っている曷

雅が恐れるのは華がいなくなること曷

華に必要とされなくなること曷

それにはどこか葉月のことを連想させられてしまう曷

匍なにも心配することなんてないのよ曷これはあくまで契約結婚曷契

約が終われば解消される一時的なことなんだから益

.本当に一時的で終わればいいんですけど盇

匍なに?

匍いいえ甚なんでもありませんよ盗

どうやら雅の呟きは華には届かなかったようだ曷

だが甚それでよかったのかもしれない曷

後々嫌でも考えることになることを雅だけはなんとなく察してい

た 曷

着替えてから部屋を出れば甚すでに朔が廊下で待ってくれていた曷

匍お待たせ

匍ああ姦

一ノ宮に来てからは部屋に食事が運ばれてきていたが甚そう言うと

朔は苦虫をかみつぶしたような顔をした曷

どうやら普段は食事を取る部屋があり甚家族は必ずそこで取るのが

暗黙の了解なのだという曷

部屋で食事をしていた華は甚早い話一ノ宮の一員として認めていな

いと言われていたも同然の扱いをされていたようだ曷

瀬家にいた時から一人で食事を取っていたのであまり疑問に思わ

なかったが甚言われてみれば家族がいて別々に食事を取るのは変な話

だ 曷

華の実家が特殊すぎた曷

朔は匍悪いな盗と謝ったが甚正直朔の母親と一緒に食事を取るのは

不安だったのでなんの問題もない曷

けれど甚きっと朔は使用人にこれを指摘し甚これからは食事部屋で

取ることになるのだろう曷

朔の母親のことを考えると甚一人でもいいかもしれないと思ってし

まう曷

そして甚朔と共に普段食事を取るという二十畳ほどの部屋に入る

と甚座卓にすでに着席している朔の母親がいた曷

匍おはようございます甚母上盃

匍ええ甚おはよう盗

華を一瞥することもなく朔だけに挨拶をする母親に甚負けじと華もいまべつ

声をかけた曷

匍おはようございます盃

朔の母親はそれはもう冷たい眼差しを華に向ける曷

早々にジャブを食らわされるが甚華は無理やり笑みを浮かべる曷

旬よくらま あき頃を出す こらのごつ 易一 傾家の旨 よどこ ひよ炎 育を ノこ

朔の母親は嫌みたらしく溜息を吐いた曷

こうなることを予想していたので朔の母親と会うのは嫌だったの

だ 曷

今からでも部屋に帰りたい.....曷

だが甚朔の手前逃げるわけにもいかない曷

しばらくはここで生活するのだから曷

匍華甚隣に座れ

母親 よりも上座になるその場所を朔は指示した曷

朔の母親を窺えば甚ぴくりと反応し目で殺されそうなほどの強い視

線を向けられる曷

明が**並ることを壽著う華の手を引って無里や**りこ並っせるのと同じ

き た 曷

茶色く染めパgマをかけた髪が甚少し童顔で吊り目がちな容姿に似

合っている曷

朔ほど身長は高くなく中性的な甚どことなく朔に似た青年は朔の隣

にいる華を見るや甚鋭い眼差しで睨み付ける曷

匍おい甚なんでこの女がここにいるんだよ盇

低く脅すような声は甚怒りを全身から表していた曷

誰 ? と思ったが甚朔がすぐに紹介してくれる曷

匍華甚あれが俺の弟の一ノ宮望だ曷華と同じ黒曜学校の三年だ盇

匍そいつと一緒にするんじゃねぇよ! 万年

に

ク

ラ

ス

の

落

ち

こ

ぼ

れ

な

んかと俺とじゃ甚住む世界が違うんだよ盇

なかなかに嫌われているなぁと甚華は他人事だ曷

祝言にも顔を見せなかったこの母親と弟からは甚受け入れられてい

ないと感じていたが甚ここまであからさまだと本当に疲れる曷

匍望甚華は当主である俺の妻だ曷言葉遣いには気を付けろ曷母上甚あ

なたもです

そう言って甚朔だけはちゃんと華の味方をしてくれるのが救いだ曷

て甚兄貴はどうかしてるぞ曷葉月の方がずっとふさわしいのに甚どう

匍俺は認めてない! こんな落ちこぼれを一ノ宮に迎え入れるなん

して葉月を選ばなかったんだよ盃

葉月と呼び捨てにしている辺り甚葉月と面識があるようだ曷

や甚黒曜学校の三年と今さっき朔が言っていたので甚同じAクラ

スなのかもしれない易

こうくうニーオフしき

匍姉の方より華の方がいいと思ったからだ盇

匍だからなんでだよ盗

匍あの姉は弱い

易当主の

伴侶には力が

足りない

盃

匍その女はもっと足りないだろうが!盃

望は矛先を華に変え甚キッと睨み付ける曷

匍おい甚お前曷どうやって兄貴を籠絡したんだ曷その体でも使った

か? しり いよな甚女は使える道具が多くて盃

匍望!盇

さすがに朔も声を荒らげるが甚望が意見を翻すことはない曷

さらにその言葉が許せなかった甚華の髪に止まっていたあずはが望

の前を抗議するようにひらひら飛ぶ曷

そんなあずはを望はうっとうしそうこ振り払った易

匍こんな虫如きしか作り出せない無能が! とっととここから出て行

け ! 盇

それまで大人しく聞いていた華は甚素早い動きで望の胸倉を摑むっぷ

と甚廊下に連れ出す曷

匍おいおい

朔が慌てて後についてきた曷

匍放せ!盇

華の手を振り払った望に対し甚華は履いていた靴下を片方脱いで顔

面に投げつけた曷

見事なコントロゥルで直撃した靴下が甚望の顔面からポトリと落ち

る曷

しばし流れる沈黙曷

しかし甚すぐに我に返った望が食ってかかる曷

匍なにしやがる?! 盃

匍決闘の申し込みよ盗

ふふ んと胸を張って甚もう一つおまけに残った片方の靴下も投げつ

けたが甚それは避けられた曷

匍いや甚本来投げつけるのは手袋だろ盇

んな時でもツッコミを忘れない朔は甚華の行動に怒りが飛んで

いったようだ曷

匍手袋なんて手近にないから靴下で代用曷こんな弱っちいお子ちゃま

にはそれでじゅうぶんよ盇

匍な甚なんだと!盗

匍ぎゃあぎゃあ騒いで甚自分の物差しでしか人を測れない曷あずはの ことは朔ならすぐ気付いたってのに甚あなたは気付きもしない曷弱い

証拠でしょうが益

匍気付いてないって甚なんのことだ!! 盇

匍それを今から教えてあげるわよ曷表に出なさい盇

望から視線を外し華が振り返ると甚朔は至極楽しそうな顔をしてい

た 曷

匍力が周知されて面倒なことになっても甚朔がなんとかしてくれるの

匍ああ曷安心して暴れてこい盗

匍了解曷ぶち殺して甚あの世で後悔させてやるわ盇

手の少うこ拳を丁ら寸ナてやる気をみよぎっせる華の目は恵宅全に

据わっていた曷

あれだけ散々な言われようをしたのだ曷

さらにあずはを虫如きとまで言われれば甚あずはを大事にしている

華が放置できるはずがない曷

半殺し程度にしてやってくれ曷一応俺の弟だ盇

制ええ[~] 盇

匍え受じゃない

曷頼んだぞ

盃

残念そうにしながらも甚不承不承に頷いた曷

対する望は怒りに震えていた曷

匍勝手なこと言ってんじゃねえぞ曷その決闘受けてやる曷お前が負け

たらこの家を出て行け益

IJ つこ言こうこうり 5 ノニバシナニ、マミン気力長にアメスラール Z

律 ししれは唇その代れいあんた力負にたら甚ま豪好核と呼てたてし 盗

ということで甚二人は庭に出た曷

二人が対決するという話を聞きつけたようで甚本家内の使用人達ま

でが野次馬にやってきている曷

暇なのか? と思いつつ甚自分の力を見せつけるならギャラリタは

多い方がいい曷

彼らには大事な大事な証人となってもらわねばならない曷

朔の母親はツンとした表情で甚望が勝つことを疑ってはいないのだ

ろう曷

そしてそれは野次馬をしている使用人達全員がそうだ曷

ただ一人甚朔以外は曷

匍勝負の方法はお前に選ばせてやる盗

朔並みに偉そうな態度で指示してくる望に甚華は不敵な笑みを浮か

べる曷

匍あずはおいで盃

あずはがひらひらと飛んできて華が差し出した人差し指に止まる曷

匍あなたにも式神はいるのよね?盃

匍当然だ曷紅蓮! <u>益</u>

望が呼ぶと鷹が現れ望の腕に止まった曷

匍なら式神同士の対戦でオッケ母?盃

匍本気で言ってるのか?盇

信じられないと自分の耳を疑うような顔で望は聞き返してくる曷

それもそうだろう曷

式神としては最弱である蝶のあずはで戦うと言っているのだから曷

望の式神は鷹で甚人型に比べれば珍しくない式神だが甚さすが朔の

弟曷鷹から感じる力はそこらの術者の式神より強い曷

だが甚力の制限をなくしたあずはの前では微々たる差だが曷

匍あずは甚もう力を抑えなくていいよ曷人前で話もしていいからね盇

重いいの?紂

こくりと頷くと甚これまで抑えられていたあずはの力が解放され

る曷

美しい虹色の羽がさらに美しく鮮やかな色に変化していく曷

ようやく望にもあずはに内包される力を感じることができたのだろ

う曷

ずいぶんと驚いた顔をしている曷

こうよ月り 引見 ショッごう こう

マオに

ガロ

長まき

にした

こた

長

匍さて甚始めましょうか曷虫如きと言ったことを後悔させてあげる盇

望は最初こそ驚いていたが甚次第にその表情は苛立たしげに変わっ

ていく曷

匍虫は虫でしかない曷そんな見せかけのものに騙されるか曷いけ甚紅

蓮 ! <u>态</u>

紅蓮という鷹は望の声に応じ甚大きく翼を広げて空へと飛ぶ曷

華の指から離れ飛び立ったあずはに狙いを定め甚空から滑空しては

突撃してくるのを甚あずはは舞うようにしてかわしていく曷

匍紅蓮甚早く仕留めろ!盇

いつまで経ってもあずはを捕らえられない紅蓮に甚望の苛立ちは最

高朝に達しようとしている曷

その感情は紅蓮へと伝わり甚焦っているように見えた曷

その時曷

匍あずは甚幻惑盗

あずははひらひらと飛び回りながらキラキラとした鱗粉のようなも

のを振り撒き甚それが紅蓮の目に掛かる曷

するとどうだろう曷それまでしっかりとあずはを目で捉えていた紅

蓮の様子が変わる曷

すぐ側にいるというのに甚あずはの姿を見失ったようにきょろきょ

ろしだす曷

匍なにしてるんだ甚紅蓮!! 盇

匍あずは甚とどめを刺しちゃって盇

あずはが紅蓮のさらに上空から霧のようなものを振り撒くと甚紅蓮

は苦しむようにフラフラとよろめき甚そして間もなく飛ぶことすらで

匍紅蓮!! 盇

きなくなり地面へと落ちた曷

匍私の勝ちね盗

それはその場にいる者にとってあり得ない光景だった曷

一ノ宮の息子である望の式神が甚これまでずっと嘲笑っていた蝶の

式神に手も足も出せずに負けてしまったのだ曷

望は我が目を疑い甚これは夢ではないかと思ったが甚間違いなく落

ちこぼれと蔑んでいた華の式神が勝ったのだ曷

それに甚勘のいい者はちゃんとあずはから溢れる力を正確に感じ

取っていた曷

目の前の光景は嘘でも幻でもない曷

しかし甚望はまだ受け止められない様子だった曷

匍認めない曷認めないぞ曷お前のような女が兄貴の嫁だなんて盇

匍 現 実はいつだって残酷なものよ~曷さあ甚諦めてお義姉様とお呼

び 盇

匍貴様のような色気のない幼児体形の女が姉だなんて思えるわけない ほほほほっと馬鹿にしたように笑えば甚望にギロリと睨まれる曷

しばし流れる沈黙曷華はふっと憂いを帯びた表情を浮かべたと思

たら甚次の瞬間には豹変する易

だろう!
ム

怒りで目をつり上げる華が手に力を集めると甚圧縮された濃密な力

の塊ができあがる曷

こご人こは見えよハそれは甚村当である当よっ感じってるごろう易

華は手のひらに集まったそれを思いっきり投げつけた曷

匍死にさらせつ!! 盇

朔が慌ててツッコむ曷

華が投げた力の塊は望を直撃し甚その体を吹っ飛ばした曷

匍ぐはっ 盔

望の体はしたたかに地面に叩きつけられ甚そして動かなくなった曷

顔色を変えたのは朔と朔の母親である曷

悲鳴のような声を上げて朔の母親が望に駆け寄る曷

様子を窺うと甚ただ目を回して気絶しているだけだっ た 曷

そうかい

)

方の華はすっきり爽快長やり返せたことで気分もいい長

だが甚そんな華の頭に朔の拳骨が振り下ろされた曷

匍痛つ! なにするのよ甚朔盗

匍やりすぎだ盃

匍半殺し程度はいいって言ったじゃないの盇

朔は言ったことを後悔しているようだ曷

けれど甚華が存分に暴れたおかげで甚使用人達の華を見る目が変

わったのは確かだった曷

* * *

匍うわぁ甚またかよ盗

た 曷

匍これで何件目ですかね?

もう一人の警官が顔をしかめてから甚それに向かって両手を合わせ

る曷

ここ最近このあたりの地域で頻発していた動物の殺傷事件曷

犯人はまだ見つかっておらず甚人気のない場所を狙っての犯行に捜

査が難航していた曷

そして今回も甚人気のない小さな公園にて甚数匹の犬の惨殺死体が

発見されたのだ曷

匍 俺 甚犬好きなんだよ曷だから余計にこんなことする奴の気が知れね

え 盇

とつ 7

スもあるみたいですからね曷この子達ももしかしたら警察に届けが出 **角本当にかわいそこに長中には外に繋いていた子が連れ去られたケッ**

されている子かもしれませんよ盃

犯人はわざわざ他人の家の犬を盗み犯行に及んでいるのだ曷

中には犬以外の被害も確認されているが甚まだ同一犯と断定されて

いない曷

匍早く犯人が見つかるといいんだが盃

匍ほんとですね益

警官が死体の処理を終えて去って行った後甚ゆらりと黒い何かが揺

らめいた曷

重かわいそうに曷こちらへおいで.....紂

望とのいざこざで朝食を食いっぱぐれた後の昼食時甚華と朔が席に

ついて待っていると甚朔の母親が入ってきた曷

くそ生意気な望は一緒ではない曷

匍目は覚ましましたが甚昼食はいらないと言っているそうよ盇

匍そうですか
益

朔と母親の会話を聞いていた華はしたり顔で呟いた曷

匍拗ねたな益

そうしたら朔から軽いチョップをされる曷

匍望の前でそれを言ってやるなよ盗

**旬分かってるつよ
易ら子
らやまこ
は憂
ノハ妾** してあげよう ことる 盁

匍だからそれだと言っているだろ!奋

再び朔のチョップが振り下ろされたが今度はうまく避けた曷

そうこうしていると甚使用人が料理を運んでぞろぞろ入ってくる曷

その中には十和もいて甚十和はいつもと変わらぬニコニコとした笑

みで華の前にお椀を置いた曷

匍華様甚今朝はずいぶんと活躍されたようですね曷私は見ておりませ

んでしたので甚残念でございました盇

匍あゃそれなら後で動画をお見せしますよ盗

匍おい甚いつの間に撮ってた?盇

聞き捨てならないとばかりに朔が口を挟む曷

匍雅が私のスマホで撮ってたみたい曷後々笑いの種にするらしいわ盇

匍頼むから止めてやれ盗

匍や具だ盃

最高の笑みで拒否する華に甚朔は頭を抱えた曷

匍なにを今更曷雅~甚撮った動画見せて盇

誰もいないその場所に向かって声をかければ甚ぱっとそこに現れた

雅が甚そっとスマホを華の手元に置いた曷

匍どうぞ甚主様 あるじ

華と朔は平然としていたが甚室内がにわかにざわめく曷

それは当然だろう曷突然人が現れれば驚きもする曷

しかも甚朔の式神ではなく甚見たことのない相手なのだから曷

チラチラと雅を窺いながら躊躇いがちに十和が聞いてくる曷

匍私の式神の雅です盃

匍雅と申します盃

雅は優雅な所作で正座すると甚十和に綺麗なお辞儀をした曷

匍これはこれは甚十和でございます盃

お互いに頭を下げる姿を見ると甚まるで雅が嫁入りしに来たようで

ある曷

匍人型の式神を持っているの?盇

瞬誰に声をかけられたか反応できなかったが甚すぐに朔の母親だ

と分かると甚華は慌てて返事をする曷

匍ええ甚そうです

匍言っとくが一人じゃないぞ盇

そう言って姿を現した葵に甚朔の母親は目を見張る曷

圣

律ここさた多てでをあずにと別と多をこり丁追た禾の打ご三补てでる

匍それも人型が二体も..... 益

使用人達が手を止めてひそひそと話している中甚朔の母親は絶句し

ていた曷

相当驚いているようだ曷

まさか華にこれほど術者としての能力があるとは思わなかったのだ

ろうと

匍それほどの力を持っていながらどうして周りに知られていなかった

の ? あなたはいつだって姉と比べられ無能と言われていたじゃな

い曷その式神達を見せれば周りの評価など一変させることができたで

しょうに盔

匍ああ甚めんどいので盃

]) = ;

朔の母親は衝撃を受けたような顔だ曷

けれど甚そういう考えもあるのだと知ってほしい曷

匍これまで散々人を無能だ甚姉の残りカスだと蔑んでおいて甚力があ っぱり

ると知ったら手のひらを返してもてはやすのは分かりきっていまし

た曷そんな人達に褒められたって嬉しくともなんともないですから曷

むしろ術者として期待されるのが面倒臭いだけです盇

匍だったらどうして今は甚実力を見せることにしたの?盇

匍朔がいたから曷私が力を見せることで起きるだろう面倒ごとをすべ

て引き受けると約束してくれたからです曷そうでなかったら今でも私

は無能な妹のままでいましたよ盇

匍.....そう 益

朝 食を抜いた華は空腹だ曷早く食べたいのだが甚なんとなく食べづ

らい空気で困る易

そんな中甚朔がしてやったりな笑みを浮かべて母親に話しかけた曷

匍母上甚華を嫁とすることに甚もう異論はありませんね?盇

朔 の母親は一瞬言葉に詰まったが甚ふいっと視線を外す曷それはど

こかふて腐れているようにも見えた曷

匍.....仕方がありません盃

朔の母親が華のことを初めて受け入れた瞬間だった曷

朔は嬉しそうに華の頭をわしゃわしゃと撫で甚それを母親はじっと

見つめながらぽつりと呟く曷

匍あなたのそんな顔を見るのは初めてかもしれないわね甚朔盇

匍なにがです? 盃

びていて甚いつもどんなことがあっても無表情を崩さなかったのに盇 匍彼女の前では表情が豊かだってことよ曷あなたは子供の頃から大人

朔の母親は小さく溜息を吐く曷

匍その子があなたを変えたのね益

朔がなにかを答えようとした時甚それはもう盛大に腹の虫が鳴い

た 曷

全員の視線が華のお腹へ向く曷

匍.....もうご飯食べてもいいですか?盇

えへっと恥ずかしさを隠すように笑うしかなかった曷

空気を読めない自分の腹の虫が恨めしい曷

場の雰囲気を変えるように十和の笑い声が響いた曷

匍 ほほほほ

葛華様の

お腹が

限界のようで

すね

曷さあさ

あ甚坊

ちゃまと

引性: こく Mint こと こ・ | ニ・ナ・エ

匍十和曷これからは奥様というのはよしてちょうだい曷それは朔の妻

となった華さんを呼ぶ時に使うべき言葉よ盇

そんなことを言い出した朔の母親に甚十和は嬉しそうに微笑む曷

匍承知いたしました甚美桜様盃

この時になってようやく華は彼女の名前を知ったのだった曷

その日の夜の寝室甚またもや結界を張って式神達をシャットアウト

した中で甚朔は突然謝罪してくる曷

匍今日は望が悪かったな盗

匍 別にあれぐらいの子供の癇 癪なんてよくあることだし甚気にして

匍癇癪か姦

朔はくくっと笑う曷

匍朔に比べるとずいぶん弱いわね盃

朔 と比べるのはかわいそうだと思いつつ甚やはりそう判断せざるを

得ない曷

匍 ああ曷だから俺が当主になったことに誰も文句は言わなかった盗

それだけ朔と望の力の差は歴然としていた曷

今後の成長を考慮したとしても甚望では朔に遠く及ばないと甚初め

て会った華でもそう感じた曷

匍でも甚だからこそ痛々しいわね盇

朔は華の言っている意味が分からない様子だ曷

匍優秀なきょうだいと比べられるって精神的に結構くるのよ曷朔は比

べられて卑下することなんてなかったんでしょうけど盇

匍そうだな

匍 あの周りを威嚇するような態度も甚彼なりの必死の虚勢なのかも

ね盔

匍よく分かってるな
益

匍だてに生まれてからずっと葉月と比べられてないわよ盗

本当なら華の味方になっていてほしかった両親にすら比べられ甚無

能であることを責められ続けてきたのだ曷

そうしてできた心の傷は甚そう簡単に消えるものではない曷

もしかしたら甚望も自分と似たような経験をしているのかと思う

と甚同情を禁じ得ない曷

匍どうして誰も彼も比べたがるのかしらね.. : 盇

華は華で甚葉月は葉月だというのに惖周りはそう思ってはくれな

しを

自分を見て欲しいというそんな当たり前のことすら許されないの

だ 曷

今さら言ったところでどうしようもないこと曷そんなことを考えて

いると甚突然後ろから朔に抱き締められた曷

匍なに? 査

匍いや甚華が寂しそうに見えたから盇

匍なにそれ曷目が悪いんじゃない?盇

文句を言いつつ甚華は朔の腕から逃れようとはしなかった曷

むしろ甚身を任せるように朔にもたれかかる曷

それ以降甚朔はなにも言わない曷

ただただ静かに抱きしめられ甚朔から感じる体温が華の心を落ち着

かせてくれるようだった曷

翌日の夜甚華は朔に連れ出され甚母屋からずっと離れた場所に来て

いた曷

同じ敷地内だが甚ここまでかなりの距離を歩いた気がする曷

改めて本家の敷地の広さを実感させられた曷

朔の身長よりも大きな岩の前で甚華は朔の袖をツンツンと引っ張

る曷

匍ねえ甚朔曷ここなに? こんな夜更けに甚しかもあずは達も連れて

くるなだなんて盃

匍母の許可も得たしな曷華には本来の役目を果たしてもらいたい盇

すかさずデコピンが飛んできた曷

匍あいたっ
盃

匍結界を完全なものにするためだろうが盗

匍そうでした盗

決して忘れていたわけではない曷ずっと結界の話が出てこなかった

ので甚頭の隅に追いやられていただけだ曷

匍この場所は当主しか知らない場所だ盇

一つと思った巨岩は甚よくよく見ると等間隔に五つ置かれており甚

朔がその一つに手のひらで触れると甚岩が青く光って光の筋が伸び甚

五つの岩を繋ぐ曷

五芒星が描かれたかと思うと甚五つの岩の中心の地面がゆっくりとざいます。

動き地下へと下りる階段が出現した曷

目を丸くして驚く華に甚朔が手を差し伸べる曷

匍手を繋ぐぞ曷離すなよ曷離すと当主以外は弾かれるから金

匍う甚うん盗

華は慌てて朔の手を力強く握り締めた曷

そして甚薄暗い階段をゆっくりと下りていく曷

中は火でも電気でもない甚不思議な青い光で視界は良好だった曷

階段は狭く甚朔と二人並んで歩いていると肩が触れてしまうほど

だ 曷

少しの間歩いて行くと甚ようやく階段の終わりが見え甚ホゥルのよ

うな少しひらけた場所に降り立つ曷

そして甚その先には大きな横穴が開いていた曷

朔は華の手を引きながら迷わず進んでいくので甚華も一緒にその穴

を通っていくと甚ひらけた空間の中心に水晶のような透明の石柱が

立っていた曷

青く光を発するその石は華の全身の毛が逆立つほどの強い強い力

発していた曷

そんな石の周りには甚ひと目見ただけで強力だと分かる結界が甚石

を護るように張られている曷

匍朔甚これってもしかして..... 盇

匍この国を支える甚五つの柱石の一つ曷我が一ノ宮が遥か昔より護っ

てきたものだ姦

国を支える柱石曷

その存在は術者の家に生まれた者ならば甚物心つく頃から耳にたこ

柱曷

妖魔が狙うもの曷術者がなんとしても護らねばならぬ甚この国のいま。

しかし甚話には聞いていても甚その存在を実際に目にした者の話は

聞 かない

柱石の場所は甚たとえ術者であったとしても教えられることなく秘

密にされ甚大事に護られているためだ曷

華は実物を目にしている今ですら信じられない気持ちだった曷

だ曷現在では俺の他には両親しか知らない曷決して口外するなよ曷本 匍ここは当主と甚当主と共に結界に力を送る女性しか知らない場所

家直系の望ですら知らされないことなんだから盇

華は驚きのあまり言葉もなく甚こくこくと頷いた曷

式神達をわざわざ置いてきた理由が分かる曷式神にすら秘密にして

おきたいのだろう曷

匍見えるか? 柱石の周りを囲む結界にほころびがあるのが盗

そう言って朔はその場所を指差す曷

いる場所があるのが分かった曷 て見てみると甚朔が示した所や他にもところどころ結界が薄くなって 見しただけではかなり強力な結界だと思ったが甚よく目をこらし

匍うん 査

匍これは当主が交代すると甚これまでと違う人間の力を結界に送るた

まうんだ曷その時甚柱石の力が外に漏れ出るために甚妖魔がそれに反 めに甚それまでの力と馴染まずに反発して甚どうしてもほころんでし

応して動きが活発になる盔

匍へえ姦

匍新たに当主となった者は早急にこの結界を自分の力に染めて完全な

ものにする必要がある盃

匍その通りだ益

華が朔の嫁となったそもそもの理由だ曷

匍どうしたらいいの?盇

そう問うと甚朔はニヤッと含みを持たせた笑みを浮かべたので甚華

はなにか嫌な予感がした曷

匍結界は当主の力で維持される曷だが甚そのために他人の力を必要と

するのはおかしな話じゃないか?盃

匍まあ甚確かに

当主が代わると他人の力だから結界がほころぶというのに甚結界を

新たにするために必要となる男女の力もまた他人同士なのだ曷

朔ではない華の力が邪魔をするのではないかと疑問が湧く曷

匍力の違う他人同士曷だが甚先祖は二人の力を似せることでその問題

を解消した盃

匍どうやって? 盔

匍早い話が甚初夜を迎えること

匍しよっ!盇

華 はあまりのことに顔を赤くしてパクパクと口を開閉する曷

匍無理無理無理無理無理無理

匍そんな全力で嫌がるな曷さすがの俺も傷付くぞ盇

匍だって甚当たり前じゃない!

そもそもこれは契約結婚曷好き合っての結婚とはわけが違うのだ曷

結界のために初夜を行うなど華にはできない曷

とっさに朔と距離を取ろうとしたら甚逆に引き寄せられ腰に腕が回

される曷

もう片方の手は頰に添えられ甚親指が華の唇をそっと撫でる曷

匍俺とでは不服か? 益

熱を持った真剣な眼差しで見つめられ甚華は許容範囲を超えてうろ

たえてしまう曷

そんな華を朔はぎゅっと抱き締める曷

匍さささ甚朔? 盃

う甚どうしようと同じ言葉が頭の中をグルグル回っていると甚不意に 心臓がバクバクとし甚どう対応していいのか分からない曷どうしよ

朔の体が揺れているのに気付く曷

理由が分かった華は甚一気に冷静になった曷

匍朔甚あなた笑ってるでしょう?: 盇

もう抑えきれないというように甚朔は噴き出していた曷

匍くくくっ曷腹が痛い..... 盗

匍そのまま腹痛でもだえ苦しめっ盇

匍悪かった曷謝るから機嫌を直せ

匍 謝るなら笑いを抑えてからにしてくれます?盇

華は未だ体を震わせて笑いをこらえる朔に甚じとっとした眼差しを

向ける曷

匍そこまで過剰反応すると思わなかったんだよ曷けど甚そう言えばキ

スも俺が初めてだったな盃

恥ずかしさに顔を赤くした華は甚朔の足を踏みつけてグリグリす

る曷

匍こら甚止めろ姦

匍朔が悪いんでしょ!盇

どれだけ恥ずかしかったか甚もっと思い知らせてやりたい曷むしろ

踏むだけで許してあげていることをありがたいと思ってもらいたいも

のだ曷

匍だが甚嘘は言ってないぞ曷実際に昔はそうして結界に力を注いでい

た んだ曷体を合わせる夫婦は力の質が似てくるらしいからな盗

匍昔はってことは甚今は違うの?

るのは伴侶とは限らない曷姉妹である場合もあると前に話しただろ 匍 ああ曷術も日々進化しているということだ曷それに当主の補佐とな

う ? 盗

匍確かに甚姉妹の場合甚昔のやり方だといろいろ問題だものね盃

匍そういうことだ姦

つまり別に初夜を果たさなくとも大丈夫だと分かり甚華は心の底か

らほっと安堵の息を吐いた曷

匍そこまであからさまに安心されると複雑だな... : : <u>益</u>

朔はなんとも言えない表情をしていたが甚華は無視する曷

匍で甚どうやるの?盇

匍 力が覚醒した時に甚あずはに力を注いだことがあるけど甚それ

匍 ああ甚それと同じ要領だ曷経験があるなら問題はないな曷華は俺と

手を繋いだまま甚その時と同じように俺に力を渡してくれ盃っな

匍それだけでいいの?盃

匍後は甚力を渡された俺が自分の力に変換して結界に注ぐから甚華は

なにもしなくていい盃

匍分かった盗

華と手を繋いだ状態で甚朔は柱石を護る結界に触れる曷

匍いいぞ曷まずは少しずつ流してくれ盇

匍うん姦

華は緊張しながら甚ゆっくりと朔に力を送っていく曷

最 初 甚一 瞬だけびくりと朔の体が動いたが甚問題なく流れているよ

うだ曷

力の変換がどういうものか華の知識にはなかったが甚それはかなり

労力を必要とするようで甚朔は険 しい顔をしていた曷

匍もう少し流す量を多くしてくれ盗

匍大丈夫なの?

匍ああ姦

すでに限界そうに見えたが甚華は言われるままにそれまで以上の力

を流す曷

ゆっくりゆっくりと華の力が朔へ甚そして二人分の力が朔から結界

へと流れていく曷

どれくらい時が経っただろうか曷

朔の額に汗が滲むのを見て甚相当つらい作業なのだと分かる曷

華には朔に力を送り続けることしかできない曷

それでも甚ちゃんとそれは確実に成果として目に見える形で出てい

た 曷

それは全体から見たら微々たるものではあったが甚ほころびていた

結界が最初の時よりも強化されている曷

声に出すことなく喜色を顔に浮かべると甚朔が結界から手を離しそ

の場に崩れ落ちるように座り込んだ曷

華は慌てて力を流すのを止める曷

匍朔甚大丈夫?盇

匍 ああ 曷問題ない曷それよりお前は大丈夫なのか? かなりな量

匍全然問題なし盗

華はケロリとした様子で親指を立てた曷

匍予想以上の力を持ってるな甚お前盗

朔 は華の力に驚きつつしんどそうな顔をしていたが甚しばらくすれ

ば落ち着いたようだ曷

匍本当に大丈夫なの?

匍最初だからな曷力を変換しながら結界にも気を配らなければならな

いことで思ったより疲労しただけだ曷慣れたら問題ない曷華が大丈夫

匍分かった曷私は大丈夫姦

華とは違い甚朔は疲れ切った顔で額の汗を拭っている曷

それを華は不思議な気持ちで見ていた曷

一ノ宮の分家でありながら甚一ノ宮本家とはまったく関わりのない

生活をしていた華曷

あの公園で朔と出会っていなかったら甚きっとこの場にも立ち会う

ことはなかった曷

自分の知らぬところで甚朔がこんなにも必死に国を護ろうとしてい

たなど思いもしなかっただろう曷

まだ若いのに甚その肩には国の命運がかかっている曷

そんな責任の中で甚朔は誰に文句を言うでもなく使命を果たしてい

る曷

そう思ったら自然と手が伸び甚朔の頭を撫でていた曷

匍なんだ甚この手は盗

いぶかしげな顔をする曷

匍つせん曷激励?

匍なんで疑問形なんだ盃

匍なんかさ甚朔を見てるとなんだか自分が恥ずかしくなってきちゃっ

て 盇

朔は困惑している曷

急にこんなことを言い出したのだからそうなるだろう曷

匍力が覚醒してからもずっとそれを隠してきたでしょ? 面倒なこと

が嫌で甚術者として生きるのが嫌で甚自分に火の粉が降りかからなけ れば妖魔のことだって見て見ないふりしてきたし曷まあ甚その考えを、『『』』

変える気は今のところないんだけどさ曷でも朔はその若さで重い責任

背負って甚こうして必死になってたくさんのものを護ろうと汗を流し てて曷純粋に朔のこと尊敬するなって思ったの盇

朔を見て気付かされたもの曷

朔がどれだけのものを背負いこの場にいるのかと曷

がちょっとでも軽くなるなら甚私にも分けて曷... 負わなくていいものまで背負って甚朔が倒れちゃうんじゃないかっ さ甚今回みたいに私が手伝えることがあるなら手伝うから曷朔の重荷 に甚当主になってたくさんのものを背負ってる曷だからこそ心配曷背 て曷責任感があるのはいいことだけど甚全部一人で溜め込まないで 匍朔はきっとすごく責任感があるのね曷私とそう年齢も違わないの . まあ甚その甚一応

自分から夫婦と言うのは少し照れくさく甚朔を直視しては言えな

夫婦.....なわけだし.....曷期間限定だけど盇

かった曷

匍..... 盇

朔 は驚いたような顔で甚じっと華を見つめていた曷

匍朔?盇

反応のない朔の前で手を振ると甚突然手を引かれ搔き抱かれる曷

匍えつ甚朔?姦

匍お前はほんとつ..... 盗

匍なに? 朔? お殳い盇

ぴったりと体がくっつくように抱き締められているため華からは朔

の顔が分からない曷

けれど甚華を抱くその腕の強さに甚なにかを感じ取った華は抵抗す

ることなく朔のしたいようにさせた曷

しばらくして華を離した朔は甚これまで見たどの顔よりも優しい穏

やかな表情をしていて甚目が離せなくなる曷

匍お前は馬鹿だな盗

その声色は慈しみに溢れていて甚華は反論の言葉も浮かんでこな

かった曷

匍自分で逃げ道を塞いだんだから盃

匍覚悟しておけということだ盇

華はまったく意味が分からず首をかしげる曷

匍帰るぞ甚華

華の名を呼ぶ朔の声は甚どことなく甘さを含んでいた曷

華が望との決闘で力を発揮してから甚あからさまに周囲の態度が変

わった曷

使用人などは陰口を叩かなくなり甚そのおかげで葵の機嫌もすこぶ

るいい曷

そして朔の母甚美桜も甚華に嫌みを言うことがなくなり甚平穏な生

活を手にしていた曷

ただし甚決闘でコテンパンにした望からは顔を合わせる度に睨まれ

る曷

ちゃんと食事の席には顔を出して四人そろって食事をするように

なったものの甚望から華に話しかけてくることはない曷

反応を楽しんでいる曷 ながら望をあおっては甚怒りをこらえ無視しようと体を震わせる望の けれど甚華は喧嘩を売られたことを忘れてはおらず甚二ヨニヨとし

あまりやりすぎると甚隣にいる朔からチョップが飛んでくるので甚

見極めが大事だった曷

そんなある日甚華は見てしまう曷

誰もいない庭の片隅で望が座り込んでいるのを曷

なにをしているのかと甚建物の陰からこっそりと覗く曷のにをしているのかと甚建物の陰からこっそりと覗く曷

匍紅蓮甚どうしたらいい?盇

どうやら自分の式神である鷹の紅蓮に話しかけているようだ曷

司色よ己』こうができらいか、これのからで ノトう こぼう こごナよ ひごに 引ごう

い? ら.....曷紅蓮甚どうしよう?: 兄貴に嫌われたら生きてけねぇ!盇 今更じゃねえ? ちゃって曷あっ甚やばいって思ったらもう手遅れでさ曷謝りたいけど もっといい人がいるんじゃないかってさ曷そしたら勝手に口が動い いんだよ曷でもさ甚相手があの落ちこぼれだって思ったら甚兄貴には よくて完璧なあの兄貴が選んだ人なんだ曷絶対素晴らしい人に違いな てあの兄貴だぜ? 争作に5号にダナで10たたとおおし Jan 2 見こたたにたんた J 唇 たこ 兄貴に嫌われたかなぁ? こんな弟いらねぇなんて言われた あんなひどいこと言っちゃってさ曷俺どうしたらい 最年少で漆黒を取って甚強くてかっこよくて頭も

匍見てはいけないものを見てしまった気がする.. 盇

華は物音を立てないようにそっとその場から離れた曷

うせんと腕を組んで悩みながら廊下を歩く華の前に甚美桜が通りか

かる曷

匍 いえ甚なんでもないです曷朔のお母様を煩わせるようなことじゃな

いので姦

あなたの息子が隠れブラコンだっただけなんですなどと言えるはず

もない曷

匍それ甚止めてくれないかしら盃

匍それ?

なんのことを言われているのか華はわからず首をかしげる曷

匍 朔 のお母様ではなく甚お義母様と呼びなさい曷私は朔だけはなくあか。

なたの母でもあるのですから益

美桜は頰を染めてぷいっと顔を背けて足早に去って行ってしまっ

た 曷

望とハハ甚美桜とハハ甚なんとハうか

曷

匍ねえ甚朔の家族ってツンデレが初期装備なの?盇

ちょうど通りかかった朔にそう言ったら甚不審な目で見られてし

まった曷

* * *

匍 なんだなんなんだよお前! どこから来やがった!! 盇

重お前は裁きを受けなければならない紂

匍ひっ甚しゃべった..... 盇

黒 いそれはじわじわと獲物を追い詰めるように距離を縮め甚襲いか

かった曷

匍ぎやああああ!! 盗

静かになったその場には物言わぬ死体が転がっていた曷

重まずは一人紂

暗い暗い闇の中甚とあるマンションの一室からそれはすっと消えて

いった曷

* * *

なんだかんだありつつ甚ようやく学校へ行けるようになった日曷

ずっと徒歩で学校に通っていた華はその日も歩いて通おうとしたの

を美桜に知られ □られてしまう曷

当主の妻ともあろう者が徒歩とは何事かと曷車を使えというので甚

華は初めて車で登校することとなった曷

車から出た瞬間から甚華は注目の的だった曷

この黒曜学校には甚華と朔の祝言にも出席した一ノ宮の分家の子も

たくさん通っている曷

そんな子達から甚他の生徒へと話が回ったのだろう曷

葉月の無能な妹と有名だった華だが甚これまで華のことを知らな

かった生徒にすら認知されるほど有名になってしまった曷

周囲から刺さる視線の嵐曷

匍冗談でしょう? だって姉の残りカスって言われてる子だよ盇

匍でも甚一ノ宮の分家の子が甚祝言に参加したって盗

匍それが本当だとしたら甚一ノ宮終わってるでしょ曷あんな子を本家

に迎えるなんて 森

そんなひそひそ話が聞こえてきてとんでもなく居心地が悪い曷

しかし甚普段から陰口を叩かれていたので甚内容が変わっただけだ

と思い直したら気にならなくなった曷

匍人の噂も七十五日ってね益

華は気にすることなく自分の教室へと向かった曷

教室に入るやいなや甚鈴が突撃してきた曷

匍華ちゃん甚どういうことなの?! なんでなんで? いつの間に一ノ

宮のご当主様とそういう仲になっちゃってたの!? 私聞いてないよ

! 盇

いつものほわほわとした雰囲気の鈴は存在せず甚狩人のように目

をギラつかせていて甚少し怖い.....曷

**司
冷
甚
答
ち
着
ハ
て
な**

けれど甚そんな言葉では鈴の興奮は収まらなかった曷

らぬ間に人妻になっちゃってたんだよ曷親友の私には一言も相談せず 匍落ち着いてなんていられないよ! 華ちゃんが甚あの華ちゃんが知

に! 私はちゃんと彼氏ができたこと報告したのにぃ盇

あの華ちゃんとはどの華ちゃんなのか甚少し引っかかったが甚そこ

は追求しなかった曷

匍う甚うん曷それは悪いとは思ってるけども甚鈴に相談している暇が

匍なにがあったか教えて!盃

とりあえず先に自分の机に鞄をおいて甚話し始める曷

こちらを見なハようこしてハるが甚本当は鈴のようこ華を問ハただ

く・ー・し・ファスコーマラく く・ | 三 ラ F し

したい興味津々なクラスメイトが華の話に耳をかたむけているのは気

付いていた曷

だが甚いちいち聞かれる度に答えるよりは甚こうしてたくさんの観

衆がいる中で話した方が何度も同じことを話さずにすむと甚あえて教

室内で話すことを選んだ曷

華は甚朔との契約のことは一切話さずに甚普通に公園で出会ったら

後日熱烈に結婚を申し込まれ甚条件がよかったので受け入れたと伝え

た 曷

かなりはしょりすぎたかと思ったが甚柱石云々のことを話すわけに

も いかないので甚どうしても簡潔な答えになってしまう曷

しかし甚それが鈴にいろいろと勘違いを与えたようで甚目をキラキ

ラとさせていた曷

匍それって甚ご当主様は華ちゃんに一目惚れしたってことだよね?盇

匍一目惚れ?

ある意味一目惚れかもしれない曷華の術者としての力にだが曷

匍うわぁ甚素敵 Ì でも甚ご当主様との結婚なんてよく本家の人達が

許してくれたね盃

匍まあ甚朔のお母さんも最初は反対してたけど甚今は納得してくれて

る曷 いろいろと急すぎたし甚お母さんの気持ちも分かるから甚結果的

に受け入れてくれてよかったかな益

匍ご当主様は家族に反対されても華ちゃんをお嫁さんにしたかったん

だね姦

鈴はうっとりとするように喜んでいる曷

きっと乙女な想像をしているのだろうが甚あいにくと華と朔はビジ

トスライフよ

引系ご

引

結界が完全なものになれば解消されるような甚もろい糸で繋がれて

いる間柄にすぎない曷

それなのに甚これほど大々的に華が嫁だと知れ渡ってしまって甚離

婚した後はどうするのだろうか曷

離婚したとなればそれはそれで大騒ぎされそうなのだが甚朔はその

辺りのことを考えているのか心配になる曷

しかも甚今華によって新たな話題が出来上がってしまった曷

おかしい曷

なぜこうなったか華にも分からない曷

利害関係の一致であることを説明したかったのだが甚秘密にしてお

かなければならないことを隠して話すと甚なんだか朔の一目惚れから

の求愛で結婚した恋愛婚のような内容になってしまった曷

これが広まると甚後々朔に怒られそうである曷

教室内で話をしたのは失敗だったかもしれないと後悔したがもう遅

とを

今の会話はクラスメイト達にバッチリ聞かれてしまっている曷

ドラマのような劇的なストゥリゥに甚そういうのが好きな女子生徒

などは鈴と同じように興奮しているではないか曷

現代のシンデレラみたい甚などと言っている声が聞こえてきて甚そ

れは違うと華は慌てる曷

匍鈴甚ちょっと勘違いがあるかも曷朔との出会いはそうだけど甚結婚

は家 の都合で決まったような感じで甚決してお互い恋愛感情があるわ

けじゃないからね盃

ここを強調しておかねば甚離婚する時に華は朔に捨てられたかわい

そうな女になってしまうので必死である曷

だが甚一度始まった勘違いを正すのは難しかった曷

匍大丈夫だよ甚華ちゃん曷私はちゃんと分かってるから曷そう言っと

かないと周りの女達からの嫉妬が大変だもんね盃

匍へ? いやいや違うからね甚鈴盗

匍もう甚華ちゃんったら曷そんなこと気にしなくても華ちゃんが奥さ

んなんだから甚ドンと胸を張っていいんだからね盇

匍分かってるよ甚大丈夫盇

ニコニコ微笑む鈴は完全に誤解している曷

だが甚一度そうだと思い込んでしまった鈴の考えを変えることはで

きなかった曷

そうこうしていると教師が入ってきて話は中断され甚授業中甚華は

どう説明したものかと悩まされることになった曷

そして甚休み時間の度に鈴と話をするが誤解を解くには至らず甚そ

なぜか華が無能故に両家から反対されていた恋人同士が結婚を強行し ればかりか昼休みまでの間に甚朔が華に一目ぼれしたという話から甚

匍 たロミオとジュリエット的な話に変化して広まってしまった曷 いやいや甚どんな伝達ゲュムしたらそうなるのよ盇

食堂に向かう途中甚見知らぬ生徒数名に匍私は応援してい ますか

ら!盇と涙を拭いながら応援された華は頭を抱えるしかなかった曷

これは本気で朔に怒られる案件だ曷

こんな噂が立っては離婚がしづらくなるではないか曷

か華が当主の伴侶になったことへの批判より歓迎ム々ドが高まってい どこに行っても噂されるのは甚悲恋からのハッピュエンドで甚なぜ

る曷

やはりいつでもどの時代でもシンデレラストゥリゥというのは万人

受けするんだなと考えさせられた曷

ただのシンデレラなら同じように朔を狙っていた女達からの嫉妬の

嵐 が吹き荒れたのだろうが甚そこに悲恋が加わったことで甚華には予

想外の化学反応を起こしてしまった曷

逆に居心地が悪い曷

匍うせむ盗

匍華ちゃん甚なにか悩み?盇

腕を組んで悩みながら鈴と一緒に廊下を歩いていた華の前に甚突然

立ちはだかる三人組の女子生徒曷

どうやらAクラスの生徒のようだ曷以前に葉月と一 緒にいるところ

を見たことがあった曷

それに甚華の記憶が確かなら一ノ宮の分家の子だった気がする曷

匍 いい気になってるようだけど甚あなたが一ノ宮の名を使うなんて恥

知らずだと分からないのかしら?盇

これはなんともあからさますぎる嫌み曷

思わず華は涙を流してすがりつきたくなった曷

華が思っていた通りの反応を示してくれる貴重な存在がいたのであ

る を

まあ甚一ノ宮の分家の娘なら同じように朔を狙っていたはず曷敵意

を向けられるのは当然か曷

まさか彼女達も無能と有名な華にかっ攫われるとは思ってもいな

かったのだろう曷葉月だったなら彼女達も納得しただろうけれど曷

彼女達は憎々しげに華を睨みつける曷

匍なんだか今おかしな噂が流れているようだけど甚あなたがご当主様

に愛されているわけがないでしょう!盇

匍その通りよ曷なにかどうしようもない理由があるに違いないわ盇

それに反論したのは華ではなく鈴である曷

匍そんなことないもの! 華ちゃんはご当主様に愛されてるんだか

頰を紅潮させて声を荒げる鈴は友達思いの優しい子だが甚残念なが

ら実際は文句を付けてくる三人組の言葉の方が正しかったりする曷

匍なんなのよ甚あなた曷部外者は黙ってなさいよ!盇

匍あなた達だって部外者じゃない!

いつになく好戦的な鈴に華は戸惑う曷

匍自分がご当主様に選ばれなかったからって嫉妬しないで!盇

その言葉は彼女達の痛いところに刺さったようだ曷

顔を真っ赤にして怒りに肩を震わせた一人が甚鈴を思いっきり突き

飛ばした曷

匍鈴!盇

廊下に倒れ込んでしまった鈴に駆け寄り様子を窺う曷

りくを フーニン・モ

匍鉛基大丈夫!! 盗

匍うん.. 盇

は華も吞気にかまえていられない曷。をえき、怪我はないようで安心したが甚腕を痛そうにさすっているのを見て

三人組をギロリと睨み付ける曷

歩近付きながら威圧する華に甚鈴を突き飛ばした女子生徒はたじ

ろぎつつも甚負けを認めたくないように強気に返す曷

匍な甚なによ姦

匍鈴に謝りなさいよ盗

華が静かな憤りをこらえて要求すると甚相手は嫌そうに反論してき

た 曷

匍はあ!? なんで私がそんなことしなくちゃならないのよ盗

旬 あっこが突き飛ばしこかっこ 夬まってるでしょうが! 盈

育 こノブフララデーリブブドージョ・・・・・・・ブ Ē

匍 部外者のくせに首を突っ込んできたそっちが悪いんでしょう曷私は

悪くないわ盃

開き直る彼女を甚華は冷めた眼差しで見る曷

匍ふºん曷そっちがその気ならいいわ曷覚悟しとくのね盇

匍どういう意味よ盔

華はなんともあくどい笑みを浮かべてみせた曷

にされたことを言うだけのことよ曷あなた達が私に悪口を言ったこと **匍あなた達一ノ宮の分家の子達でしょう? だったら甚朔にあなた達**

も含めて甚当主の妻に反抗したって伝えてあげる曷朔がどう対応する

か見物だわね姦

そう
与
げる
上
甚
皮
女
幸
は
分
か
り
や
す
く
領
名
を
变
え
た
易

くそイラミスージンフ

匍なつ!

匍卑怯よ! 益

動揺する彼女達の反応を心の中で高笑いしながら甚華は続ける曷

匍なにを焦ってるの? あなた達いわく甚私は朔に愛されてないんで

しょう? そんな女の言うことなんて聞くはずないって高みの見物し

てたらいいじゃない盇

華はそう言い捨てると甚鈴の手を引いてその場を後にした曷

言い逃げた感はあったが甚彼女達の話に付き合う必要もない曷

匍華ちゃんあんなこと言っちゃって大丈夫?盇

安易に当主の名を出したことに対して大丈夫なのかと鈴は心配して

いた曷

分家にとったら本家の当主とは雲の上のような存在なのだ曷そんな

当主を煩わせるようなことは普運気が引ける惖

まあ甚華はまったく気にしないのだが曷

なにせ雲の上の存在である当主とは朔である曷この数日間一緒にい

て甚朔がそんな細かいことで気分を害するような小さい男でないこと

は理解していた曷

むしろお互いに言いたい放題できるほどに華は朔に気安さを感じて

い る 曷

正直甚家族よりも距離が近いかもしれない曷

そんな朔だから華も遠慮なく面倒ごとを押しつけられるのだ曷

匍問題ないよ曷こういうこと言われるのは想定内だし甚朔がなんとか

するでしょう曷私は虎の威を借る狐ってスタンスでいくことにする盇

華へなにかする度に一ノ宮の当主が出張ってくると分かれば甚華へ

〇会口と 兼がったよごこよいよるごろう 見

の降口や好からせたともたくたるたべに見

そう考えれば甚今や学校中の話題となっているロミジュリ的な噂

は甚華にとって有利に働くかもしれない曷

そもそも甚結婚を言い出したのは朔なのだから甚華の平穏な生活の

ために働いてもらわねば困るのだ曷

目指すはのんびり優雅な老後生活である曷

匍そっかぁ曷愛されてるんだねえ曷これで華ちゃんとも恋バナできる

から嬉しい盇

無邪気に笑っている鈴には悪いが甚恋バナができる関係ではない曷

なので甚朔のことは曖昧にぼかして鈴の話だけを聞く曷

匍今度ゆう君とショッピングモゥルに行くんだぁ曷ゆう君から誘って

くれてる甚れれで

まだまだ続く鈴の惚気に甚華は匍へえ

査と相槌を打ちながら笑って

いた曷

* * *

華が学校で噂の的となっていた頃甚朔はとあるマンションの一室へ

と来ていた曷

入り口では警察官が人の出入りを制限していたが甚朔が五色を示す

漆黒のネックレスを見せるとすんなりと中へ通された曷

玄関に入るや鼻腔を刺激する鉄臭さ曷

Z ノてきさっこ 羽室の中へ 1 己を沓 4 へって ざきそこ は一 旬 血の 与

だった曷

壁や天井にまで赤黒い血が飛び散り甚床は足の置き場にも困るほど

に血に濡れていた曷

中を調べていた刑事が朔に気付き近付いてくる曷

匍一ノ宮のご当主様甚お疲れ様です盃

匍ただの事件じゃないんだな?盇

匍はい

警察でもない朔が呼ばれたというのはそういうことだった曷

時に術者は甚科学では説明できない不可思議な事件の場合甚警察か

ら協力を要請されることがある曷

こういう不審な事件の場合は緘口令が敷かれ甚まず協会の初動部隊

が動き甚術者案件かを判断するのだ曷

なく術者の対処が必要と判断された場合は情報規制も容易にしてしま マスコミも一ノ宮を含む五家のどこかの傘下にあるので甚警察では

匍まずは遺体の方をご覧になってください盗

えるのだ曷

部屋の中央に被されていたブルゥシゥトを刑事が取ると甚見るも無

匍死因は失血死曷どうやら首の傷が致命傷となったようです 惨な若い男性の遺体が発見されたその時のままになってい た る

匍片腕と片足もないな盃

五色の術者として甚それなりに場数を踏んでいる朔は甚ひどい姿の

遺体を目にしても眉一つ動かさなかった曷

冷静 な眼差しで甚不審点を確認 していく曷

刑事は少し眉をひそめつつ甚現在手にしている情報を伝えた曷

์ ก

飼っていません曷ましてや人の手足を引き千切れるほどの大きさの動 るで嚙み千切られたような傷痕でした曷しかし甚この家で動物などは 匍どうやら首の傷は獣などの嚙み傷のようなんですよ曷腕と足も甚ま

匍なるほど盔

物が甚この都会の町中を歩いているとは考えづらい盇

言葉少なに返事をし甚朔はしゃがみ込み遺体を近くから観察する曷

朔が気になったのは甚その傷痕曷

匍禍々しい力を感じるな曷それもかなり強い曷だが甚妖魔とはどこかまがまが

違う力だ姦

匍ということは甚これは術者の領分ですか?

匍そうなるな曷それもかなり厄介な案件になりそうだ曷初動部隊もそ

う考えてわざわざ忙しい俺を呼び出したんだろう盇

月まらノニョ丁ラト
う
引

労にヨッとヨギをTでるを

未だ柱石の結界は完全には至らず甚そんな時に五色の術者が動かない。

ければならないほどの事件が起こるのは予想外曷

他の者に回して結界を優先させたいが甚漆黒を持つ五色の術者は数

が少ないのだ曷

その誰もが他の案件に携わっていて甚この地域で今動けるのは朔だ

けだった曷

下手に下のランクの術者に任せて被害を増やしては元も子もない曷

朔が動くしかなかった曷

仕方なく調査に乗り出した朔だったが甚数日後同じような事件が起

きる曷

同じく獣に嚙まれ引き千切られたかのような傷痕の遺体が甚公園で

発見されたのだ曷

しかも甚今回は目撃者がいた曷

被害者は友人と公園で酒を飲んでいたところを襲撃されたらしい曷

朔は早速その目撃者という友人男性と会うことにしたが甚面会時甚

その男性はかなり怯え震えていた曷

無理もない曷目の前で友人が殺されるのを目撃してしまったのだか

ら曷

匍なにがあった?盇

未だ恐怖が尾を引く男性に対して甚朔はできるだけ優しく声をかけ

た 曷

匍ば甚化け物だ..... 盗

男性は顔を青くし甚震えながらそう口にした曷

匍化け物? どんな? 盇

) 5

少 犬なんているはずないっ曷なのに突然現れたと思ったら襲いかかって 匍 公園で好と酒を飲んでて甚そしたら急にあいつかやって来た長二

男性はそれ以上を口に出せなかったのか甚口をつぐんで震える曷

れ以上話を聞くのは無理かと離れようとした朔に甚男性はすがり

ついた曷

匍助けてくれ! 次は俺が殺される曷あいつがそう言ってた!盇

匍 化け物が言ってたんだよ曷これであと二人曷次はお前だっ て 曷

なんでこんなことになるんだよ曷この間も甚早瀬の野郎が死んだとこ

() ニー・ () ニー・王

とたってのに盗

匍なに?

聞き逃せないその言葉曷

早瀬というのは甚先日マンションの一室で亡くなっているのを発見

された最初の被害者の名だ曷

声を荒らげて男性の肩を摑む朔に甚男性は怯えながら頷く曷

匍あ甚ああ曷いつもつるんでる奴の一人だよ盇

第一の被害者も第二の被害者も同様の被害にあった曷そして甚三人

目の殺害予告曷

これら三人全員友人関係にある曷

匍無差別じゃないのか.....?盇

シギョフトニション・ラ・ニー くま女は目

しかも甚男性を含めてあと二人甚敵に狙ってしる長

匍理由はなんだ?

きっとなにか理由があるはず曷共通点となるなにかが曷それに残り

人の存在も確認しておかなければならない曷

しかし甚男性に聞いても甚知らない甚分からないの言葉しか返って

こなかった曷

これ以上聞くことは諦め甚狙われている可能性がある男性に椿を付

けて朔は事件のあった公園を訪れた曷

そこには朔が思わず顔をしかめてしまうほどの恨みの念が満ちてい

た 曷

ただ人が殺されただけでこうなるものではない曷

公園内は立ち入り禁止となっており甚幾人かの警察官がまだ残って

調べていた曷

その一人に朔は声をかける曷

匍聞きたいことがあるんだが甚いいか?

匍なんでしょう?盇

匍最近甚この公園で甚今回の事件とは別の問題が起きなかったか?盇

匍別の?姦

その警察官はいぶかしげな顔をしつつ甚なにかあっただろうかと考

え込む曷

そんな中甚別の警察官が思い出したように横から話に加わった曷

匍 あっ甚確か少し前に犬の死体が見つかったんじゃなかったか? あ

れ甚この公園だよな?

その言葉を聞いて甚朔と話していた警察官も思い出したように口を

開いた曷

匍そうだ甚そうだ曷この公園だったな

匍どんな事件だ?盃

匍この公園で少し前に大量の犬の死体が見つかったんですよ曷どれも

危害を加えられたもので甚人間による犯行だろうと捜査中のはずで

す曷確かニュゥスにもなっていたかと曷ここ最近周辺でそういう事件

が続いているんですよ盃

匍そうか甚情報感謝する盗

匍いえ甚とんでもございません盃

警察官が敬礼したのを一瞥してから甚朔は背を向けて公園を後にし

た 曷

本家に戻ってから朔が他の術者にも集めてもらっていた情報をまと

めていると甚ぼろぼろな姿の椿が戻ってきた曷

辨は慌てて 駆け 寄る 浸

匍大丈夫か甚椿曷なにがあった?盃

匍う~曷ご主人様甚ごめんなさい曷椿甚負けちゃいましたぁ盇

匍お前が護っていた奴はどうした?盇

匍死んではないですぅ曷でも甚奴が戻ってくる前に他の術者を付け

それだけを告げると甚倒れ込んでそのまま姿を消してしまった曷

式神は主人が死なない限りは何度でも再生できる曷だが甚姿を保て

ないほど消耗するとしばらくは休息を必要とする曷

椿は当分使い物にならないだろう曷

それにしても椿を倒してしまうほどの相手とは甚朔も想定外だっ

た 曷

それほどの力を持った存在をいつまでも野放しにはできない曷

匍時間との勝負だな盃

朔はすぐに電話をして椿の代わりとなる術者を手配する曷椿の代わ

りとなると一人では無理だ曷実力のある数名の術者を動かした後甚人

を呼ぶ曷

匍華を呼んできてくれ
奋

匍かしこまりました盃

すぐに使用人に呼ばれた華が姿を見せた曷

その髪にはいつものようにあずはを連れて曷

普段は抑えられているが甚ちゃんと見れば分かる者には分かる曷華

の身の内に宿る強い力が曷

それは朔ですら感嘆させるほどの強さ曷

よくもまあ甚今まで隠し通せたものだ曷それは華の隠す能力が高い

か甚それとも華の周囲にいた者達が無能なのか曷

朔は両方だと思っている曷

だが甚朔が塗り替えられなかった瑠璃色の最年少記録を持つ き華の

兄である柳ですら気が付かなかったことについては甚もの申したい気

持ちがある曷

なぜお前まで気が付かなかったのかと曷

まあ甚柳はほぼほぼ家に帰れなかったので仕方ないのかもしれな

い 曷

なにかと柳に仕事を押しつけてきた朔が文句を言うのは理不尽とい

うものだ曷

断じて瑠璃色の最年少記録を塗り替えられなかったのが悔しかった

からではない曷

匍朔甚なんか呼んだ?盇

匍ああ甚話がある盗

華が向かいに座ったのを見計らって説明を始める曷

ここ最近の殺人事件曷人ならざる者が関わっている可能性と甚狙わ

れている一般人曷

匍結界のこともあるから甚早急に解決したい曷そこで華に協力しても

匍やだ姦

朔が言い終わる前に返ってきた拒否の言葉に甚一瞬沈黙が流れる曷

冷静に甚冷静にと自分に言い聞かせて甚朔は再び口を開く曷

匍華 の力があれば事件も早く解決できるはずだ盃

匍だから甚やだ盇

一度目の拒否で朔の沸点が限界を超えた曷

匍お前甚この間自分に手伝えることがあるなら手伝うとかなんとか

言ってただろうが!奋

匍言ったっけ?姦

あくまで知らぬふりをする華に甚朔のこめかみに青筋が浮かぶ曷

すっかりさっぱり忘れている様子の華に甚あの時の感動を返せと言

いたかった曷

それだけ華にとってはすぐに忘れてしまうような甚なにげない言葉

だったのだろう曷

だが甚朔は嬉しかったのだ曷

術者としても並の術者を大きく超える力を持った朔のことを頼る者

はいても甚頼ってくれと言ってくれる者はいなかった曷

誰もが尊敬はしても甚できて当然と心配はしない中甚華が初めて

だったのだ曷

それなのに.....曷

か わいさ余って憎さ百倍とはこのことかと甚朔は初めての感情を

知った曷

匍なにを?

査

匍この事件が解決したら甚海の見える別荘も付ける益

華は目をキラキラとさせ甚ころりと態度を変えた曷

匍協力させていただきます!盇

匍後で契約書持ってこい曷変更事項を書き加える盇

こうして華の協力を得ることになったのだった曷

朔から捜査協力を求められ甚別荘に目がくらんだ華は考える間もな

く協力することを決めた曷

だが甚後になって考えなしだと葵に怒られる羽目になった曷

けれど甚目の前で新しい事項が書き加えられていく契約書を見て甚

華の機嫌はとてもいい曷

匍これでいいだろ
益

匍ありがとう!
奋

書き終えた契約書を朔から受け取った華は内容を確認することなく

折りたたんだ曷

後に後悔するとも知らずに曷

そして捜査のためと言われ甚朔に外へ連れ出された曷

学校があるのだが甚術者として動くためと朔が担任に報告してくれ

たために公休扱いとなった曷

捜査と言ってもなにをするのかと思えば甚二人で町をひたすら歩き

回るだけ曷

力はあっても術者として事件の捜査に加わったことのない華はわけ

も分からず付いていくだけだ曷

さすがに疲れてきたところで甚朔に問う曷

匍ねえ甚なにしてるの? 捜査は?

匍してるだろう盗

匍どこらへんが?盃

華にはただ散歩しているだけにしか思えない曷

匍気付いてなかったのか?奋

匍なにが?盃

本気で分かっていない華の様子に甚朔は呆れた顔をする曷

匍妖魔は難なく倒せるのに甚お前は力は強いがかなり偏ってるな曷ま。タッッ あ甚術者として働いたことがないなら仕方ないのか盇

匍どういう意味?盔

朔はふうと一息吐いてから甚スマホの画面を華に見せる曷

画面にはここら一帯の地図が表示されていた曷

匍ここが第一現場で甚ここが第二現場曷そして甚ここ最近動物の変死

体があった場所だ盃

地図を見せながら丁寧に教えてくれる朔曷

華は地図を示されて甚午前中に歩いてきた所を思い出し甚ようやく

気付いた曷

匍午前中に歩いてきたところ?盇

匍そうだ曷お前は気付いていなかったが甚そこのどの場所にも同じ力

の残滓があった曷恨みや憎しみといった深い負の感情は殺された動物ででし

達の想いだろうが甚そういうものを放っておくと魂はその場に留ま

り甚力を付けると妖魔に変化する盇

匍妖魔は生き物の強い負の感情から生まれるっていうんでしょう?

それぐらいは学校で習ってるよ

馬鹿にするなという気持ちで朔を見る曷

妖魔が生まれるほどの穢れを感じたにもかかわらず甚妖魔には一切出 匍そのわりには華が気付いていないようだからだ曷これまでの場所に

会っていない 益

匍確かに.... 益

普段から妖魔に狙われる華だが甚今日は一度も遭遇していない曷

妖魔は負の感情が濃い場所に集まってくるものなのにだ曷

た曷なら甚それはどこに行ったのか曷それが問題だ曷動物の変死体が 匍 負 の力は感じたのに甚それは残り香のようにすでに消えかけて

あっ た場所には甚二件の被害者の遺体に残っていた禍々しい力の気配

が残っていた盃

そんなもの感じていなかった華は首をかしげる曷

匍.....お前甚ちゃんと授業受けてないだろう盗

匍だって甚術者になる気なんて一切ないんだもの盗

匍普段甚授業中なにしてるんだ盗

匍寝てる盔

すかさず朔からチョップが飛んできた曷

匍はいはい曷今はそれより事件のこと盃

朔は深い溜息を吐いて甚気を取り直す曷

匍とりあえず甚次の所に行くぞ盇

匍まだあるの?
奋

匍次で最後だ益

もう歩きたくない華の手を引いて甚朔はサクサク歩き出す曷

着いたのは甚なんてことない駐車場だ曷

普段から妖魔と遭遇してる華なら甚力の気配を視ることができるはず 匍そうだ曷いいか甚よく見てみろ曷この場にある異物を感じるんだ曷

そう言われてじっと注視する曷

全身を使って甚人ならざる者の気配甚穢れ甚負の感情という目に見

えないものを感じとる曷

最 初はよく分からなかった華だが甚精神を落ち着かせ集中すると甚

朔の言う異物を感じることができた曷

それは確かに背筋が寒くなるほどの甚怨嗟の念だった曷

まるで甚悲鳴が聞こえてきそうなほどの恨みと憎しみといった感

情 曷

けれど甚それは今にも消えてしまいそうに弱い曷

匍うん曷なんとなく分かった盃

匍さすが筋がいいな盃

匍普段から妖魔を見てるからね曷妖魔の力には敏感だから曷けど甚こ

このは少し違う気がする盗

匍まだ妖魔ではないからだろう曷それに別の気配がしているのも感じ

るか?姦

華はもう一度集中してみる曷

ここで殺された生き物とは違う甚それよりももっと禍々しい強い

力 曷

それは妖魔のようでいて甚妖魔のようではない甚華も初めて感じる

力だった曷

匍な んか変なのは感じるけど. ..なんだろ甚これ?盇

匍同 じものが被害者二名の傷痕からも感じられた曷そいつが今回の目

標だ姦

匍目撃者は犬って言ったんだって? しかもしゃべったって盇

匍ああ姦

言葉を話す妖魔は聞いたことがない曷

妖魔は甚たくさん集まった負の感情の塊曷個は存在せず甚故に意思

はない曷

ただひたすらに世界を恨み甚力を欲している曷

なので甚誰か特定の者をなんらかの理由を以て襲った今回の件は妖

魔のせいとは断定できなかった曷

きっと朔は妖魔ではない甚別の存在の可能性を考えているのだろう

と華は思った曷

匍妖魔でなかった場合甚なんだと思う?盗

匍意思のある存在.....曷もしくは呪いの類いかもしれない盇

匍呪いだったら私は手を貸せないよ?盇

呪いだった場合は甚呪い返しをする必要があるが甚呪いの類いは下

手をすると術者にも返ってくる曷

それ故に学生のうちでは危険すぎて教えられないのだ曷

三色以上の術者になって甚ようやく教えられる曷

五色の術者である朔は当然知っているだろうが甚学生である華は呪

いに関 しては存在ぐらいしか知らないのだ曷

匍分かってる曷その場合は華は手出ししなくてハハ曷とハうか甚絶対

にするな

それを聞いてほっとしたが甚完全に安心などできない曷

しばらくその場に留まったが甚めぼしいものは見つけられずに移動

することにした曷

匍朔~曷お腹減った盃

匍そうだな 曷一旦休憩するか 盗

ちょうど近くにショッピングモゥルがあったので甚そこなら飲食店

もあるだろうと中へ入る曷

匍あっ甚ちょっとトイレ盗

匍とっとと行ってこい盃

匍は分い盃

華がトイレをすませて出てくると甚朔が女性二人から逆ナンを受け

ていた曷

匍おおっと盃

華は足を止め甚陰からこっそり覗いて様子を見る曷

匍ねえ甚いいでしょう?盇

匍私達と食事でもしようよぉ盇

猫なで声で朔にすり寄る大人な女性二人は甚ずいぶん自分に自信が

あるのだろうか曷

かなり強引にグイグイと朔に秋波を送っている曷

肉食女子とはよく言ったものだ曷

目つきが狩りをする肉食獣そのものだった曷

あの中に入っていけるか?

や甚無理だ曷

少し様子を見てみようと甚その場で待機していると甚見るからに朔

の顔が不機嫌になっていくのが分かる曷

だが甚そんな顔をしていてもかっこいい朔の顔は甚否が応でも女性

の視線を惹き付けてしまう曷

打てば響くようにツッコまれ甚傲岸不遜な性格を知っている華は甚

これまであまり気にしていなかったが甚朔は町を歩けばわずかな間で

女性を虜にしてしまうほどの容姿の持ち主だ曷

匍う りん 甚これで性格がよければ完璧なんだけど 益

残念ながら華に負けず劣らずの性格の悪さだ曷

匍残念イケメンとは朔のためにある言葉だよね~盇

重 |残念なの?紂

あずはの返しに甚華はうんうんと頷く曷

匍そうそう曷顔だけはいいんだけどね曷顔甚だ甚け甚は盇

あははっと笑っていたらいつの間にか背後に朔が立っていた曷

青筋を浮かべて笑う朔の目は笑っていない曷

華は頰を引きつらせる曷

匍さ甚朔甚さん.....曷いつの間に

盇

匍顔だけで悪かったな 益

匍聞こえてました?

匍 ああ甚バッチリな曷人がからまれているのを我慢して待ってるって

いうのに甚陰でこそこそ悪口か?

華はマズい! と視線を合わせられずうろうろさせる曷

しどろもどろになっていると甚先程朔をナンパしていた女性二人が

こっちにやって来た曷

匍ねえねえ甚なにしてるの?盃

匍一緒に行こうよ姦

朔は女性達から華の顔に目を移して甚ニヤリとなにか企んでいるよ

うな悪い顔をした曷

その顔を見て甚華の頭に危険信号が灯ったが甚逃げることもでき

ず曷

次の瞬間甚ぐいっと頭を引き寄せられ華の唇は朔に奪われていた曷

匍ん~ん~ん~! 益

離れようとしたが離れず
まるで女生
生きこ

見せつけるようこそれは

深いキスを続ける朔に甚華はパニック状態だ曷

抵抗する力もなくし甚朔にしがみつくことしかできなくなった頃甚

ようやく朔は唇を解放した曷

華は顔を真っ赤にし甚息も絶え絶えだ曷

そんな華に気分をよくした表情を浮かべ甚次に視線を女性達に向け

る曷

匍いつまで見てるつもりだ? 俺は妻とデュトで忙しいんだ盇

熱烈なキスを見てしまった女性達は顔を赤くし甚居心地悪そうに急

いで去って行った曷

匍やっといなくなったか盗

清 | 々したというようにふんと鼻を鳴らす朔に甚華は言いたいことが

たくさんある曷

だが甚結局はこの言葉に集約される曷

匍朔の馬鹿ぁ!盇

匍安心しろ曷華よりは頭のできはいい盗

匍そういうことじゃない!

匍じゃあ甚どういうことだ?盇

不敵に笑う朔の顔がなんとも憎らしい曷

匍嫌なら離れたらどうだ?

腰砕けになっていて甚しがみついていなければならないことを分

かっていながらそんなことを言うのだから本当に意地が悪い曷

匍やっぱり顔だけのくせにぃ 盇

悔 しいかな曷しかし甚朔が華を抱く手は優しく甚それが余計に悔

い 曷

そして甚一番はそんな朔のキスに嫌悪感を抱いていないことが悔し

い 曷

そんなこと甚決して口には出さないが曷

そんな端から見たらいちゃついてるカップルにしか思えない二人の

耳に甚大きな声が入ってくる曷

声のした方を見ると甚少し離れたところから鈴が華を指差してい

た 曷

鈴は急いで走ってくる曷

匍鈴? どうしてここに? 学校は?盇

匍やだなぁ甚華ちゃんたら曷今日の授業は午前中までだよ曷だから甚

学校帰りにゆう君とデュトしてたの盃

匍ゆう君?

ふと鈴の後ろを見ると甚以前に見せてもらった写真通りのチャラそ

うな男性が一緒にいた曷

本物を見るとなおのことチャラさが目立つ気がする曷

匍それよりも華ちゃん..... 盗

鈴は朔と抱き合っている華を見てニコニコと微笑む曷

匍うふふ曷仲良しさんだね盇

華は急いで朔と距離を取った曷

匍そ甚そういうのじゃないから盗

匍もう甚恥ずかしがらなくていいんだよ曷華ちゃんがご当主様のこと

大好きなのは知ってるから盃

匍へえ甚そうなのか盗

朔がニヤニヤしていたので甚華は慌てて否定する曷

匍違う違う!

匍そうか甚華は俺が大好きで仕方ないんだな

匍違うからっ曷学校でおかしな噂になってるだけ! 鈴甚お願いだか

ら余計なこと言わないで盇

華は必死である曷

朔はからかいのネタが見つかったように楽しそうにしているのでた

ちが悪い曷

匍 あっ甚挨拶がまだでした曷私甚華ちゃんの友人の三井鈴です曷こっ

ちは彼氏の波川雄大君です盃

匍ち殳すつ 益

金髪でたくさんピアスをつけたチャラそうな見た目の雄大は甚その

見た目通りに話し方もチャラかった曷

匍 な あなあ甚そいつ鈴の知り合い? むっちゃイケメンじゃん曷俺に

は劣るけどな盃

ケラケラと笑う雄大は甚とてもじゃないが品がいいとは言いがた

い曷

匍駄目だよ甚ゆう君曷一ノ宮様はすっごく偉い人なんだから盇

匍 な んだよ甚別に総理大臣ってわけでもないんだからいいじゃん盇

61 や甚ある意味総理大臣も目じゃないぐらい権力を持っているのだ

が甚一般人らしい雄大が分かるはずもない曷

朔 の持つ権力の大きさを知る鈴は甚平身低頭で朔に謝っている曷

匍すみません甚一ノ宮様!盇

必死で謝っている鈴を目にしても平然としている雄大の好感度はど

んどん減っていっている曷

お前が頭を下げろと曷

匍鈴甚そのぐらいで朔は怒らないからさ曷デゥト中なんでしょう?

匍あっ甚せっかくだからダブルデゥトしてもいいっすよ曷俺らこれか

らランチに行くんすけど甚奢ってくれよ甚おっさん盇

朔の頰がピクリと動く曷

匍鈴だって友達と一緒にランチしたいっしょ?盇

匍そりゃあ甚したいけど.....

匍じゃあ甚決まり々曷あんた一番年上なんだし奢ってくれるよな?盇

雄大は馴れ馴れしく朔の肩に手を乗せた曷

これはさすがに失礼すぎるので朔も本気でキレるかとハラハラした

筆と泠じつにが甚予思こ!又して明は忍!oなかった易

くヨフ・ファモニオーチー・ターディファ・フキ

そればかりか甚一緒にランチをすると言い出したのだ曷

これには驚いたが甚鈴は嬉しそうだったので華も拒否はしなか

た 曷

けれど甚ランチで雄大のおすすめの店に行く途中甚朔に問う曷

匍 よかったの? さすがにあの態度は朔も怒ると思ったのに曷私だっ

たら一発殴ってたかも盗

それはもうガツンと甚吹っ飛ばす勢いでいっていただろう曷一発で

すんだか分からないが曷

匍そうだな曷あの態度はいただけないが甚少し様子を見たい盇

匍なにか気になることでも?盗

匍あいつから血の臭いがする盗

匍血の臭い?

華は別に臭わなかった曷

匍気のせいじゃないの?盃

匍 いや甚これは術者としての直感みたいなものだ曷あいつ甚なにかあ

るかもしれない姦

朔 は確信しているかのように言葉には自信があり甚華はなにも言え

なかった曷

術者としての経験も実力も甚五色である朔が圧倒的に上なのだ曷

勘だからと甚華が軽く考え切って捨てることはできない曷

嬉しそうに惚気ていた鈴の顔が頭をよぎり甚なんとも言えない気分嬉しそうに惚気でいた鈴の顔が頭をよぎり甚なんとも言えない気分

になる曷

匍 ただの勘であってくれたらいいんだけど.. 盇

令りえし こうによい こりこぼう うかよかう こ号

雄大のおすすめという店で甚四人でランチを取る曷

なにげに学生が行くには高そうな店を選んでいるのは甚奢りを期待

してのことなのか分からないが甚そうだとしたらけっこうクズではな

かろうか曷

初対面の相手にねだる時点で相当失礼な人間だが曷

まあ甚一ノ宮グルゥプのトップである朔にしたら微々たるものなの

で本人は気にしていないようだが甚華はなんとなく引っかかる曷

なにはともあれ甚ずっと歩き通しだったので甚やっと椅子に座れて

ほっと一息吐けた曷

料理が運ばれてくるまでの間も雄大の馴れ馴れしい態度は変わらず

で甚幾度となく朔に無礼な言葉を投げかけては甚その度に鈴が謝ると

いうことを繰り返していた曷

優しくてかっこいいゆう君と聞いていたのだが甚彼のどこがよかっ

たのか甚鈴には悪いが華にはまったく理解できない曷

けれど甚鈴が雄大を見る目は恋する乙女そのもので甚楽しそうにし

ているのを見ると複雑な気持ちになる曷

おけと忠告すべきなのかもしれないとも思うのだが甚そんなことをし しかし甚鈴を心配する友人として甚ここははっきりこの男は止めて

たら鈴に嫌われないかと心配でもあった曷

雄大の言動にイライラとしながら食事を終えると店を出る曷

匍いやぁ甚マジうまかった盗

匍ゆう君甚一ノ宮様にお礼しないと曷ありがとうございます盇

匍ああ甚いい曷気にするな盗

匍だってよ曷さすが大人は気前がいいよな盗

鈴が頭を下げる横で甚礼の一つもない雄大には怒りを通り越して呆**

れてしまう曷

ふと鈴を見ると甚悲しげな顔をしていた曷

たまらず華は鈴の手を取ると甚匍トイレ行ってくる盗と言って無理

やり鈴を引っ張ってその場を離れる曷

自然と朔と雄大が二人きりになってしまうが甚朔ならばなんとかす

るだろう曷

そうしてトイレに行ったが甚特に計画があるわけでもなく甚何を話

していいか分からなかった曷

ただ甚あの場から鈴を連れ出したかった曷

沈黙が続く中甚ぽつりと鈴が謝る曷

匍ごめんね甚華ちゃん曷せっかくデュト中だったのに邪魔しちゃっ

て 盇

匍鈴が悪いんじゃないでしょう? どう考えたって悪いのは.

華は言葉を濁す曷

けれど甚じゅうぶん鈴には伝わった曷

匍ゆう君は最初本当に優しい人だったの曷本当だよ? けど甚付き

合ってくうちにだんだん人が変わってきたっていうか.. : 益

匍鈴は今日の彼の態度とか見てどう思った?

闱.....失礼すぎてあり得ないって思った盇

鈴は言いづらそうに呟いた曷

匍鈴はちゃんと分かってるじゃない曷鈴の友人としても彼はあり得な) 「ヨハ) 引ゃこうきこし よくり 元井 joy まぐり 元井 joy ららり 引ぐよ

りこて思ご唇ても甚それに私の気挟もて甚釤の気挟をしゃたり唇釤に

どうしたい? 本当にあの人と付き合っていける?盇

鈴はすぐには答えられず言葉に詰まっていた曷

匍私は鈴が選んだことなら応援する曷その選択が間違ってるのか正解

なのか分からないけど甚鈴が幸せだと最後に笑える選択をしてほし

曷相談ならいつでも乗るから盗

鈴は目を潤ませて甚静かに鼻をすする曷

グスグスと涙を流す鈴の頭を甚華は撫でることしかできない曷

けれど甚少し経てば鈴はいつも通りの笑顔を見せた曷

匍ありがとう甚華ちゃん曷 一度しっかり考えてみる

到う レ引令よ
引いナニュ・ラドノフハ) ノこらり、マフトラニニ五

匍見かけによらずってひどい盃

むくれる鈴に甚華は声を上げて笑った曷

朔達の所へ戻れば甚楽しそうに会話していた曷

いや甚楽しそうなのは雄大だけで甚朔の方はキレるのを我慢してい

るようにも見える曷

朔が限界を突破する前に甚二人に合流曷

雄大と鈴が話している隙に甚華も朔と話す曷

匍大丈夫だった? 奋

匍そう見えるか? 盗

匍えっと甚ぶち切れ一歩手前って感じ

無浬やり作った笑須が怖ハので甚自分こ句するのは止めてもらハた

い 曷

匍だが甚収穫はあった盗

匍なに?

匍 あの男甚これまでの被害者全員と面識があるようだ益

匍えつ!! 盇

大きな声で驚いてしまった華は慌てて両手で口を塞ぐ曷

鈴 の方を見て甚こちらを気にしていないのを確認してから手を離

す 曷

匍そこまでは分からないが甚放置はできないな曷華はあいつのことど

こまで知っているんだ?盇

匍 知っていることなんて鈴の彼氏ってことぐらいよ盇

匍止めておけ曷最悪甚お前の友人を巻き込むことになりかねん盗

匍じゃあ甚どうするの?盇

匍監視を付けて甚その間にこれまでの事件と関係があるか調べるしか

ないな曷念のためお前の友人には調査が終わるまで男に会うなと言っ

ておいた方がいい盃

匍ほんと甚よりによって盗

なんと迷惑な男だろうか曷

万が一雄大が原因で鈴が巻き込まれでもしたら甚華はやつを末代ま

で祟るしかない曷

本当はランチが終わったらそそくさと退散するつもりだったが甚鈴

1.隹人を1.しょうことするのよう矣ご 1.判沂 ノきむり後りデ殳・こ産

と朔も付き合うことにした曷

いつなにがあってもいいようにと気を張る華の眉間には甚知らず知いつなにがあってもいいようにと気を張る華の眉間には甚知らず知

らずのうちにしわが寄っており甚眉間を朔が人差し指で押す曷

目を瞬く華は甚優しく微笑む朔と目が合った曷

匍そんな気を張り続けていると疲れるぞ曷もう少し気楽にいけ盇

匍そんなこと言ったって盗

鈴が巻き込まれるかもしれないのだ曷華としては気楽になどいられ

ない曷

匍安心しろ曷俺がいるだろう曷俺がいる限り甚華も華の友人も護って

やる姦

それはどこまでも自信に溢れたものだった曷

朔の言葉を聞いて自然と華の肩から力が抜ける曷

とても偉そうで甚傲岸不遜だったが甚心から安心することができ

た 曷

まだそんなに同じ時を過ごしていないのに甚いつの間にか朔に対し

て信頼を感じるようになっていたようだ曷

優しく華の頭に置くその大きな手の温もりに力づけられる曷

匍うん曷ちゃんと護ってよ盗

華は小さく笑った曷

そして甚なにも起こらないままショッピングモゥルを出て帰り道を

歩く曷

後は見送るだけ曷

関わらないように告げよう曷

そんなことを考えて歩いていた逢魔が時曷ちょうど大きな空き地に

さしかかったところでそれはやって来た曷

最初に気が付いたのは朔だった曷

ピタリと足を止め甚急に周囲に視線を巡らせる曷

匍朔甚どうかしたの?盇

華の声で甚鈴と雄大も足を止める曷

匍華ちゃん?姦

匍なんすか?

二人も不思議そうな顔で朔に視線を向ける曷

次の瞬間曷

匍逃げろ!

突進してきた曷

匍きゃっ!

鈴と雄大は慌てて空き地の方へと走っていく曷

すると二人を追うように甚それも同じ方向へ走っていく曷

匍なんだ甚なんだよ姦

匍ゆう君!
ム

逃げ惑う二人は一緒になって黒いそれから逃れようとするが甚少し

鈴が遅れだした曷

とっさに雄大の腕を摑んだが甚あろうことか雄大は助けを求める鈴

の手を振り払ったのである曷

匍きゃあ 盇

勢いそのままに地面に倒れてしまった鈴の目の前で黒いそれが止ま

る曷

匍あっ . 盇

顔面蒼白で怯える鈴は必死に逃げようとするが甚足に力が入らない

ようで座り込んだまま後ずさることしかできないでいる曷

華 は反射的に鈴と黒いなにかの間に立ち塞がった曷

匍結 ! <u>益</u>

焦りをにじませた朔の声と共に甚華と鈴の二人を護るように結界が

作られた曷

朔の紀界たと理解すると甚れずかに安堵する圏

視線を巡らせれば雄大にも結界を張ったようで甚雄大は自分を囲う

結界の存在に目をぱちくりさせていた曷

なぜだか分からないが甚黒いそれは執拗に雄大を狙っていて甚目の

前にいる華達には目もくれず雄大へと向かっていった曷

最 初の攻撃は朔の結界に阻まれる曷けれど甚その一撃で朔の結界が

揺らいだ曷

あまり長く保たないことは術者であるならすぐに分かっただろう曷

朔も短時間で決着をつけることを選び甚黒いそれに向けて力を放

フ 麦

力が命中したそれは匍ぐぎゃぁぁ盇と苦悶の叫びを上げる曷

のたうち回る黒いそれは次第に形をはっきりとさせていった曷

匍犬?いや甚狼?盇

そう甚それはとても大きな黒い狼だった曷

目は血走り甚僧々しげに顔を歪めて甚ただひたすら雄大を睨み付け

ている曷

攻撃した朔を一瞥すらせずに雄大へ突撃した体当たりは朔の結界に

防がれたが甚結界の中にいる雄大は怯えて足がすくんでいるのか逃げ

ようとすらしない曷

匍葵 盇

華が呼べばすぐに葵が姿を見せた曷

匍葵甚鈴を家まで送っていって

匍主はどうするんだ? 盗

匍朔と一緒にあれを倒さないとでしょう?盇

不機嫌そうな顔をしているのは甚ここから離れることへの不満の表

れだろう曷

匍大事な親友だから葵に託すの曷お願いね盗

匍そんなこと言われたら断れないこと分かってて言ってるんだから甚

主はずるい

しぶしぶという様子で甚座り込む鈴を抱き上げる葵曷

匍えつ甚華ちゃん? この人は?

匍 私 の式神よ曷危ないから鈴は早くここから離れて盗

匍華ちゃんは?

華はそれには答えず甚にこりと微笑む曷

匍葵甚お願い 盗

匍分かった盗

匍華ちゃん!

長し J

嫯の形から下じよこと暴れる釤に手をかさす長

匍また今度詳しく説明するから盗

そう言ってスッと顔の前で手を振ると甚ゆっくりと瞼が下り甚鈴か

ら力が抜けた曷

葵に視線を送れば甚こくりと頷いて鈴を抱き上げたまま空き地から

離れていった曷

それを見送って華は朔の下へ駆け出した曷

雄大を囲む結界は今にも壊れそうで甚朔が必死に狼を滅しようとし

ているが甚朔の攻撃を受けても雄大から目を離そうとしない曷

そしてとうとう朔の結界が破壊される曷

華は体当たりするように雄大を突き飛ばした曷

それにより雄大に嚙みつこうとした牙は華の腕に食い込んだ曷

匍くう甚あああぁ!盇

あまりの痛さに目の前がチカチカする曷

けれど甚それと同時に狼の感情と記憶が走馬灯のように流れ込んで

きた曷

それは甚痛くて苦しくて言葉では言い表せない深い憎しみ曷そして

それらを包む悲しいほどの優しさ曷

華は腕の痛みに耐えきれずその場に倒れ込んだ曷

朔の声が遠くで聞こえる曷

今にも意識が飛びそうになったが甚ここで気絶するわけにはいかな

かった曷

今見た情景が本当なのだとしたら甚止めなければならない曷

朔が狼を攻撃しようとしているのを視界に捉えて甚苦痛に顔を歪め

ながらも身を起こす曷

あれを攻撃してはいけない曷

匍朔甚駄目! それは犬神曷たたり神よ盃

華の叫びに朔は攻撃するのを躊躇した曷

匍たたり神? どういうことだ? 盗

朔 は自分と雄大に結界を幾重にも張り直し甚守りの態勢に入る曷

華は傷付いた腕を無視して朔の結界の中に入ると甚座り込んでいる

雄大の胸ぐらを摑んだ曷

匍すべてはこいつが甚こいつらが元凶だったのよ!盇

怒りを込めて睨み付ければ甚雄大は匍ひっ盇と小さな悲鳴を上げ

た 曷

匍ここ最近起きていた犬の大量虐殺はこいつと甚他の被害者.....うう

甚被害者なんて呼ぶのはおこがましいわ曷狙われた三人とこいつが

やったことよ! 益

匍おい甚本当なのか? 盃

朔は声を荒げて雄大に問いかけるが甚雄大は怯えるだけで返事をし

ない曷

たまらず華は頭突きする曷

匍はっきりしなさいよ! あなた達が犯人なんでしょう!? 盇

華の迫力の前に甚雄大は言葉に詰まりながら頷く曷

匍こんの馬鹿野郎めがつ!

華 は渾身の力を込めて雄大の顔面に拳を叩き込んだ曷

匍がつ!姦

華にぶん殴られた雄大はそのまま後ろに倒れ気絶した曷

華は鼻息荒く雄大を見下ろす曷本当はもっと殴りつけたいがそれど

ころではなかった曷

すぐ側には結界を壊そうと攻撃を続ける犬神のなれの果てがいて甚

朔はたたり神を前に眉間にしわを寄せる曷

匍たたり神か.....曷厄介だな盇

たたり神は堕ちた神だが甚元は神である曷

五色の朔の力を以てしても甚人が神を祓うのは簡単なことではな

い曷

ましてや甚神を祓う.....つまり殺すということは甚神殺しの業を背

負うことになる曷

その代償がどんなものになるかはその時にならねば分からない曷

へ こり フリ・ハイ・ニュー ファラミニア ニョラ

カなじのリスクを伴う行為たった長

朔ですら躊躇う神殺し曷

けれど甚そんなことをさせるつもりは甚華にはさらさらなかった曷

華は結界から出るとたたり神に向かっていった曷

匍華 ! 盇

焦る朔の声が聞こえたが甚華はたたり神だけを見据えた曷

そして甚その首に抱き付くと甚拘束するように結界を張る曷大きく

暴れようとするたたり神を強く抱き締め叫 ぶ曷

匍あずは! 雅! 益

呼び声に応じてあずはが羽ばたき甚虹色の羽からキラキラと光る鱗

粉が頭上から降ってくる曷

そして甚犬神の周りで雅が手にした神楽鈴を鳴らした曷

シャラン甚シャランと鈴が鳴るに従い甚犬神は正気を取り戻したよ

うに落ちついていく曷

元々はこの地に住まう優しい神だった曷

だがそれ故に甚傷つけられ殺された犬達の恨みや憎しみの心を放っ

ておけず甚犬神は身の内に彼らの想いを受け入れた曷

たり神へと堕としてしまったのだ曷 けれど甚あまりに数が多く甚大きすぎる負の感情は犬神を蝕み甚た

匍あなたがこんなことをする必要はない曷こんな男のせいで甚あなた

が苦しめられることなんてないの曷この男にはそんな価値すらない盇

うなり声を上げた後甚犬神は初めて言葉を発した曷

.だが甚苦しいのだ曷憎いのだ曷身を焼くような恨みはこの男を

殺さなくては晴れることはない曷我を殺してくれ曷そうすればもうこ れ以上堕ちることはない曷恨みたくない曷傷つけたくない..

悲しいほどの慟哭曷

こんな男のせいでこれほどに心優しい神が苦しむなど理不尽だ曷

匍 あなたはまだ堕ちきってはいない曷優しい神様に戻って盇

重無理だ曷この身の中に取り込んだ哀れなる者達の強い想いが私を蝕

h でいる曷私と同調し私の意思では引き剝がせない紂

匍分かった曷私に任せて盗

華はたたり神の結界を解くと甚たたり神に力を流していく曷

は違う甚たたり神となってしまった犬神本来の力を強くするもの曷 それはあずはや朔に行った甚ただ力を強くさせるためだけのものと

澱んだ水を綺麗に洗い流すようなそんな力曷ょど

けれど甚それだけでは足りない曷

匍雅甚舞をお願い盃

匍かしこまりました盗

雅は再び神楽鈴を手にすると甚シャンシャンと音を鳴らしながら舞

い始めた曷

たたり神を中心にその周囲を舞い踊る曷

美しい鈴の音が心地よく響き渡り甚雅の身につけている羽衣がふわ

りと翻る度に甚その中心にいるたたり神の身を浄化していく曷

そして力を流し続けていた華は甚犬神と犬神に同調している負の心

との境目を探る曷

まるで針の穴に糸を通すような繊細な力の制御を必要とした曷

外界の音すら聞こえなくなるほどに集中する華にそれはついに見え

た 曷

雅の浄化の舞により甚犬神と同調する多くの犬達の負の感情との境

目を見つけた華は甚一気に境目に力を送り犬神を引き剝がした曷

それと共に勢いよく後ろに倒れた華を朔が抱き留める曷

華の腕の中には甚犬達の深い憎しみから解放された犬神の姿があっ

た 曷

華の倍以上の大きさがあった犬神は華の腕にすっぽりおさまるほど

の大きさになっていた曷

ほっと息を吐く華だが甚まだ終わってはいないと視線を上げる曷

先程までたたり神がいた場所には甚犬神を蝕んでいた犬達の恨みや

憎しみの塊が残されていたのだ曷

あれを放置すれば甚今度は妖魔となって別の被害を引き起こすだろ

う を

けれど甚妖魔になっていないならまだ取り返しは付く曷

匍雅甚彼らを浄化してあげて盇

雅 の持つ神楽鈴が涼やかな音を立てながら天へと捧げられる曷

すると甚犬達の強い強い想いは浄化され甚空へと還っていく曷

犬神はそれを華と共に悲しそうな眼差しで見送っていた曷

後には静寂が残される曷

朔は信じられないという顔で呆然としていた曷

華 は未だ抱き締めたままになっていた犬神に視線を落とす曷

匍もう大丈夫?

重ああ曷本当に助かった曷心からの礼をそなたたちに紂

そう言って甚犬神は華の頰を舐めた曷

くすぐったそうに小さく笑った華は甚次の瞬間甚ばつの悪そうな顔

をする曷

匍.....それでさ甚すご殳く言いづらいんだけど盇

重なんだ?紂

匍あなたから犬達の心を引き剝がすためにあなたに大量の力を流した

でしょう?盇

重そのようだな紂

匍あなたは弱っていたから甚そのせいであなたの中では私の力の方が

上回っちゃったわけなの曷で甚どうやら思いがけず調伏したような感

じになっちゃったようで.....

朔 は顔を引きつらせるが甚犬神にはどういうことか分かっておら

ず甚こてんと首をかしげる曷

匍えっと甚つまりね甚あなたを私の式神にしちゃったようなのよ盗

朔は顔を手で覆い甚匍マジか..... 盗と呟く曷

匍できれば解放してあげたかったんだけど甚私とあなたの間に繋がり

ができて切り離すのは難しいかもで曷ほんっとにごめん!盇

しかしこれは不可抗力だ曷

決して狙ったわけではない曷

重私は構わない曷そなたにはなにか礼をと思っていたのだ曷そういう

ことならば甚そなたが生きているうちはそなたの式神として従属しよ

つ約

犬神は華が思うよりあっさりと受け入れた曷

よかったと胸をなで下ろす華と違い甚朔は驚いた様子で犬神に聞き

返す曷

匍本気で言ってるのか? 神が人に従うと言うのか?蚕

匍なによ甚朔曷そんなに大きな声出さないでよ盔

匍出さずにいられるか曷神だぞ曷普通に術者の力で作り出した式神と

は格が違うんだ盃

匍本人がいいって言ってるんだからいいんじゃない?盇

なんとも軽い華の反応曷

だが甚朔が驚くのは無理もなく甚神とは普通プライドがかなり高い

のである曷

過去にも神を式神とした術者はいたにはいたが甚そう簡単に式神と

することなど許されない曷

今回は不可抗力で華と犬神の間に力の繋がりができてしまったが甚

その場合神が不満に思えば人に神罰を与えて殺してしまうことだって

できるのだ曷

決してそんなあっさり納得されるものではない曷

朔の驚きをよそに甚華はあまりに軽く甚そのことを深く考えていな

いようだ曷

今も甚匍式神になったなら名前決めないとね々盇などと楽しげに犬

神と会話している曷

匍嵐なんてどう? かっこいいでしょう? 盇

重嵐か曷よい名前だ紂

匍朔甚連れて帰っていいでしょう?盇

匍好きにしてくれ..... 盇

まるで捨て犬を連れて帰るかのような華に甚朔はもう言葉もない曷

匍いろいろと疲れた..... 曷早く帰るぞ盇

華の腕をきつく縛った曷しかしすぐに血がじんわりと滲んでくる曷 朔 はポケットからハンカチを出すと甚先程嵐に嚙まれ血が出ている

匍先に病院の方がいいかもしれないな盗

重すまない紂

ゅんとする

嵐の頭を

甚華は気にするなというように

撫でる

曷

匍大丈夫よこれぐらい曷雅甚あずは甚帰るより盇

華が呼べば二人はすぐに寄ってきたが甚なにかを忘れている気がす

る長

そう思っていたら甚少し離れたところで倒れていた雄大が目を覚ま

したようだ曷

匍あっ甚化け物は??

ぎゃあぎゃあ騒いでいる雄大の声で甚朔もその存在を思い出したよ

うだ曷

匍あれの始末を忘れてたか益

匍どうするの? まさか無罪放免になんてしないよね?

雄大とその仲間のせいで多くの命が失われ甚神聖なる神をたたり神

に堕としてしまったのだ曷

その罪は償ってもらわねば腹の虫がおさまらない曷

匍安心しろ曷知り合いの警察官に連絡して引き取りに来てもらう盇

そう言うと甚朔はどこかに電話し始めた曷

しばらくして連絡を受けてやって来た警察官に雄大を引き渡す曷

最後まで騒 いでいたが甚一連の犬の大量虐殺の犯人としてパトカゥ

に乗せられて行ってしまった曷

まうだろうけど甚殺すのは勘弁してやってくれ..... 匍あいつは人間の法で裁かれる曷この国の法律だと軽い罰になってし 盇

重ああ曷それでいい紂

殺したいほどに憎んでいただろう犬神..いや甚嵐の眼差しはとて

も穏やかだった曷

そのことに華も安心して家路につく曷

* * *

ど驚いたようだが甚とりあえずは新たな家族として受け入れられた曷 華の他の式神とも相性は悪くないよう曷 犬神を式神として連れて帰ると甚さすがの美桜もめまいを起こすほ

華は雄大を庇って受けた腕の怪我のせいで熱を出し甚ベッドの住人

となってしまった曷

怪我の原因となった嵐がすまなそうに横に座るので甚華まで申し

ない気持ちになってくる曷

だが甚数日もすれば体調も戻り甚学校へも行けるようになった曷

何日かぶりに学校へ行けば甚鈴が心配そうに駆け寄ってくる曷

匍もう大丈夫なの甚華ちゃん?奋

匍平気平気盔

鈴には甚熱で寝込んでいた華に代わり甚朔がある程度の説明をして

くれていた曷

最初こそ驚いていたようだが甚鈴も術者を目指す者曷

すぐに冷静になって朔の話を受け止めたようだ曷

を教えたのだが甚これまで力を隠していたことを水臭いと□られてし 熱が引いてからは何度か電話で話しており甚その時に葵や雅の存在

まった曷

けれど甚 一通り不満をぶつけた後は甚いつも通りの鈴に戻ったこと

に華は安堵したのだ曷

力があろうとなかろうと変わらぬ鈴の存在に華の心は助けられる曷

匍そう言えば甚鈴の彼氏のことは聞いた?

雄大は生き残ったもう一人と共に甚警察に捕まった曷

たたり神を生み出した原因となった二人に甚術者協会がブチ切れて

全勢力を動員して証拠集めに奔走したそうで甚あっという間に起訴さ

れたようだ曷

はないかと心配して登校してきたのだが甚鈴はケロリとしている曷 そのことを今朝聞かされた華は甚さぞかし鈴が落ち込んでいるので

匍あっ甚華ちゃん甚もう彼氏じゃないよ盗

匍えつ?盇

匍 ノ宮様に話を聞いたら甚驚くほど気持ちが冷めちゃって甚別れ

いしたの曷だから私とゆう君はもう無関係だよ盇 るってこと手紙にしてゆう君に渡してもらえるように一ノ宮様にお願

匍いつの間に..... 益

匍動 物にひどいことするなんてあり得ないもの曷百年の恋も冷めちゃ

うよ姦

そう口にする鈴はすっきりとした顔をしていたので甚華の心配も消

えていった曷

連の事件も終わり甚後始末は朔がすべて終わらせてしまったので

華がやることはない曷

なので甚自室でゴロゴロとしながら甚新たな式神となった嵐の毛に

顔をうずめるのが最近の至福の時だ曷

これがなんとも言えぬもふもふ感で甚嵐が文句を言わないのをいい

ことに存分に愛でている曷

匍だらけすぎだぞ盃

嵐から顔を上げれば甚朔が呆れた様子で華を見ていた曷

匍いらん盗

匍人を駄目にする魅惑のもふもふなのに盗

匍そんなことより甚柱石の結界が安定してきた盇

事件が解決したことで朔も手が空き甚ここ最近は集中して柱石に力

を送り続けていた曷

どうやらその成果が出てきたようだ曷

匍それなら私はお役御免?盃

匍そうなるな曷もう華の力を借りなくとも俺一人で維持できるだろ

う盔

匍やった殳盔

華は大げさなほどに喜んで両手を上げた曷

匍じ やあ甚これで契約満了曷約束の報酬は忘れてないよね?盃

華はニコニコ顔で問う曷

匍ああ曷ちゃんと報酬は払う盗

匍 わらい曷じゃあ甚手っ取り早く離婚届にも判押しちゃってね盇

のテンションが最高潮に達したところで甚それを冷ます朔の一言曷 たが甚それを振り払うように自由を手に入れたことを喜ぶ曷そんな華 瞬甚これで朔との関係もなくなるのかと考えると寂しさがよぎっ

匍しないぞ盇

匍へ?姦

匍だから甚離婚はしない盃

匍は?盇

華は言っている意味が分からなかった曷

なぜなら甚この結婚は結界のための契約婚曷

結界が完成したなら華はお役御免になるはず曷けれど甚朔は離婚し

ないと言う曷

匍どういうこと!! 盇

華は朔に詰め寄った曷

い る 曷

匍契約書にちゃんと書いてあるだろう?盇

匍え殳?盇

華は急いで朔と交わした契約書を引っ張り出し甚上からもう一 度確

認していく曷

そして甚最後の二行曷それは少し前に事件の捜査に協力するという

条件で加えられた文章だ曷

一つは問題ない曷

捜査に協力し解決すれば甚海の見える別荘をくれるというもの曷

けれど甚一番最後の一文は華に覚えのないものだった曷

報酬は契約満了と同時に支払われるが甚離婚には応じない曷そ

の後も夫婦関係を続けるものとするう?? なお甚不服がある場合は条

件追加後三日以内に申告すること?盃

疑問を投げかけるように朔の顔を見る曷

匍そうだ曷そして甚三日経っても華から文句が出なかったので甚夫婦

関係は今後も続行だ盃

匍さ甚詐欺だあぁ!盗

匍人聞きの悪い曷ちゃんと契約書を読んでいない華が悪い盇

確かに確認 しなかった華の責任だが甚そんな一文まで付け加えてい

るとは思わないではないか曷

匍そういうことで甚これからもよろしく頼む曷奥さん?盇

で器量よしなお嫁さんもらえばいいじゃない曷朔ならすぐ見つかるで 匍なんでえ? なんで急にこんなことするのよ曷さっさと別れて美人

理解不能という様子の華に甚朔は不敵な笑みを浮かべ甚頰に手を滑

らせる曷

華をじっと見つめる強い眼差しに甚背筋がぞくりとする曷

匍お前が俺を本気にさせたからだ甚華盃

言い終わる前に朔の唇が華の口を塞いだ曷

それは一瞬のことで甚けれど華の反論の言葉を防ぐにはじゅうぶん

だった曷

匍お前が欲しくなった曷偽物ではなく甚華と本当の夫婦になりたい盇

: : : : : : : : : : : : : : : : ~ | |

敷を持った眺差しが華を射賃き甚華は言葉が出すにハクハクと口を

開閉させることしかできなかった曷

匍早く俺に惚れろ甚華 益

意地が悪そうに口角を上げる朔に甚華は気絶したくなった曷

どうか夢であってくれ曷

そう願うが甚再び重ねられた唇に甚華はなにも考えられなくなるの

だった曷

本書は書き下ろしです曷

この作品はフィクションであり甚実在の人物嶌地名嶌団体等とは一切関係ありませ

ん 曷

クレハ

クレバ 大阪府在住。2016年、「東景を指った 白郷は竜王の豚の上で情報をむさばる アリアンローズ部人賞を受理してデ ピュー。原内はシリーズ化し、コラ ティズもされている。その他の著作に「鬼の花珠リシリーズ、「駅のられた黒淵 は寄せな販売リティブを自治したい 1] などがある。



カバーイラスト/ボーダー カバーデザイン/大同喜直 (next door design)

クレハ

角川文庫

令和3年12月21日 発行

ver.001

©Kureha 2021

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました 角川文庫『結界師の一輪華』 令和3年12月25日 初版発行

発行者 青柳昌行 発行 株式会社KADOKAWA

●お問い合わせ

https://www.kadokawa.co.jp/ (「お問い合わせ」へお進みください) *内容によっては、お答えできない場合があります。 *サポートは日本国内のみとさせていただきます。 *Japanese text only 本電子書籍の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信すること、あるいは ウェブサイトへの転載等を禁止します。また、本電子書籍の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。

本電子書籍購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず本電子書籍を第三者に譲渡することはできません。

本電子書籍の内容は、底本発行時の取材・執筆内容にもとづきます。

